神奈川県
川崎図書館
KANAGAWA

ものづくり情報ライブラリー

神奈川県立川崎図書館60年史

令和元年（2019）11月

神奈川県立川崎図書館

神奈川県立川崎図書館 60 年史

令和元年（2019）11 月

ものづくり情報ライブラリー
神奈川県立川崎図書館

神奈川県立川崎図書館の開館 60 周年によせて

神奈川県知事
黒　岩　祐　治

神奈川県立川崎図書館が、旧所在地である川崎区富士見の地において、1959 年（昭和 34 年）1 月に開館して以来、60 年の歳月が流れ、この間に、1,000 万人を超える方々にご来館いただきました。開館以来今日まで、当館の運営にご支援、ご協力いただいた皆様に、心から感謝し、深く敬意を表します。

開館当初の川崎図書館は、我が国の高度経済成長を担う京浜工業地帯に立地していたことから、自然科学や工業に関する資料を収集し、その提供を通じて、神奈川の産業発展の一翼を担ってきました。

1998 年（平成 10 年）には、自然科学、工学及び産業の分野に、より重点を置いた「科学と産業の情報ライブラリー」としてリニューアルオープンし、専門的な資料を充実させ、企業の技術開発などに貢献してきました。

その後、川崎市富士見地区の再編整備計画を見据えつつ、県立の図書館のあり方に関する様々な論議を重ねながら、移転先を検討した結果、2018 年（平成 30 年）に、交通の利便性が高く、先端企業や研究機関等が集積する、かながわサイエンスパークへ移転・再開館しました。そして、全国的にも例のない、ものづくり技術を支える機能に特化した「ものづくり情報ライブラリー」として、新たな道を歩み始めています。

こうした中、2015 年（平成 27 年）の国連サミットにおいては、国際社会全体の目標として、「持続可能な開発目標」、いわゆる SDGs が採択されました。

本県が主催した「SDGs 全国フォーラム 2019」において採択された「SDGs 日本モデル宣言」においても、革新的技術の導入などにより、地域が直面する課題に取り組むことが求められています。社会の変化に対応するため、質の高い知識・情報を提供する図書館の役割は今後ますます重要になります。

また、「活気あふれるかながわ」を実現するため、本県では中小企業・小規模企業活性化推進計画を推進しており、地域住民の生活と雇用を支えるこうした企業の方々にも川崎図書館を有効に利活用していただきたいと考えています。

これからも川崎図書館は、「ものづくり技術」を支える情報を提供し、県内産業の振興に寄与できる、マグネット力のある図書館となるよう、力を尽くしてまいります。関係の皆様におかれましては、引き続き温かいご理解とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

神奈川県立川崎図書館の開館 60 周年によせて

神奈川県教育委員会教育長
桐　谷　次　郎

神奈川県立川崎図書館は、2019 年（令和元年）に 60 周年の節目を迎えました。開館以来今日まで、川崎図書館の運営にご支援、ご尽力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

県教育委員会では、本県の教育の総合的な指針である「かながわ教育ビジョン」の重点的な取組の一つである「生涯学習社会における人づくり」を推進するため、県立の図書館を２館体制で運営しております。横浜市の紅葉ケ丘にある県立図書館では、社会・人文系の資料、神奈川に関する地域資料などの収集・提供に重点を置いておりますが、現在、「価値を創造する図書館」及び「魅せる図書館」といった新たな魅力を備えた図書館とするため再整備を進めています。

一方、川崎図書館は、設立当初から「工業専門図書館」としてスタートし、さらに 1998 年（平成 10 年）に科学技術と産業技術に力を入れた「科学と産業の情報ライブラリー」となりました。その後、かながわサイエンスパーク（KSP）への移転を契機に、様々なものづくりに携わる技術者、研究者やビジネスパーソンのために、基礎から最先端までの科学技術情報を提供する、全国的にもユニークな「ものづくり情報ライブラリー」として、再整備したところです。

再整備後の川崎図書館では、本格的なデジタル社会に対応するため、公共図書館としては先駆的な取組である、国内外の科学技術に関する電子情報を提供する電子ジャーナルやデータベースを、新規に導入しました。また、企業や団体の技術者、研究者などの「ものづくり」を志す皆様が利用しやすいよう、休館日を月曜日から日曜日に見直すとともに、閉館時刻を延長するなど、運営面の見直しも行いました。

さらに、川崎図書館は、技術者、研究者などの方々のみならず、人生 100 歳時代に向け、広く県民の皆様の「学び」や「学び直し」の機会を提供していくため、入門書のコーナーや利用者相互の交流のためのカンファレンスルームなどを整備しましたので、ものづくり分野を中心とした生涯学習の情報拠点の一つとして、県民の皆様に積極的に活用していただきたいと思います。

川崎図書館は、60 年の歴史を礎として、新しい時代に踏み出しました。神奈川の産業の「核」となる「ものづくり技術」の情報拠点として、また、生涯学習社会を支える県内の中核的施設として、鋭意、取り組んでまいりますので、関係者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新しい技術はここから生まれる
― 開館 60 周年を迎えて ―

神奈川県立川崎図書館長
堀　端　保　聖

神奈川県立川崎図書館は、このたび開館 60 周年を迎えました。

これもひとえに県民の皆様や関係機関の多くの方々のご支援、ご協力の賜であり、深く感謝申し上げます。

川崎図書館では、これまでも節目ごとにそれまでの歩みを振り返り、記念誌を発行してまいりました。本誌では、『神奈川県立川崎図書館 50 年史』以降の、最近 10 年を中心に記述いたしました。

設立以来、一貫して「工業専門図書館」として企業の技術開発の支援などに取り組んできた結果、当館は科学技術系の専門書や学術雑誌の蔵書、社史コレクション、特許や規格類の資料の充実度等から、全国でも特色あるユニークな専門的図書館との評価をいただいてまいりました。

しかしながら当館のサービス分野である科学技術の進展は、日進月歩であり、かつ、その内容は高度で複雑です。これまでも当館は、時代の要請をくみ取って、２度の大きなリニューアルなどで対応してきました。これからも常に時代に即応しようとする姿勢を変えることなく、科学技術の進展に対応してまいります。

また、資料の電子化の進行とともに、インターネット端末、スマートフォンの爆発的な普及の中で、情報があふれている現在、情報資源が適切かつ有効に活用されるように取り組んでいく必要もあります。こうした中で、当館では、全国の公共図書館としては初めて、海外の電子ジャーナル・データベース（IEEE Xplore、Scopus）を導入し、最新かつ内容が十分に検証された情報の提供を開始したところです。今後も、様々な観点から、どのように情報を提供していくことが最適か、検討を進めてまいります。

「ものづくり」は、人を幸福にするための創造的な活動であり、技術者や研究者の方々がそれを可能とするためには、様々な環境整備が必要です。当館もそのための重要な使命を担うものと考えています。

60 周年を迎え、当館は「新しい技術はここから生まれる」という自覚の下、「ものづくり情報ライブラリー」として、時代の変化に敏感かつ柔軟に対応し、県民の皆様のご期待に応えられるよう、努力してまいります。

今後とも、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

『神奈川県立川崎図書館60年史』目次

神奈川県立川崎図書館の開館60周年によせて　神奈川県知事　黒岩 祐治

神奈川県立川崎図書館の開館60周年によせて　神奈川県教育委員会教育長　桐谷 次郎

新しい技術はここから生まれる―開館60周年を迎えて―　神奈川県立川崎図書館長　堀端 保聖

年表（60年のあゆみ）

50周年記念式典　2008年11月13日

●第1部　50周年以降、移転までの活動（2008年～2017年）

1　館の概要 …… 1

1.1　理念　1.2　組織、運営　1.3　施設　1.4　主な統計

2　資料の構成と収集 …… 5

2.1　資料の構成と収集　2.2　資料の整備

3　科学技術室 …… 10

3.1　概要　3.2　配架資料　3.3　サービス　3.4　フロアでの展示・コーナーなど

4　ビジネス支援室 …… 17

4.1　概要　4.2　配架資料の概説　4.3　サービス　4.4　フロアでの展示・コーナーなど

5　社史室 …… 23

5.1　概要　5.2　配架の推移　5.3　サービス　5.4　展示・コーナーなど

6　化学文献室・書庫 …… 25

6.1　化学文献室　6.2　書庫

7　野庭収蔵センター（デポジット・ライブラリー） …… 25

7.1　寄贈・受入　7.2　物流等　7.3　資料の移送　7.4　点検　7.5　除籍

8　ミニ展示 …… 27

8.1　2008年度　8.2　2009年度　8.3　2010年度　8.4　2011年度　8.5　2012年度

8.6　2013年度　8.7　2014年度　8.8　2015年度　8.9　2016年度　8.10　2017年度

9　講演会・イベント …… 35

9.1　科学・技術関係　9.2　ビジネス支援関係　9.3　社史関連

9.4　小学生等を対象としたもの　9.5　図書館を紹介するもの　9.6　その他のイベント

10　協力・ネットワーク …… 45

10.1　協力事業の変遷　10.2　ネットワーク（科技ネット）　10.3　各種研修等

10.4　神奈川県資料室研究会事務局

11　刊行物・広報物 …… 50

11.1　科学EYES　11.2　SiL　科学と産業の情報ライブラリーニュース

11.3　テーマ別文献目録　11.4　やさしい科学しんぶん　11.5　社楽　11.6　その他

11.7　キャラクター：かわとくん

12　広報活動とその成果 …… 53
12.1　広報活動の努力　　12.2　広報活動の成果
13　2008 年から 2017 年のトピックス …… 55
13.1　施設の老朽化　　13.2　東日本大震災　　13.3　2017 年度のサービス

●第２部　KSP への移転と再開館

1　移転先の決定 …… 61
1.1　神奈川県の「緊急財政対策」と移転後の図書館のコンセプト（目指すべき図書館像）
1.2　KSP における図書館の入居場所の検討　　1.3　移転の準備
2　サービスの検討 …… 62
2.1　企業等によるものづくり活動の支援につながる高度で特化した機能の検討
2.2　５つの機能について　　2.3　新たな機能について
3　新図書館への移転の実際 …… 65
4　資料の移送 …… 66
5　新図書館での整備 …… 67
5.1　図書館設置条例の改正について　　5.2　施設について　　5.3　野庭収蔵庫について
6　再開館までの準備 …… 70
6.1　館内の案内板および掲示物　　6.2　新しい機能の研修　　6.3　内覧会・見学会の準備
7　再開館 …… 72
7.1　移転・再開館記念式典　　7.2　再開館日
8　新図書館の概要とサービス …… 73
8.1　新図書館の概要　　8.2　新図書館のサービス
9　イベント＆広報 …… 76
9.1　イベント　　9.2　広報

●第３部　富士見での記録

1　開館前後（1958～1959） …… 81
2　昭和 30 年代 …… 83
3　昭和 40 年代 …… 85
4　昭和 50、60 年代 …… 87
5　平成 10 年まで …… 89
6　科学と産業の情報ライブラリーとして …… 91

年表（60年のあゆみ）

昭和30年代

1958 年 11月1日	神奈川県立図書館条例（昭和33年条例第32号）をもって設置
	神奈川県立図書館組織規則(昭和29年教委規則第8号）改正により2課3係制
12月20日	落成開館式を挙行
1959 年 1月12日	館内閲覧業務を開始
3月20日	附属機関の設置に関する条例（昭和28年条例第5号）に基づき、神奈川県立川崎図書館協議会を設置
5月15日	商工資料室開室、工業所有権公報類の公開閲覧業務を開始
1960 年 1月13日	社会人に図書の館外個人貸出しを開始
4月20日	小中学生を対象に図書の館外個人貸出しを開始
7月1日	図書資料の複写サービスを開始
1961 年 4月16日	視聴覚資料の貸出し、また図書の工場等団体並びに大学生の館外個人貸出しを開始
1964 年 5月1日	自動車による工場巡回文庫を設け、工場、事業所の従業員に対し、配本を開始

昭和40年代

1965 年 9月1日	高校生に図書の館外個人貸出しを開始
1967 年 1月16日	書庫を増築、川崎市から取得
1969 年 7月16日	神奈川県立図書館組織規則改正により2課4係制
1970 年 8月18日	移動図書館車による青雲文庫を設け、工場、事業所の寮に住む勤労青少年に対し、配本を開始
1971 年 2月25日	特許庁により公開公報閲覧所に指定
6月2日	神奈川県立図書館組織規則改正により3課7係制
7月1日	理工学文庫を設け、他の公共図書館に対し、理工学関係図書の配本を開始
1972 年 8月1日	神奈川県立図書館組織規則(昭和47年教委規則第13号）が施行され3部7課制
1974 年 8月1日	神奈川県立図書館組織規則改正により3部8課制

昭和50、60年代

1978 年 11月17日	開館20周年記念「図書館まつり」開催（19日まで）
1980 年 4月1日	図書館協力車事業本格運行を開始
1982 年 12月16日	1階改修工事により障害者施設の整備と科学技術資料室の充実等を実施
1983 年 4月1日	神奈川県科学技術文献相互利用を開始
1984 年 3月31日	工場巡回自動車文庫（工場巡回文庫、青雲文庫）を廃止
4月1日	神奈川県立図書館組織規則(昭和59年教委規則第4号）が施行され3部8課制
12月1日	国立国会図書館データベースオンラインによる検索サービス業務開始
1985 年 4月1日	附属機関の設置に関する条例改正により、県立川崎図書館協議会と県立図書館協議会とが統合され、神奈川県図書館協議会を設置
	ファクシミリサービスを開始
9月19日	改修工事（空気調和設備全面更新、その他改修）のため休館
1986 年 4月19日	改修工事完了のため開館（1985年9月27日～1986年3月23日仮設図書館開設）
1989 年 2月15日	開館30周年記念式典を挙行

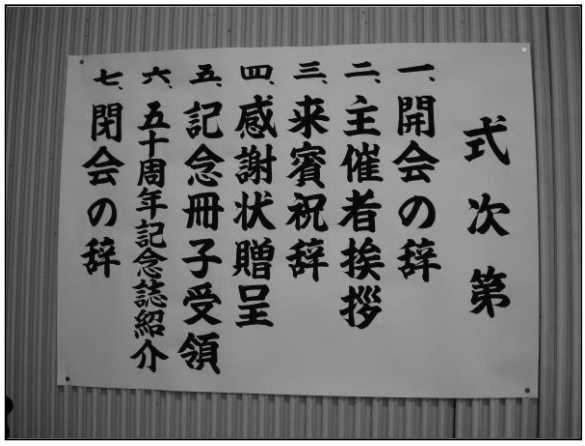
1990 年 4月24日	県立図書館において神奈川県立図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）一部稼働
1991 年 4月16日	神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）全面稼働
1992 年 3月31日	団体貸出しを廃止
1993 年 1月21日	特許検索用CD-ROMを導入
3月31日	理工学文庫を廃止
1996 年 9月17日	特許庁の特許公報類閲覧所の指定が解除され、知的所有権センター支部として認定
1998 年 1月7日	リニューアル工事のため、全館休館（4月15日まで）
4月1日	神奈川県立図書館組織規則改正により、3部7課制
4月16日	「科学と産業の情報ライブラリー」としてリニューアルオープン
2000 年 3月1日	神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）を更新
2001 年 4月1日	附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県図書館協議会を廃止し、それに代わる意見聴取のための図書館アドバイザー会議を設置 祝日開館を開始
6月5日	ITコーナー（インターネット一般公開）開設
2002 年 4月1日	図書館アドバイザー会議を廃止し図書館アドバイザーレクチャー制度の導入
2004 年 4月15日	生涯学習文化財課収蔵センターに科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリーを開設
2005 年 4月15日	神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）を更新
10月1日	ビジネス支援室（1階）を開設
2006 年 4月1日	神奈川県立図書館組織規則改正により2部6課制 やさしい科学コーナー・おすすめ本コーナー（1階）、化学文献室（地下1階）を開設
9月19日	生態学コーナー（1階）を開設
2007 年 10月12日	ビジネス情報クイックコーナー（1階）を開設
2008 年 9月12日	サイエンス・ナウ（Science Now!）コーナー開設
11月13日	開館50周年記念式典を挙行
2009 年 3月31日	生態学コーナー（1階）を廃止
2010 年 4月1日	神奈川県立図書館組織規則改正により1部4課制
2012 年 3月31日	知的所有権センター認定要領廃止（名称は継続使用） ビジネス情報クイックコーナー（1階）を廃止
2014 年 6月25日	「社史フェア2014」を開催（27日まで）
2015 年 9月11日	社史コレクションがテレビ番組「タモリ倶楽部」（テレビ朝日系列）で放映された
2016 年 11月25日	県立川崎図書館の移転に向けた意見交換会を開催
2017 年 10月1日	かながわサイエンスパーク（KSP、川崎市高津区坂戸3－2－1）への移転準備のため一 部休館（1階ビジネス支援室の供用休止、貸出・予約・リクエスト等休止）
11月22日	入館者数1,000万人を達成
12月1日	KSPへの移転準備のため2018年5月14日まで全面休館
2018 年 4月1日	KSPに移転 神奈川県立図書館組織規則改正により1部3課制
5月14日	移転再開館記念式典を挙行
5月15日	「ものづくり情報ライブラリー」として再開館

平成10年まで

科学と産業の情報ライブラリーとして

再開館

50 周年記念式典　2008 年 11 月 13 日



50 周年記念式典は、2008 年 11 月 13 日（木）に、川崎商工会議所５階講堂で開催した。当日は神奈川県議会文教常任委員長 いそもと桂太郎氏、県教育委員会教育長 山本正人らの来賓祝辞のあと、当館に長年功績があった方々として社団法人日本化学会に教育長感謝状、さくらネット川崎、村橋勝子氏、横井陽一氏、神奈川県資料室研究会（神資研）関係者の長縄友子氏、藤村和男氏、江崎哲朗氏に館長感謝状が贈呈された。

式典では、来賓に当館で作成した『神奈川県立川崎図書館 50 年史』『時代を映す社史の魅力 - 神奈川県ゆかりの「会社史・実業家伝記」一覧 - 』『みたいしりたいおもしろい－高校生のための情報活用術』が配布された。

式典後には、村橋勝子氏の講演会「楽しい！使える！『社史』の魅力」が開催された。

第１部　50 周年以降、移転までの活動
（2008（平成 20）年～2017（平成 29）年）

第１部は、おもに 2008（平成 20）年から 2017（平成 29）年を対象とし、川崎区富士見での「科学と産業の情報ライブラリー」としての特色ある活動について、各年度の「要覧（事業概要）」や過去の当館年史等を参考に記した。

年の表記は、特に必要な場合を除いて西暦を採用した。

野庭収蔵センターについては、本文中では「野庭収蔵Ｃ」と表記した。

ウェブサイト中の記事については、特に記載のない限り 2019 年７月から８月にかけて参照した。

1　館の概要

1.1　理念

神奈川県立川崎図書館（以下「当館」）は、1958 年 11 月 1 日に神奈川県立図書館条例により神奈川県第２の県立図書館として川崎市富士見（当時）に設置、12 月 20 日に落成開館式を挙行、1959 年１月 12 日に開館した。以来、工学、産業技術、自然科学分野の資料を重点的に収集し、産業の振興に役立つサービスに取り組むとともに、地域住民にとっては公共図書館の機能も果たしてきた。

1998 年４月に「科学と産業の情報ライブラリー」としてリニューアル後は、自然科学、科学技術分野の専門的な情報拠点として社会のニーズに対応した課題解決型のサービスの充実をめざして活動し、「全国的にも例のないユニークな図書館」として知られる存在となった。ここまでの活動については、過去の当館年史に詳しい。

2008 年に開館 50 周年を迎え、課題解決型のサービスの展開と資料整備を着実に進めるとともに、2014 年には神奈川県立図書館（横浜市西区紅葉ケ丘）と共通の基本理念を「神奈川県立の図書館は「知」を集積し、新たな「知」を育む「価値創造」の場として、神奈川の文化と産業の発展、社会づくりに寄与します。」と定めた。

近年は、科学技術の最新動向を踏まえて資料・情報を収集・保存・提供する「知の拠点」として、館内展示や各種講演会、講座など多彩で魅力的な「知の機会」を提供することを基本方針に、県域産業の活性化や県民の情報リテラシー向上、県域全体の図書館サービス充実にも努めてきた。

1.2　組織、運営

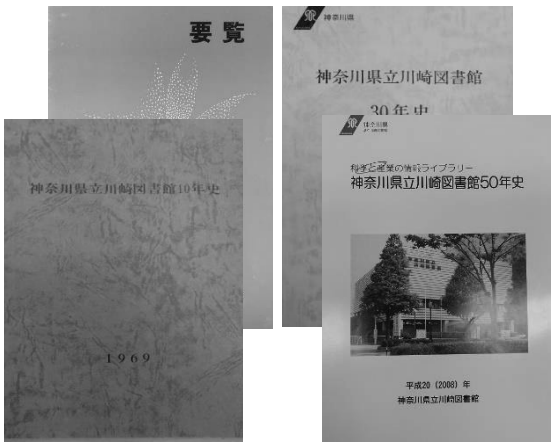
組織、職員については、館長（2010 年４月より 2018 年３月までは県立図書館と兼務）、副館長が配置され、その他の職員は、神奈川県立図書館組織規則改正により 2006 年４月より２部６課制（管理課、情報サービス部情報サービス課・産業情報課・ネットワーク事業課、図書資料部図書資料課・科学技術文献課）、2010 年４月より１部４課制（管理課、事業部科学情報課・産業情報課・資料整備課）のもとに配置されていた。

2008 年４月１日現在の職員数（非常勤等を含む）は合計 53 名（うち司書有資格者 38 名）、2017 年４月１日現在の職員数は合計 48 名（うち司書有資格者 35 名）であった。

開館時間は火曜日から金曜日が 9：00～19：00（社史室は 17：00 閉室）、土・日曜日、祝日が 9：00～17：00。休館日は月曜日（定例休館日）、毎月第２木曜日（館内整理日）、資料総点検期間、年末・年始だが、2008 年度以降、祝日にあたる月曜日を開館していた（祝

当館へのアクセス（2017 年４月時点）

神奈川県立川崎図書館
川崎市川崎区富士見２丁目１番４号
電話（044）233－4537
FAX（044）210－1146
ＪＲ川崎駅・京浜急行京急川崎駅下車
徒歩約 15 分
　バス　　川 04 系統市営埠頭行
　　川 10 系統水江町行　　他
　　教育文化会館前下車



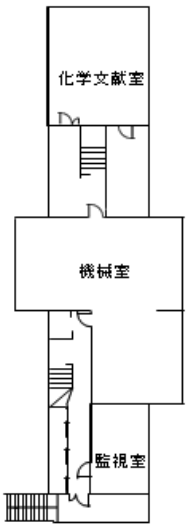
写真左より『神奈川県立川崎図書館 10 年史』
『要覧（神奈川県立川崎図書館・開館 20 周年記念）』
『神奈川県立川崎図書館 30 年史』
『神奈川県立川崎図書館 50 年史』

2015 年度と 2016 年度に司書職の新規採用職員が１名ずつ配置された。
新規採用の司書職員が当館に配置されたのは 1996 年度以来となった。
当時の当館刊行物「SiL」40 号（2015.8）によれば、2015 年度採用の職員は、初出勤の日、書庫にずらりと並ぶ雑誌のバックナンバーに圧倒され、書庫内で迷いかけたそうである。

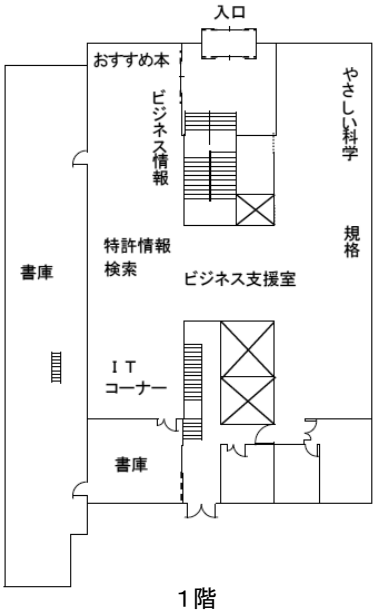
活動評価については達成すべき数値目標を設定し、各年度の「要覧（事業概要）」にまとめを公表している。

当館は「モダニズム建築」の建物として、近年も文献等に紹介された。
例：松隈洋．モダニズム建築紀行　日本の戦前期・戦後 1940～50 年代の建築．六耀社，2016，238p.

館内案内図（2017 年度要覧より）



地階



１階

日開館は 2001 年４月より開始した）。

2001 年以降、図書館運営について計画→実施→評価→改善のサイクル（PDCA）を実現し、運営の改善を図ることを目的として、図書館事業の活動評価を行っている。

2016 年度以降、かながわサイエンスパーク（KSP、川崎市高津区坂戸３丁目２番１号）移転に向けて所蔵資料の再整備に取り組み、移転作業のスケジュールやサービス計画等を検討するためのプロジェクト・チームを設置、具体的な検討を行った。

2017 年 11 月 22 日（水）、入館者数 1,000 万人を達成した。

1.3　施設

1958 年の設置後、1967 年に隣に建つ川崎市産業文化会館（1988 年より川崎市教育文化会館と改称）との間に書庫を増設したが、この後は書庫の増設は行われず、60 年間同じ建物を使用していた。2017 年度末の施設の概要は次のとおりである。

（１）土地

名称	面積	所在地
図書館敷地	1,252.90 ㎡	川崎市川崎区富士見２丁目１番４号（川崎市より借地）

※都市公園法に基づく公園施設設置許可（使用料：免除）

（２）建物

名称	取得年月日	延床面積	所在地
本館	昭和 33 年 10 月 29 日	2,856.13 ㎡	川崎市川崎区富士見２丁目１番４号
書庫	昭和 42 年１月 16 日	694.25 ㎡	同上
合計		3,550.38 ㎡	―

雑誌「新建築」34 巻１号（1959.1）より
設計監理　神奈川県建築部営繕課
　　創和建築設計事務所
　　吉原慎一郎　中西祐一
　　柴田　　正　山木信嘉
構　　造　内藤　才治　関山一夫
施　　工　合名会社関工務店

（3）建物の内訳

本館：鉄筋コンクリート造、書庫：鉄骨鉄筋コンクリート造

本館　地階 271.86 ㎡　機械室、化学文献室（２席）

１階 955.68 ㎡　ビジネス支援室（85 席）、知的所有権センター支部、ビジネス関連資料、ビジネス新聞・雑誌、規格関連資料、特許関連資料、かながわの自然と産業、川崎公害裁判訴訟資料、やさしい科学コーナー、IT コーナー、書庫

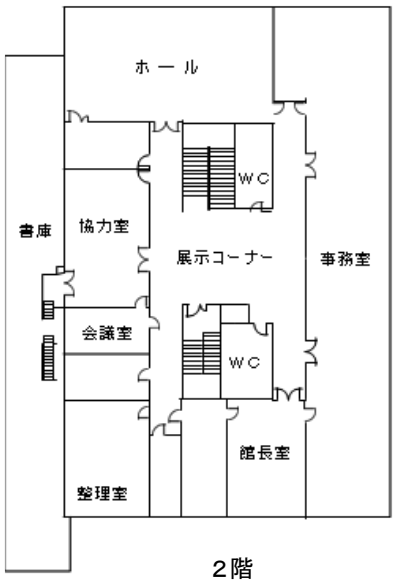
２階 876.17 ㎡　館長室、事務室、整理室、産業情報課準備室、ホール、会議室、展示コーナー、協力室、書庫

３階 1001.17 ㎡　科学技術室（110 席）、インターネット情報検索コーナー、ポピュラーサイエンスコーナー、サイエンス・ナウコーナー

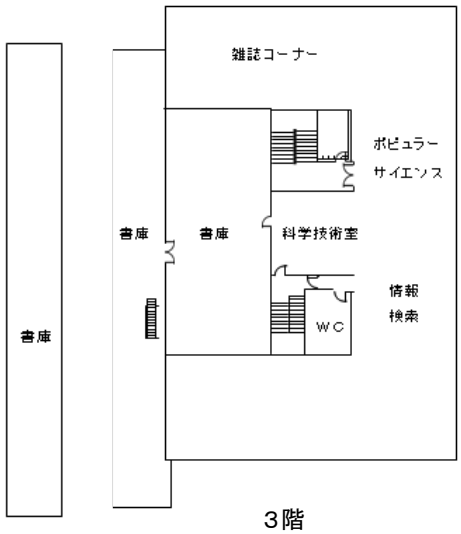
書庫　４階　387.24 ㎡　社史室（４席）、書庫

塔屋　58.26 ㎡

合計 3,550.38 ㎡　合計座席数 201 席



２階



３階

Ｍ３階

（4）　野庭収蔵庫（デポジット・ライブラリー）

ア　施設　：文化遺産課収蔵庫

横浜市港南区野庭町 1660（旧県立野庭高等学校）

北棟３階　426.24 ㎡　事務室、書架（雑誌）

北棟４階　461.76 ㎡　書庫（図書・雑誌）

南棟４階　603.84 ㎡　書庫（雑誌）

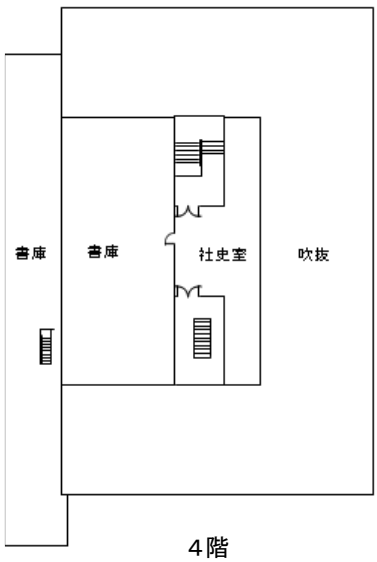
計 22 教室　1,491.84 ㎡

イ　収蔵資料（平成 29 年３月末現在）

図書　約 41,000 冊

雑誌　科学技術雑誌(外国語)　1,780 誌

科学技術雑誌(日本語)　332 誌



４階

1.4　主な統計

最近 10 年の開館日数・入館者数・個人貸出冊数、蔵書冊数、逐次刊行物所蔵タイトル数は次のとおりである。

（1）年度別入館者数・個人貸出冊数

区分 年度	開館日数	入館者数		個人貸出冊数
			1 日当り	
2008（平成20）	296	212,930	719	43,926
2009（平成21）	296	229,150	774	47,794
2010（平成22）	291	215,929	742	47,324
2011（平成23）	294	205,122	698	48,646
2012（平成24）	296	195,413	660	47,838
2013（平成25）	297	184,050	620	46,631
2014（平成26）	296	162,915	550	41,244
2015（平成27）	293	154,234	526	36,921
2016（平成28）	294	148,886	506	34,694
2017（平成29）	198	88,010	444	16,795

※2017 年度は、KSP への移転のため 10 月から一部開館、個人貸出休止。12 月から全面休館。
出典：神奈川県立川崎図書館「要覧（事業概要）」平成 21 年度～平成 30 年度　第 21 表「年度別入館者数・個人貸出冊数」

（2）年度別・分野別蔵書冊数

年度	蔵書冊数	0 総記	1 哲学・宗教	2 歴史・地誌	3 社会科学	4 自然科学	5 工学・工業	6 産業	7 芸術・娯楽	8 語学	9 文学	社史	規格・抄録	児童書
2008	236,900	14,254	462	7,192	15,546	46,919	101,682	14,894	596	748	2,661	14,574	5,515	11,857
2009	241,823	14,522	270	7,128	15,858	48,727	104,386	15,232	306	717	2,615	15,214	5,549	11,299
2010	245,994	14,764	280	6,105	16,159	49,788	106,891	15,511	321	595	2,620	15,674	5,647	11,639
2011	246,191	14,794	294	6,254	14,242	50,509	108,817	13,959	314	594	2,627	16,154	5,751	11,882
2012	249,666	14,950	293	6,325	14,397	51,084	110,351	14,180	322	582	2,627	16,590	5,831	12,134
2013	252,734	15,053	292	6,407	14,447	51,718	111,684	14,326	328	536	2,626	17,072	5,884	12,361
2014	255,368	15,125	306	6,472	14,501	52,166	112,837	14,484	329	536	2,622	17,508	5,962	12,520
2015	258,799	15,200	309	6,518	14,611	52,586	113,861	14,607	332	536	2,622	17,978	6,971	12,668
2016	260,640	15,220	311	6,528	14,582	52,896	114,660	14,691	332	534	2,596	18,515	7,029	12,746
2017	258,837	15,198	296	5,742	14,244	52,841	115,085	14,277	313	503	2,588	19,015	7,101	11,634

出典：神奈川県立川崎図書館「要覧（事業概要）」平成 21 年度～平成 30 年度　第１表「部門別蔵書冊数」

（3）逐次刊行物所蔵タイトル数

年度	所蔵タイトル数	主題別内訳											
		情報科学・総記	工業基礎・生産管理	土木・建築工学	環境工学	機械工学	電気・電子工学	化学工業	その他の工学・工業	自然科学	（内、外国化学雑誌）	産業・社会科学	科学技術系外国語雑誌
2008	8,288	246	985	621	439	563	676	366	607	1,564	(1,959)	654	1,567
2009	8,289	245	986	626	441	569	677	366	605	1,554	(1,979)	634	1,586
2010	8,410	249	999	635	441	571	681	367	607	1,568	(2,047)	639	1,653
2011	8,485	251	1,012	643	441	575	690	369	610	1,579	(2,070)	639	1,676
2012	8,533	253	1,018	648	452	578	697	372	616	1,591	(2,073)	629	1,679
2013	8,603	254	1,021	652	453	580	698	373	615	1,596	(2,128)	627	1,734
2014	8,638	252	1,021	653	452	582	697	372	616	1,599	(2,160)	628	1,766
2015	8,676	253	1,031	655	455	585	704	372	617	1,606	(2,161)	631	1,767
2016	8,699	255	1,033	657	457	583	706	374	616	1,608	(2,174)	630	1,780
2017	8,663	252	1,035	655	456	583	706	374	615	1,596	(2,174)	611	1,780

出典：神奈川県立川崎図書館「要覧（事業概要）」平成 21 年度～平成 30 年度　第２図「部門別雑誌構成比」

2　資料の構成と収集

2.1　資料の構成と収集

2.1.1　この 10 年間の所蔵資料概要

2008 年度末の所蔵資料は図書資料 23 万 6,900 冊、雑誌 8,288 誌（うち継続 2,441 誌）、新聞購入 18 紙、寄贈 21 紙、視聴覚資料 1,649 点であった。移転前の 2017 年度末数は図書資料 25 万 8,837 冊、雑誌 8,663 誌（うち継続 2,017 誌）、新聞購入 6 紙、寄贈 21 紙、視聴覚資料 1,589 点となっている。図書資料の過半数が寄贈による受入であることは変わっていない。雑誌については所蔵タイトルの増加に対し、継続誌の数は減少している。また 2017 年度末の新聞購入タイトルが減っているのは、収集方針の変更に伴い見直しを行った結果である。（累積統計については「1.4　主な統計」を参照）

県内企業情報センター等との協同による科学技術系外国語雑誌「デポジット・ライブラリー」について、2015 年にコレクション評価が行われた。これは神奈川県資料室研究会が佐藤翔氏（同志社大学免許資格課程センター：当時）に委託して実施されたものである。この結果「県内の大学図書館と比較して、10 指に入る種類数」「仮に購読していた場合、過去 10 年分で約 1 億円以上の費用を必要とした可能性のある」コレクションであると評価された。

佐藤翔. 神奈川県立川崎図書館「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」のコレクション評価. 佐藤翔, 2015, 31p.

2.1.2　収集方針

当館の資料収集は「神奈川県立川崎図書館資料収集要綱」に依っている。収集要綱は、1998 年のリニューアル時、「資料収集方針」ほか資料別にあった複数の「資料収集方針」を整理して制定されたものである。2012 年には資料収集要綱が改正された。主な変更点は収集資料の項目から「灰色文献資料」及び「かながわの科学情報」の記載を削除したこと、「科学技術入門資料」の名称がなくなり「児童、青少年等を主な対象とした科学・産業技術分野の図書」が「科学・産業技術図書」部分にまとめて記載されたことなどである（灰色文献は 2007 年 11 月にコーナーを撤去している）。ほかに、非図書資料の表現が改められた。

2018 年度に「ものづくり情報ライブラリー」として移転・開館するにあたり、前年度から収集要綱についても検討を行った。従来「科学・産業技術分野に関する県民の広範なニーズに対応できる資料の収集」を基本方針としていたが、「ものづくり技術分野に関する県民の広範なニーズに対応できる資料の収集」と改められた。このほか、「児童、青少年等が科学・産業技術に親しむための入門資料の収集」から、対象年齢を限らない「ものづくり技術に親しむための入門資料の収集」へと改めた。また非図書資料について、電子ジャーナル

神奈川県立川崎図書館資料収集要綱

(2012)

（目的）

第１条 この要綱は、「図書館法」（昭和 25 年法律第 118 号）及び「神奈川県立図書館組　織規則」（昭和 59 年教育委員会規則第４号）に基づき、図書館事業を適正に遂行するため、図書館資料の収集に関し、必要な事項について定めるものとする。

（基本方針）

第２条 科学・産業技術分野に関する県民の広範なニーズに対応できる資料の収集を基本方針とし、次のとおり収集する。

(1) 科学・産業技術分野に関する資料を幅広く収集する。

(2) 県内の公共図書館及びその他の類縁機関を支援するために必要な資料を収集する。

(3) 児童、青少年等が科学・産業技術に親しむための入門資料を収集する。

（収集資料）

第３条 収集資料は、次に掲げるものとする。

(1) 科学・産業技術図書

ア　科学・産業技術分野の図書

イ　科学・産業技術分野を補完する人文・社会科学分野の図書

ウ　国内外の特許及び関係資料

エ　国内外の主要な工業規格類及び関係資料

オ　科学・産業技術分野の年鑑・年報類及び科学・産業技術分野を補完する社会科学分野の年鑑・年報類

カ　児童、青少年等を主な対象とした科学・産業技術分野の図書

(2) 逐次刊行物

ア　科学・産業技術分野の雑誌及び、科学・産業技術分野を補完する社会科学分野の雑誌

イ　新聞類

(3) 社史類コレクション

ア　会社史

イ　その他、社史類の研究及び調査を目的とする資料

(4) 非図書資料

ア　電子資料（マルチメディアを含む CD-ROM、DVD 等）

イ　電子情報（データベース、電子ジャーナル、電子書籍等）

ウ　映像資料（DVD、ビデオ等）

エ　その他

(5) その他館長が必要と認める資料

（資料選定）

第４条　収集資料は、「神奈川県立川崎図書館資料選定会議要綱」に規定する神奈川県立川崎図書館資料選定会議において審査の上、選定する。

（実施細目）

第５条　この要綱に定めるもののほか、図書館資料等の収集に関し必要な事項については、館長が別に定める。

附則

１　この要綱は、平成 10 年４月１日から施行する。

２　「神奈川県立川崎図書館図書資料収集方針」（昭和 59 年３月 31 日伺定）は廃止する。

３　「産業資料収集方針」（昭和 51 年６月 30 日伺定）は廃止する。

４　「視聴覚資料収集方針」（昭和 51 年６月 30 日伺定）は廃止する。

５　「こども・一般図書室用図書収集方針」（昭和 59 年３月 31 日伺定）は廃止する。

附則

この要綱は、平成 15 年 12 月 12 日から施行し、同年４月１日から適用する。

附則

この要綱は、平成 24 年４月１日から施行する。

（2012 年度現在）

全国信金歴史ずらり　社史 120 冊新たに　県立川崎図書館　一般公開向けて準備．神奈川新聞．2009.7.15,川崎版.

の導入に備えて項目の設定から改めた。

この他、県立両館の所蔵資料の分担収集について定めた「神奈川県立図書館及び県立川崎図書館の所蔵資料に関する分担収集実施要項（旧：神奈川県立図書館及び県立川崎図書館館内用図書分担収集要項）」、より具体的な収集に関する「神奈川県立川崎図書館資料収集実務マニュアル」についても併せて改訂を行った。改訂にあたっては県立図書館の担当課と調整を行った。

2.1.3　重点収集

特定テーマについて重点的・系統的に収集し、入門から専門書までカバーする資料群を構成することを目的に重点収集を行っていた。2006 年度「環境」、2007 年度「先端科学技術」、2008～2009 年度「情報」関連資料などである。2010 年度には、その役割を一旦終えたとして終了、各閲覧室での時宜的テーマの資料展示を補充するための資料収集に転換した。

2.1.4　「住民生活に光をそそぐ交付金」

「住民生活に光をそそぐ交付金」は、2010 年度補正予算で創設された「地域活性化交付金」であり、片山善博総務大臣（当時）は「知の地域づくり」への支援先として具体的に図書館を挙げている。2011～2012 年度にかけて神奈川県立の図書館に総額約 6,000 万円が交付された。この予算は基本的に県立図書館に交付され、購入業務はすべて県立図書館で行われた。当館は県立図書館と予算の調整を行い、選定リストを提出した。特に 2012 年度には DIN（ドイツ連邦規格）、SAE（米国自動車技術会規格）、JEITA（電子情報技術産業協会規格）など規格資料を中心に充実を図った。当館に配置された 1,287 冊の資料については 2013～2014 年度に管理換えを行い、正式に当館の所蔵資料となった。

2.1.5　緊急雇用を利用した資料の整備

2009 年度から 2013 年度まで、国の「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を利用した資料の整備が行われた。これ以前にも同制度を利用して社史や川崎公害裁判訴訟記録などのコレクションの整備を行っていた。2009 年度からの作業では和雑誌の現物と所蔵データとの突合作業を行い、整合性の確認作業を実施した（2009 年度は延べ 186 人／日、3,564 タイトル）。また同年、ビジネス関連ビデオ約 1,500 本のデータ入力と装備を行った。ほかに 2009～2011 年度には所蔵規格資料のリスト作成、2012 年度には所蔵資料の付録の電子媒体資料（CD-ROM 等）の整備などを行った。

2.2　資料の整備

2.2.1　図書

（1）装備

図書には、原簿により固有の資料番号（８桁のバーコード番号）が割り当てられる。その番号を図書の左見開きの見返し下部にナンバリングし、受入年月日を押印する。バーコードラベルを貼付、天には県章印を押す。

（2）分類・ラベル

①一般書　日本十進分類表（以下「NDC」）９版により、分類記号は最大５桁とする。図書記号は自動採番を行い、受け入れた順に番号を付与する。４段ラベルを使用。

②児童書　NDC９版により、３桁で分類する。図書記号は付与しない。２段ラベルを使用。

③社史　NDC６A版により、分類記号は最大４桁とする（分類は創業時の業種による）。社史は分類の頭に「S」、労働組合史には「L」を付ける。図書記号は会社名の頭文字をアルファベット（訓令式）で付与。３段ラベルを使用。ラベルは１種類のため、貸出不可の図書の背には「館内」シールを貼付した。

④規格　図書として１冊ずつ登録したものと未登録のものが混在している。登録した図書は、一般書に準じて分類し、ラベルを貼付した。

（3）データ登録

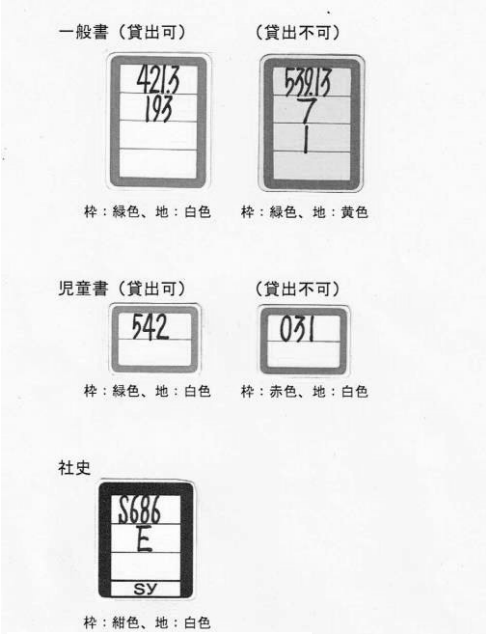
2016 年１月に図書館システムのバージョンアップ（日立 LOOKS→ADWORLD）があり、移行後は一時的に凍結していた一部のデータの修正や確認作業を行った。また、図書の書誌データは、NS（日販）MARC のサービス停止に伴い、2017 年度より THN（トーハン）MARC を使用することとなった。

付属資料については、個別の書誌データを持たず、本体のデータに情報を入力していたが、2012～2013 年に CD-ROM や DVD などの付属電子媒体については遡及してデータを作成し、インターネットでの予約や貸出延長に対応できるようになった。

（4）配架

一部 NDC 分類によらないクラスタ配置等、別置記号を付けての配架方法で利便性を図った。

①コンピュータ・情報クラスタ（2009 年度～）：2008 年度より、「情報」分野の図書を探しやすくするための分類を新たに考案し、それに基づく配架の試みを始めた。2009 年度はさらにわかりやすいように再編成し、テーマごとにアルファベット（A～E）と数字（０～９、99）を付けたラベルを貼付し、件名には



ラベルの種類

コラム

社史は、基本的には創業時の業種で分類している。例えば、三菱重工業株式会社は長崎造船所として創立したので、造船業の分類（S550.6）になる。

分類記号		内容
A 情報科学	0	レファレンスブック
	1	情報理論
	2	情報と社会
	99	その他
B コンピュータ・システム	0	コンピュータ・システム全般
	1	Windows
	2	UNIX/Linux
	3	MacOS
	4	ハードウェア
	5	ネットワーク
	99	その他
C プログラミング	0	プログラミング全般
	1	C/C++
	2	Java
	3	Windowsプログラミング
	4	スクリプト言語
	5	Web技術〈言語〉
	6	Web技術〈コンテンツ作成・管理〉
	99	その他の言語

分類記号		内容
D データベース	0	データベース全般
	1	SQL
	2	Oracle
	3	Access
	99	その他のデータベース
E アプリケーション	0	パソコン・インターネット入門
	1	文書作成・統合ソフト
	2	表計算
	3	プレゼンテーション
	4	グラフィックス
	5	DTP
	6	CAD
	99	その他のアプリケーション

ラベルの見方

007.63
2399
情B1

コンピュータ・情報クラスタ

キーワードを入力した。技術の進歩や冊数の増加に伴い、2012 年度には区分の見直しを行った。

②環境クラスタ（2007 年度～2015 年 12 月終了）：環境を 10 項目に分け、それぞれ書誌データとラベルに表示を行った（2010 年度からは６項目に変更）。クラスタ解体後は、NDC 分類での配架に戻すこととなった。

③科学者の伝記（2008 年度～）：科学者を 16 の分野に分けて別置記号を入力、ラベルに表示し、配架を行った（2011 年からは 20 項目に変更）。

④実業家の伝記（2014 年 10 月～2018 年９月）：公開書架の実業家の伝記について、新たに被伝者ごとの番号（名字のカタカナ１文字＋番号）を付与、別置記号への入力を行った。

⑤ビジネス関連資料コーナー（2012 年度～2018 年９月）：ビジネス情報クイックコーナーとものづくりコーナーの見直しを行い、新たにビジネス関連資料コーナーとして整備を行った。

６のテーマ	「日本十進法」の分類番号	テーマに含まれる主な内容
① 地球環境	519	地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、海面上昇、砂漠化
② 自然保護	468 ～ 468.8、519.8	自然保護法、里山、棚田、水資源保護、自然保全、生物多様性、生態系の破壊、生態学
③ 環境教育	375、519	環境教育、環境思想、環境倫理学、環境社会学
④ 循環型社会	518.52、519.7	環境マネジメント、リサイクルシステム、環境科学、省エネ・省資源、環境負荷低減技術
⑤ 環境政策	519.1、519.12、519.13、519.15	環境法、環境計画、環境共生都市、環境アセスメント、環境保全
⑥ 環境汚染	519.2 ～ 519.6	公害問題、大気汚染、水質汚染、土壌汚染、海洋汚染、化学物質汚染、有害物質、環境騒音・振動

環境クラスタ

入力語		入力語	
数学者…	ｽｳ	物理学者…	ﾌﾞﾂ
化学者…	ｶｶﾞ	天文学者…	ﾃﾝ
植物学者…	ｼｮｸ	動物学者…	ﾄﾞｳ
医学者…	ｲｶﾞ	建築家…	ｹﾝ
環境学者…	ｶﾝ	博物学者…	ﾊｸ
地球科学者…	ﾁｷｭ	生物学者…	ｾｲ
機械工学者…	ｷｶｲ	測量家…	ｿｸ
電気工学者…	ﾃﾞﾝ	土木技術者…	ﾄﾞﾎ
技術・工学…	ｷﾞｼ	海洋工学…	ｶｲ
自然科学…	ｼｾﾞ	その他…	(ﾌﾞﾗﾝｸ)

科学者の伝記（20 項目版）

（５）書庫入れ

発行から相当年数が経過、または新版が刊行された場合や、利用頻度の低い図書については、随時書庫入れを行い、効率的で分かりやすい書架を維持するように努めた。書庫入れに際しては、ラベルの最下段を赤マジックで塗ることにより、公開図書との区別をつけた。通常は、図書館内の書庫に配架されるが、書庫の狭隘化から、年に１回程度、野庭収蔵Ｃへ移送した。

2.2.2　逐次刊行物

（１）雑誌

雑誌の受入は、各号の表紙に受入印を押し、請求記号を記入している。その際、購入誌は黒色、寄贈誌は赤色のインクを使用し、資料データに依らず購入と寄贈の識別ができるようにしている。請求記号は頭に「Ｚ」を付け、NDC９版により最大５桁で分類。書店から購入している雑誌については、毎週納品日にデータ入力と装備を行い、迅速な資料提供に努めた。

雑誌のタイトルが変更になった場合は、改題前誌と改題後誌の情報を入力し、請求記号はそのまま継承する。欠号がある場合は、欠号部分を除いて所蔵する巻号のみを記録、あるいは、所蔵する初号と終号を記録して最後に欠号状況を補記している。

（２）年鑑・年報

毎年継続購入する年鑑・年報については、1981 年より受入整理が簡略化され、雑誌と同じ方法での整理が行われてきた。それにより、利用までの時間短縮は図れたものの、１冊ずつの書誌データを持た

ないことから蔵書管理が難しく、今後の課題となっている。

（３）新聞

新聞は、最新を公開し、それ以外は所定の保存期間（１年・２年・５年）書庫に保管している。一般紙の利用は非常に多く、閲覧希望者が順番を待つこともあった。

	請求記号	紙名		請求記号	紙名
あ	071 A	赤旗	さ	335 S	生産性新聞
	071 A	朝日新聞		335 Z	全国商工新聞
か	361 K	解放新聞　神奈川版	た	335 25	中小企業振興
	570 K	化学工業日報		540 D	電波新聞
	670 17	かながわ商店街･おみせ新聞		071 T	東京新聞
	071 K	神奈川新聞　横浜･川崎版		Z576 1	塗料界新報
	585 K	紙之新聞	な	071 N	日刊工業新聞
	318 G	議会かながわ		537 36	日刊自動車新聞
	370 5	教育家庭新聞		071 N	日本経済新聞
	318 26	県のたより		335 N	日本経団連タイムス
	315 3	公明新聞	は	315 2	民進
さ	586 19	産繊新聞		577 N	Paint&Coatings Journal
	315 1	自由民主	ま	071 M	毎日新聞
	315 4	社会新報	や	071 Y	読売新聞
	670 S	商経機械新聞			

継続新聞一覧（2017.9 当時）

2.2.3　視聴覚資料

（１）ビジネス関連ビデオ（～2017 年）

財団法人神奈川中小企業センターより2005年に寄贈を受けた約1,200本のビデオ（VHS）を公開、貸出。館内での視聴にも応じた。「経営関係」「IT関係」「環境関係」「ISO関係」「製造業関係」「商業関係」の６つに分け、分類番号は映像資料分類表（AVMC）に基づいた２桁の番号を付与した。

（２）科学技術ビデオ

科学技術関連の寄贈されたビデオやDVDを公開、貸出。「科学・技術ビデオ分野表」により、STV＋分野の頭１文字を分類記号、ビデオの通し番号を図書記号とした請求記号を付与した。

（３）産業安全・労働衛生ビデオ

県内に所在地がある団体の研修用に、産業安全・労働衛生・品質管理・環境管理等のビデオ・DVDを毎年購入、整備した。V＋通し番号のラベルを、本体とケースに貼付した。

分野	Scope Note
科学	自然科学、医療など（図書の4門）
実験	実験
宇宙	宇宙開発、技術、天文など
環境	環境問題、廃棄物など
自然	自然、景観など
資源	エネルギー、資源（電気、ガス、原子力など）
技術	工業技術、産業遺産、伝統技術、ものづくり、特許など
建築	建築、土木遺産など
産業	農林水産業
生活	その他

※請求記号はSTV＋分野の頭1文字（1段目）＋ビデオ番号（2段目）

（例）

STV技
2001

科学・技術ビデオ分野表

2.2.4　資料の点検・保存修理

（１）資料総点検

毎年、年度初めに資料総点検を実施し、資料の適正な管理・保管に努めた。公開されている資料については毎年点検を行うが、限られた点検期間で書庫内の全資料を対象とすることは難しいことから、年度ごとの計画を立て、数か年で網羅できるようにした。

（２）保存修理

経年劣化や利用の状況により、修理を要する資料が発生した場合は、自館でできる範囲の修理を行った。修理方法はその都度検討し、紙の酸化が著しいなどの理由により修理を行わないと判断した資料については、保存箱に入れることでそれ以上の破損を防いでいる。2011 年３月の東日本大震災の際は、落下等で破損した資料 124 冊（図書 113、雑誌 11）の修理を行った。

書庫内の温度・湿度の上昇等により、資料にカビが発生する事例もあった。その際は、消毒用エタノールを用い、マスクとビニール手袋を装着のうえ、職員が交代でカビの除去作業を行った。

付属電子媒体の予約と貸出延長ができるようになりました！. SiL. 2013. 4, No. 31.

「コンピュータ・情報クラスタ」が、よりつかいやすくなります。.SiL. 2009. 10, No. 15.

県立川崎図書館図書資料修理講座.

SiL. 2016. 5, No. 43.

３階閲覧室
天井の丸い形のものは天窓である。

内海暁子. 神奈川県立川崎図書館における「クラスタ配置」の変遷. 神奈川県立図書館紀要. 2014, No. 11, p. 67-91.

環境クラスタ

「環境クラスタ」では、"環境問題"に関する図書と報告書を集めています。

図書は以下の６つのテーマに分かれています。報告書類は同じ書架の下段に並べてあります。

テーマ	分類番号	ラベル表示	内容
1 地球環境	519	地球環境	地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、海面上昇、砂漠化
2 自然保護	468～468.8 519.8	自然保護	自然保護法、里山、棚田、水資源保護、自然保全 生物多様性、生態系の破壊、生態学
3 環境教育	375 519	環境教育	環境教育、環境思想、環境倫理学、環境社会学
4 環境社会	519.63, 519.7	環境社会	環境マネジメント、リサイクルシステム、環境科学 省エネ・省資源、環境負荷低減技術
5 環境政策	519.1, 519.12 519.13, 519.1	環境政策	環境法、環境計画、環境共生都市、環境アセスメント 、環境保全
6 環境汚染	519.2～519.6	環境汚染	公害問題、大気汚染、水質汚染、土壌汚染、海洋汚染、化学物質汚染、有害物質、環境騒音・振動

「クラスタ」とは通常の分類による配架とは異なる当館独自の配架方法で、専門的な資料を分野別に並べて紹介しています。

3　科学技術室

3.1　概要

３階の閲覧室は情報サービス課(2010 年～科学情報課)が担当し、「科学技術室」という名称のもと、科学技術や自然科学分野の専門的資料を提供してきた。具体的には、この分野の専門図書や雑誌、そしてオンラインデータベースである。特に、学会誌や協会誌、技術報告書等が中核をなす雑誌類は当館の中心的な資料群であり、最新号を常時開架し、バックナンバーは書庫で保管していた。

2017 年 12 月 1 日に完全休館となるまで、科学技術室は一貫して当館の主要な閲覧室として機能してきた。

3.2　配架資料

2008 年度から 2017 年度までの 10 年間の配架資料の概要及び、配架方法の推移を年代順に振り返ると、クラスタ配置を採り入れながら、各配架コーナーが整備されてきたことが分かる。クラスタ配置とは、簡単に言えば、似た分野の資料をまとめて配架することを意味する。当館では、従来の NDC に沿った配架方法に加えて、1998 年の「リニューアル」の時から、一部このクラスタ配置の考え方を取り入れた。利用者の利便性を念頭に置いての判断であった。

以下、科学技術室における主要な資料の配架状況を年代順に見ていく。

3.2.1　環境関係の資料

2005 年度に、科学技術や産業構造の進展に対応するため、年度ごとに特定テーマを設定し、重点的・系統的に図書収集を行う試みが始まった。2006 年度の特定テーマが、当時社会的に注目されていた「環境」に決まったことから、翌 2007 年度には、環境問題をよりわかりやすく理解できるよう、リニューアル当初から存在していた「環境・防災クラスタ」の見直しを行い、分類方法を一新した。同時に、クラスタの名称は「環境クラスタ」に変更した。

2010 年度に入ると、「環境クラスタ」が 10 項目から６項目へ再編される。このスタイルは 2015 年度に解体されるまで続いた。解体の理由としては、資料の出版・購入点数の減少、利用の減少が挙げられる。

3.2.2　レファレンスブック

科学技術室では、自然科学系、技術工学系、産業系を中心とした

各種レファレンスブックを取り揃えており、2007 年度までは、フロアの１カ所にまとめて配架されていた。これを、関連図書と同じ場所で当該分野のレファレンスブックを利用できるよう、2008 年度に書架のレイアウト変更を行った。同じ分類の専門書とレファレンスブックが近くに配置されている形は合理的であり、調査研究にも便利であると好評であった。

1998 年の様子。画面手前の低書架にレファレンスブックがまとめられている。

左：2015 年の３階案内図
画面下の左右にレファレンスブックコーナーが分かれて配置されているのが見て取れる。

3.2.3　コンピュータ・情報関係資料

2009 年度には、1998 年のリニューアル時から設置していた「コンピュータ・情報・通信クラスタ」の大幅な再編が行われた。急速に進歩しているコンピュータ関連分野は利用が多く、当館の重要な資料群であり、かつ特に力を注いできた分野である。内容を細分化し、それに合わせてラベルと書架を色分けし、名称は「コンピュータ・情報クラスタ」に変更された。同時に、資料検索の利便性改善を目的とする新しい試みとして、ホームページに分類一覧が掲載された。

2012 年度には、スマートフォンアプリやプログラミングなど、当時台頭してきた技術分野に対応するため、新たな分類を設定した。

科学と産業の情報ライブラリーニュース　2009. 4

SiL　知る ● 神奈川県立川崎図書館　15号

今号から「科学と産業の情報ライブラリーニュース」を「ＳｉＬ」という名前にしました。「Science」「Industry」「Library」の頭文字に加え、「知る」という意味もあります。

210-0011 川崎市川崎区富士見 2-1-4
TEL：044-233-4537
FAX：044-210-1146
★掲載されている催事等のお申し込みや詳細については上記まで。

「コンピュータ・情報クラスタ」が、より使いやすくなります。

これまで県立川崎図書館３階の科学技術室では、「コンピュータ・情報・通信クラスタ」として、関連する分類をまとめて配架したり、一部の本をテーマごと並べるなど、利用の便宜を図ってきました。そして、このたび、時代に適合した新しいテーマに配列することによって、さらにわかりやすく図書を探せるよう工夫しました。

新しいクラスタでは、［情報科学］［コンピュータ・システム］［プログラミング］［データベース］［アプリケーション］の５つの部門に分けています。

今までの配架場所に慣れているかたは、本を探す時、「これまでと違う」と、とまどわれるかもしれませんが、ご不明の点、その他、遠慮なくカウンターにお問い合わせください。

部門	分類項目
情報科学	レファレンスブック、情報理論、情報と社会、その他
コンピュータ・システム	コンピュータ・システム全般、Windows 、 UNIX/Linux 、MacOS、ハードウェア、ネットワーク、その他
プログラミング	プログラミング全般、C/C++、Java、Windows プログラミング、スクリプト言語、Web 技術（言語）、Web 技術（コンテンツ作成・管理）、その他
データベース	データベース全般、SQL、Oracle、Access、その他
アプリケーション	パソコン・インターネット入門、文書作成、統合ソフト、表計算、プレゼンテーション、グラフィックス、DTP、CAD、その他

3階・科学技術室は、さらに進化中

●生態学コーナーが移動しました。
国際生態学センターにご寄贈いただいた資料をもとに開設した生態学コーナーの資料を、1階から3階に移しました。標準をはじめ地質・気象や植物学など、多くの関連した資料とあわせて利用することによって、さらに有効にお役立ていただけます。

●「きになる団体・学会」コーナー新設
科学技術に関する団体や学会の情報を紹介していきます。第１弾は NEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）です。今、もっとも注目されている新エネルギーへの取り組み、活動結果、刊行物の展示などをしていきます。

3.2.4　雑誌

カウンターから見て左側のフロア中央を占めていたのが、雑誌コーナーである。専門誌・学会誌・講演論文集・技術報告書を中心に最新号約 2,000 タイトルが公開されていた。全国の大学の紀要、各社の環境報告書なども同じコーナーに配架されていた。

他の図書館ではほとんど所蔵していないタイトルも複数あり、書庫のバックナンバーとあわせてこれらの公開雑誌類の利用は大変多かった。また、閲覧と同時に複写を申し込む利用者が大半を占めていた。

コラム

９時から 19 時までの開館時間中は、保安員２名が交代制で館内を巡回した。

１階、３階のカウンターに保安員用の机も設けられていた。

天窓開閉用の手動式装置

日差しが強い時期は日光の動きに合わせて職員が開閉し、閲覧室に入る光の量を調節していた。

放送設備

閉館を知らせる音楽や、イベントの案内などに使用した。台風の接近をお知らせしたこともあった。

閉館の音楽は、ドボルザーク作曲　交響曲第９番「新世界より」第２楽章。いわゆる「家路」であった。

画面中央に見えるのが、オンラインデータベース用の端末。

3.3　サービス

3.3.1　カウンター体制

科学技術室ではカウンターをフロア中央の１カ所に設け、常時２名が担当した。12 時から 13 時、及び 17 時以降の時間帯を除き、複数の職員がカウンターバックで書庫出納や複写業務を行った。

カウンターでのサービス内容は、図書の貸出と返却処理、書庫出納、複写サービス、リクエストの受付、オンラインデータベース・インターネット情報検索の提供及びそれに付随する精算作業、電話や口頭、メール、時に FAX による各種レファレンス対応など、非常に多岐にわたっていた。なお、FAX の送受信は２階事務室で行っていた。

3.3.2　オンラインデータベース

科学技術室における各種サービスの中でも、学術文献情報等を検索するためのオンラインデータベースサービスは、特に力を注いだ分野である。一般利用者向けに開催していた「ユーザーサポートガイダンス」や「資料の調べ方講座」でも、JDreamⅡ（Ⅲ）や CiNii 等のデータベースを積極的にとりあげていた。また、オンラインデータベース用の端末は、インターネット情報検索用としても提供していた。

これらの端末は 2008 年度までは計４台であったが、2009 年度に２台増設し、計６台をカウンターから目が届くフロア中央に設置した。また、隣接していた利用者用コピー機からの目隠しにアコーデオン式のパーテーションを置き、プライバシーを確保するようにした。この他に、利用者用プリンターを２台設置し、プリントアウトしたものは１枚 10 円でレジ精算し、領収書としてレシートを発行していた。なお、後述する国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」については、職員が複写を行うため１枚 30 円としていた。

この 10 年間に提供していたオンラインデータベースは以下のものである。

〇JDreamⅡ（Ⅲ）

科学技術振興機構（JST）が提供していた科学技術文献データベースである。2012 年度末からは株式会社ジー・サーチの提供となっており、現在は JDreamⅢという名称になっている。国内外の科学技術系学術文献の書誌情報と抄録が検索できる。提供開始時期は 2006 年６月まで遡る。１人１日１時間までの利用制限を設けていたが、常に人気が高く、検索結果をプリントアウトする利用者も多数見られた。

◯CiNii

国立情報学研究所が運営するデータベースであり、国内学協会誌や大学紀要掲載の学術論文情報を検索できる。当館は機関定額制の契約をしていた。2007 年度から導入しているが、JDreamⅡ（Ⅲ）と並び利用頻度が高かった。

コラム

「SiL」17 号（2009.10）には「文献データベースひとくちメモ」として、JDreamⅡと CiNii について次のように紹介している。

「JDreamⅡには、抄録（論文の要旨）や海外の情報も含め、いろいろなキーワードで検索できるなどの特色があります。CiNii には、論文の全文を閲覧できるものがあったり、大学図書館等での所蔵機関を確認しやすいなどの特色があります。」

◯国立国会図書館「デジタル化資料送信サービス」

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料を、全国の公共図書館向けに提供するサービスである。当館では 2014 年２月から提供を開始した。プリントアウトは職員によると指定されているため、スムーズなサービスの提供を行えるよう、導入に先立ち、全カウンター職員に対する研修が実施された。

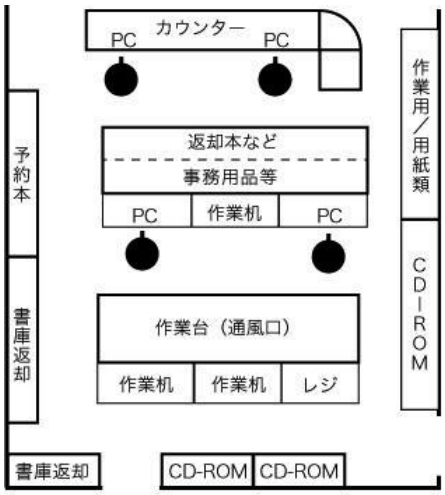
◯理科年表プレミアム

1925 年の創刊以降に『理科年表』に収録された約 1,500 項目の図表データにアクセスできるデータベースである。2011 年に導入したが、当初の想定とは異なり利用がほとんどなく、継続提供は見送ることとなった。

3.3.3　レファレンス

来館及び電話によるレファレンスはカウンターに入る職員が担当していた。また、特許や規格といった明らかに１階ビジネス支援室の範疇と判別できるもの以外の質問は、すべて３階カウンターに取り次がれていた。メールや FAX、時に手紙による質問は、原則として受け付けた職員が対応していた。

受けたレファレンスについては記録をし、担当者がとりまとめていた。また、月ごとの事例は館内で回覧し、その中でも理工学系の専門資料を使った回答、社史や特許、規格関連のものなど当館らしい特徴が出ている事例は、国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録していた。



2015 年当時のカウンター内業務スペースのレイアウト図

「カウンター内のレイアウト変更ものがたり」「SiL」39 号（2015.4）より

3.3.4　バックヤードの仕事

カウンターの後ろには、予約本や付録電子媒体等を置く書架が壁面に沿って設置されており、端末、プリンター、そしてレジが備え付けられていた。そこでは常時３、４人の職員がバックヤードの仕事に就いていた。主な業務は、インターネット予約本の処理、書庫出納、郵送複写サービス等であった。

３階　カウンター内

２階　協力室

３階　書庫

３階　カウンター内

〇インターネット予約

毎日朝と夕方、バッチ処理によりインターネットで予約された本のリストを抽出し、予約本をピックアップする作業を行っていた。貸出可能な図書の配架場所が１階と３階の公開書架、４階社史室、書庫、そして野庭収蔵Ｃと分散しているため、館内にある図書は職員が手分けをして集め、野庭への図書の出納依頼は FAX により行った。当館で受取りを希望する図書は予約棚に配架し、他館へ回送する図書は２階の協力室で受取館別に仕分けて発送準備をする物流関係の作業を行った。

〇書庫出納

書庫出納は、一度にブックトラック１台に載るだけの量を提供していたため、大量、かつ多種類の資料の閲覧申込が入った時は相当の労力を要した。大量出納が重なった時などは、手の空いている職員が協力して対応した。人手が少ない時間帯はカウンター職員２名のうち１名が出納することになるが、手が足りない場合は２階事務室へ応援依頼をした。応援依頼用のブザーも３階カウンターに備わっていた。

〇郵送複写サービス

郵送複写サービスは、個人を対象としたものと神奈川県資料室研究会会員を対象としたものの２種類を行っていたが、かなりのウェイトを占めていたのが後者であった。毎日複数件の申し込みが２階事務室の複合機に FAX で届いた。メールでの受付も年を追うごとに増加した。受け付けたものは、原則その日のうちに処理を終え、職員が近所の川崎中央郵便局まで投函しに行った。

3.3.5　その他

この 10 年間にサービス面でもいくつかの出来事があった。

2008 年８月から、複写申込書の記入事項が簡略化され、現在のように資料名のみとなった。それまでは連絡先と氏名の記入が必要であったが、不必要な個人情報の取得はしないこととし、県立図書館と調整した結果、連絡先及び氏名の記載欄が省かれた。

2011 年３月からは、郵送による図書館カードの登録及び宅配貸出サービスを、県立図書館と同時に開始した。

また、未登録資料であった付属電子媒体を 2012～2013 年に整備した結果、付属電子媒体の予約と貸出延長が可能となった。

3.4　フロアでの展示・コーナーなど

３階科学技術室では各種展示にも力を注いでいた。展示期間は異なるが、この 10 年間に以下のコーナーが次々と誕生した。

○ポピュラーサイエンスコーナー

講談社のブルーバックス、SB クリエイティブのサイエンスアイ新書といった科学全般を分かりやすく解説した本を集め、ポピュラーサイエンスコーナーとしてカウンター前の新書用書架に設置していた。ポピュラーサイエンスコーナーは 2005 年度からスタートしたが、2017 年 11 月まで続けられた。

また、所蔵資料の効果的な紹介を図り、およそ２カ月ごとにテーマを定めて資料を展示していた。当初は低書架を使った展示であったが、閲覧室のレイアウト変更の関係で、途中から学校机等を用いたものとなった。

とりあげたテーマは、「花火」、「雪」、「あたたかさを作り出す技術」といった季節に合わせた展示や、「グッバイ　さいか屋　川崎店」、「ル・コルビュジエ『国立西洋美術館　世界遺産登録記念展示』」など当時のニュースと絡めたものなど様々だが、中でも定番は、近年日本人の受賞が話題をさらったノーベル賞に関する展示であった。

○先端科学技術コーナー

「先端科学技術」関連資料の重点的な収集・整備が 2007 年度に始まっていたが、それと連動して、翌 2008 年度に収集した資料を紹介する「先端科学技術コーナー」が整備された。先端科学研究を支える新技術や新材料に関する本をテーマ別に配架したコーナーである。当館の広報紙「SiL」などでも積極的に紹介したが、2008 年度の重点的収集・整備の対象が「情報」関連に移ったため、終了となった。

○サイエンス・ナウコーナー

話題性の高い科学関連のニュースを複数とりあげ、新聞記事と共に関連本や文献を紹介したコーナーである。科学技術の「旬」の情報をお届けすると共に、当館の資料によってより深く知ってもらうために設置した。コーナーの位置が科学技術室の入口正面の書架であったため、足を止めてご覧になる方も多かった。

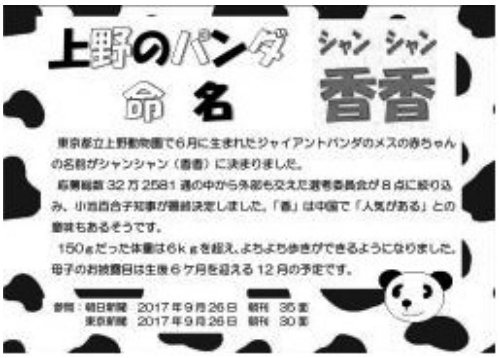
このコーナーは 2009 年９月からスタートしたが、2017 年 11 月まで続いた。最後の展示は、「上野のパンダ　命名　香香」と「2017 年ノーベル賞」であった。

「日本　北から南の本」（2014 年３月）
机の並びを日本列島に見立てて展示を行った。

大村智氏（生理学・医学賞）と梶田隆章氏（物理学賞）のノーベル賞受賞を記念した展示。施設担当に頼み、特別に天井にフックをつけてもらった。（2015 年 10 月）

コラム「照明灯」. 神奈川新聞. 2015. 10. 16, 朝刊.

大村、梶田さんの著書展示. タウンニュース. 2019. 10. 23.



サイエンス・ナウコーナー最後の展示

○生態学コーナー

生態学関連図書及び関東地方の植生図を集めたコーナーである。もともとは、財団法人国際生態学センターからの寄贈を受けて、2006 年度より１階閲覧室に設けられていたものである。植物生態学関係の資料約 800 点が集められていた。

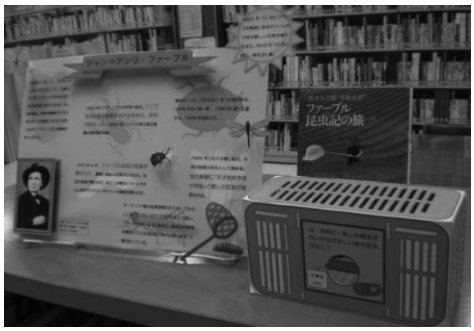
それをよりコンパクトな形にして、2009 年度に科学技術室に移設した。場所はカウンターから見て右側の高書架であった。その際、植生図などの専門用語を一般向けにわかりやすくまとめたパネルも新たに作成した。

科学者の伝記コーナー

○科学者の伝記コーナー

当館では、科学・技術の専門書と並び、科学者・技術者の伝記も収集してきたが、数が増えてきたため、2009 年度にカウンター近くの低書架に、それらの伝記を集めたコーナーを設けた。数学者、物理学者、医学者、技術者などの職業別になっており、低書架のため手に取りやすいこともあり、利用が多かった。

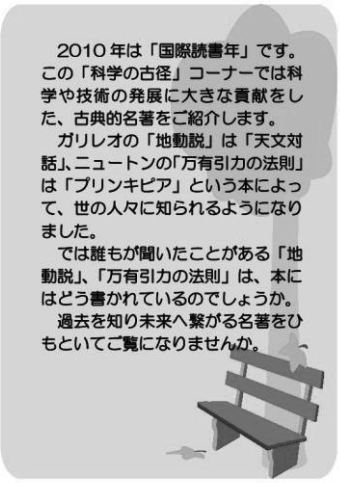
併せて、書架の上を展示コーナーとし、伝記に描かれた人物の生涯や業績を紹介した。とりあげた人物は、日本人では辰野金吾、糸川英夫、岡潔、堀越二郎、谷貞子、外国人ではレイチェル・カーソン、ジョサイア・コンドル、アントニー・ファン・レーウェンフック、ジャン＝アンリ・ファーブルなど、国籍、性別、時代を問わず様々であった。「ミニミニ展示・伝記コーナー」と名付けられ、当初はその名称の通り簡略な展示にする予定であったが、次第に、人物に関するクイズや担当職員自作の物語風解説を織り交ぜるなど、手の込んだ展示も見られるようになった。コーナーを紹介するホームページのサイトをご覧になった方が関連資料を求められたり、来館された方から手作りパネルのコピーを求められたこともあった。好評を得ていたものの、このほかのコーナーの新設や増設もあり、2014 年３月に終了した。



最後のミニミニ展示
「ファーブルと生き物たち」(～2014 年３月)

○科学の古径（こみち）コーナー

2010 年が国民読書年であったことから、科学や技術の発展に貢献をした古典的名著を紹介するコーナーが作られた。場所はサイエンス・ナウと同じカウンター正面の書架の一角であり、期間は 2010 年度の１年間限定の展示であった。とりあげた作品はガリレオ『天文対話』、ファラデー『ロウソクの科学』、中谷宇吉郎『雪の研究』などであり、文字通り古典的な名著が並ぶ。原色を用いた展示が多い中、ゆったりとした気分で名著に向き合っていただきたいとの思いから、このコーナーでは緑を中心とするアースカラーを基調とした。



「科学の古径コーナー」の解説

4　ビジネス支援室

4.1　概要

2005 年 10 月、１階閲覧室に特許・規格資料、資格試験問題集、実業家伝記、業界新聞、創業・経営革新等啓発ビデオなど、新規受入を含め約 7,200 点を集約した「ビジネス支援室」が開設され、本格的にビジネス支援サービスを始めた。それまで図書館内で散在していた特許資料、規格資料、資格試験問題集などを一室に集約し、外部の機関と連携をとりながら独自のビジネス支援サービスを展開することとなった。

当館は開館当初から工業専門図書館の機能を有し、科学技術、産業分野を中心とした資料の収集と提供を意識的に行い、ビジネス支援をしてきたが、「ビジネス支援」という言葉を使わずに「仕事に役立つ図書館」として活動してきた。ビジネス支援室の開室は、当館のサービスを強化するとともに当館の存在を社会にアピールするための方策の一つでもあった。2010 年からは「図書館海援隊」プロジェクトにも参加し、創業や起業を考えている方や就職活動をしている方の課題解決支援にも取り組んだ。運営は産業情報課が担当していた。

開設から、KSP への移転作業のため 2017 年９月 30 日に閉室するまで、ニーズの変化や所蔵資料の見直し等に伴って数度の配置換えを行った。また、室内に配置されたいくつかの資料種別ごとに NDC 順に資料を配架しており、室内に資料別のエリアを複数持つ構成となっていた。

4.2　配架資料の概説

ここでは、ビジネス支援室の配架資料について概説する。

4.2.1　特許関連資料

特許関連資料は当館の基幹資料の一つである。当館が工業専門図書館を指向して設置されたという経緯から、設置直後の 1959 年５月に商工資料室を開室し工業所有権公報類の閲覧業務を開始、1971 年に特許庁（当時）から公開公報閲覧所に指定され、1996 年には特許情報の有効活用を目的とした神奈川県知的所有権センター支部に認定され、特許公報類など関連資料を収集、関連のサービスも展開してきた。

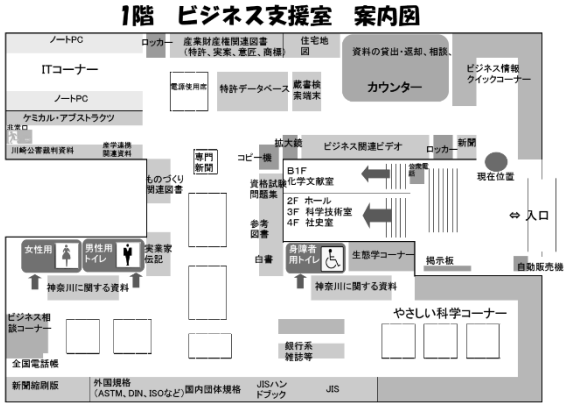
1999 年３月に特許庁による「特許電子図書館（IPDL)」が稼働し、明治以降発行された特許・実用新案・意匠・商標の公報類を、文献番号や各種分類等により検索することが可能となったことを受け、当館で所蔵する冊子体の特許公報類は 2000 年度をもってすべて廃

鈴木良雄.　公立図書館とアイデンティティ.　情報の科学と技術. 2006, vol.56, no.2, p.46-51.

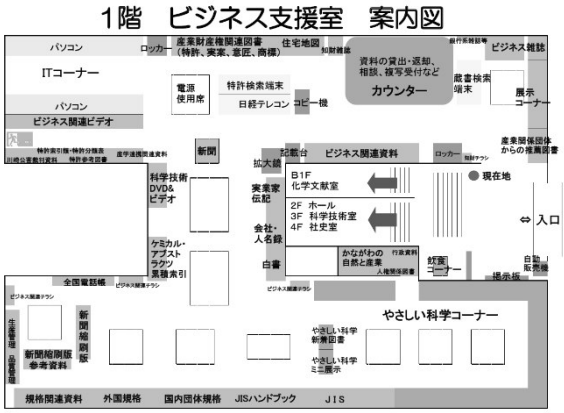
公共図書館を仕事に役立てる　発明や創業・経営相談も.産経新聞.朝刊. 2012.1.19.

日本図書館協会企画・監修の DVD「図書館の達人　司書実務編　第３巻」(2009 年）では、全国各地で取り組まれている課題解決型サービスの中から、当館のビジネス支援サービスが取り上げられている。

2009 年時点と 2016 年時点の案内図を比較すると、数種の資料群の配置換えが行われていることがわかる。



ビジネス支援室案内図（2009 年３月時点）



ビジネス支援室案内図（2016 年４月時点）

写真上：特許情報検索コーナーの特許検索端末

写真下：特許関連図書

写真上：JIS 規格票のファイル

写真下：海外規格や国内団体規格

稲木美由紀．　神奈川県立川崎図書館の規格資料ー「所蔵規格資料類リスト」の作成ー．　神奈川県立図書館紀要．2013，no10，p. 47-68.

棄した。

2000 年１月から５か年の国庫補助事業として、特許庁と直接専用回線で結ばれた特許電子図書館専用端末機器が閲覧室内に設置され、特許情報の利用と普及に努めた。この事業はその後さらに５年延長され、2009 年３月に国庫補助事業が終了するまで特許電子図書館専用端末機器は設置されていた。

特許関係資料は 2005 年のビジネス支援室開設前から１階閲覧室に配架されており、特許関連図書の書架近くに特許関連雑誌の棚と特許情報検索コーナーがあった。特許情報検索コーナーでは IPDL（2015 年３月 23 日より「特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)」）や JP-NET（日本パテントデータサービス株式会社の特許情報データベース）等により特許情報の提供を行い、図書・雑誌とデータベースを１か所で利用しながら効率的に特許調査を行える環境を整えた。

4.2.2　規格関連資料

規格は、主に産業や技術の分野において、製品やサービスなどを標準化して統一した「取り決め」である。当館では、開館当初から商工資料室に「産業資料」の一つとして JIS（日本工業規格。2019 年７月１日より日本産業規格）をはじめとする規格資料を所蔵し、国内外規格の充実に努めてきた。資料の性質上、企業の資料室等で所蔵していることはあっても、多種多様に規格資料を所蔵している公共図書館は全国でも珍しく、神奈川県内のみならず、県外からも多くの問合せ等を受けてきた。

JIS に関しては、全部門を規格票で購入し、月に１回差替え作業を行い、常に最新の状態を保っている。書架に全部門の JIS 規格票のファイルが並ぶ様子は壮観である。また、JIS ハンドブックを数年に一度購入している。海外規格に関しては、ASTM（製品仕様や試験方法に関する世界的な規格）を隔年で購入している。2012 年度には DIN（ドイツ連邦規格）ハンドブックや JEITA（電子情報技術産業協会規格）などが「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して整備された。

規格関係資料も 2005 年のビジネス支援室開設前から１階閲覧室に配架されていた。規格本文が載っているものを中心に置いていたが、2012 年の資料総点検の際に、３階閲覧室で公開されていた規格関係の解説書類も、建築関係等で３階閲覧室の専門書と併せた利用が便利な資料を除き、ビジネス支援室で閲覧できるように配置換えした。

刊行形態が様々で改廃が多いことから規格関係資料は図書館システムへのデータ登録が容易でなく、それゆえ図書館の蔵書検索シス

テムでは個々の規格の所蔵確認が難しかったことから、2009 年、2010 年、2011 年に厚生労働省が募集を行った「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を利用して所蔵規格資料のリスト化を行い、「所蔵規格資料類リスト」を図書館ホームページに掲載するようになった。利用者が規格を探す便宜を図るだけでなく、当館職員が規格の所蔵状況について確認できる便利なツールとなっている。その後も当館職員により「所蔵規格資料類リスト」掲載情報の更新が続けられている。インターネット検索によってこのリストがヒットすることで、所蔵等について県内外から問い合わせを受けることが多い。

国立国会図書館が提供する調べものの窓口「リサーチ・ナビ」において、規格資料の国立国会図書館以外での閲覧先の一つとして当館が挙げられており、所蔵規格資料類リストも紹介されている。

ホーム > 資料を探す > 規格資料類リスト

所蔵規格資料類リスト

このリストについて

国際・海外規格については、所蔵するハンドブック等の年版を掲載しています（ISO、BS規格については所蔵する規格番号のリストを掲載しています）。ご利用の際は、あらかじめ規格番号等をお問い合わせのうえ、ご来館ください。（インターネットからお問い合わせの際はこちらのフォームをご利用のうえ、「県立川崎」を選択してお問い合せ下さい。）

国内規格のうち、JISは全ての分野を所蔵し、最新の状態を維持しています。英訳JISについては、所蔵するハンドブックに収録されているものをご利用いただけます（英訳JIS所蔵一覧）。また、1994年頃からの廃止JISも所蔵しております（廃止JIS所蔵一覧）。その他の国内規格については、所蔵する規格の番号のリストを掲載しています（JASO、JATMAなど一部規格はハンドブック等の年版のみとなっています）。また、廃止されたことがはっきりと確認された規格番号については廃止の表示をしておりますが、個々の規格の存廃の状況については、それぞれの発行団体へお問合せください。

国際・海外規格　国内規格　ＩＳＯ・ＪＩＳ規格解説検索

国際・海外規格

海外規格名	所蔵の状況
ACI（米国コンクリート協会規格）	1989年のマニュアル版
ANSI（米国国家規格）	所蔵ANSI規格一覧（邦訳版） 最終更新:2013/10/19更新
API（米国石油協会規格）	所蔵API規格一覧（邦訳版） 最終更新:2013/3/5更新
ASME Boiler&Pressure	1989年版,1992年版,2007年版

所蔵規格資料類リスト

4.2.3　ビジネス関連資料

ビジネス関連資料として、スキルアップのための資格試験問題集、ビジネスヒントを得ることができる実用的なビジネスサプリ本、実業家の伝記、業界新聞、ビジネス関係雑誌、ビジネス関連ビデオ、新聞記事が検索できる日経テレコン 21 などのデータベースを整備した。これらの資料は、忙しいビジネスマンがすき間時間を活かして短時間で効率良く利用できることをコンセプトに、ビジネス支援室入口近くに配置された。

4.2.4　川崎公害裁判訴訟記録

1982 年３月の第１次提訴から 1999 年５月に和解が成立するまで、17 年にもおよんだ川崎公害裁判の原告団・弁護団から寄贈された訴訟記録で、原告・被告の証言、主張、関連資料など実際の裁判資料の原本が約 500 冊に複製、製本され、公害裁判の全容を知ることができる極めて価値の高い記録資料である。

沖田香織．県立川崎図書館の「川崎公害裁判訴訟記録」．神奈川県立図書館紀要．2014，no11，p. 93-108.

2001 年５月の資料受贈時には公開要項により原則として１階閲覧室の公開書架に配架となっていたが、2007 年に当館から保管場所を書庫内に切り替えたいとの申し出を行った。担当弁護士との間でやりとりがあり、住所氏名が詳細に掲載されている資料でもあること、また原告団の世代交代が進んだことなどにも配慮して、保管場所の書庫内への変更について了承が得られ、「ごく一部の個人情報の記載のない部分と目録を公開し、他は書庫に入れる」という運用が決定された。

その後は目録並びに被告企業の主張編 47 冊だけを公開書架に配架し、残りは書庫内に配架している。書庫内の資料を利用する際には、個人情報に充分留意しての利用をお願いする文章を利用者へ手渡し、注意を促している。

川崎公害裁判訴訟記録

公害の実態のみならず、京浜工業地帯・川崎の産業史を研究する上でも価値あるコレクションであることから、環境問題を研究する

利用者や、自治体関係者などに利用されている。

写真上：やさしい科学コーナー

写真下：科学技術分野の入門書

4.2.5　やさしい科学

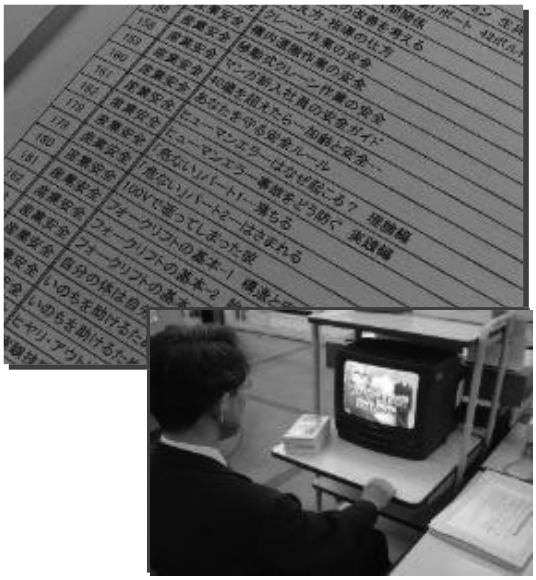
理科に対する中学生、高校生の興味や関心が低くなり、日常生活においても科学の知識が薄れ、“理科離れ”が進行しているといわれていたことから、当館では対策の一環として、2006 年度に、それまで１階ビジネス支援室入口付近にあったやさしい科学コーナーを部屋の奥に移設拡充し、小学校高学年から中学生、高校生、大人までを対象に理科や科学の入門書や雑誌、情報や技術の実用書を収集・整備した。書架の近くに座席を用意し、長期休暇期間中は青少年優先として運用を行った。

調べ学習や概要把握、学び直しにも有用な資料として、長期休暇中の学習や、３階閲覧室で公開されている専門書と併せた利用など、幅広く活用された。実験教室や映画会などのイベントを行う際は会場の２階ホール入口に関連資料を展示し、利用を促した。

4.2.6　産業安全・労働衛生ビデオ

会社・事業所などでの研修用に、産業安全・労働衛生・品質管理・環境管理等のビデオ・DVD を所蔵し提供した。対象は県内に所在地がある団体で、個人貸出用の図書館カードとは別の団体用カードを作成し、個人貸出とは異なる条件（５点以内、８日間）で貸出をした。

団体貸出用の資料であるため公開書架ではなく書庫内に配架し、図書館ホームページに「産業安全・労働衛生ビデオ所蔵目録」を掲載して、タイトルや内容を一覧できるようにした。貸出希望日の前月の１日から予約を受け付ける方式をとっており、新入社員に研修を行う年度初めや、厚生労働省が実施する全国安全週間や全国労働衛生週間の時期などは、多くの問い合わせがあった。



写真上：産業安全・労働衛生ビデオ所蔵目録

写真下：館内の視聴機器で視聴する様子

4.3　サービス

ビジネス支援室のカウンターでは、閲覧、貸出、返却、登録、予約、レファレンス、複写などのサービスを行っていた。ここでは特色あるサービスについて述べる。

4.3.1　知財関係情報等の提供

当館は 1996 年９月 17 日に特許庁の特許公報類閲覧所の指定が解除され、神奈川県知的所有権センター支部として認定された。神奈川県産業技術総合研究所（現：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所）が本部、一般社団法人神奈川県発明協会、公益財団

法人神奈川科学技術アカデミー（現：地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所）、当館の３機関が支部として認定されており、４機関で協力しながら活動していた。2012 年３月 31 日に知的所有権センター認定要領は廃止されたが名称は継続使用可能で、ビジネス支援室では知的所有権センター支部としてビジネス支援サービスの一環で特許情報の提供を行った。

特許関連資料やデータベースの提供に加えて、講座や講演会などの事業を行った。独立行政法人工業所有権情報・研修館による特許流通促進事業の一環で開催された特許情報検索アドバイザーによる「特許情報（IPDL）活用講習会」や、川崎市との共催（2017 年度は後援）による「かわさき知的財産スクール」、関東経済産業局主催による「戦略的知財マネジメント促進事業　知的財産セミナー」、横浜弁護士会、日本弁理士会関東支部、神奈川県発明協会の後援による「図書館で学ぶ知的財産講座」など、関連機関と連携を図りながら様々な講座・講演会を当館を会場に開催し、中小企業の知財担当者を中心とした受講者に知財関係情報の提供を行った。

また、他機関と連携したビジネス相談を行った。2008 年の時点では６種類（創業・経営相談、経営相談、技術相談、発明相談、特許情報活用相談、特許流通相談）の相談事業を行っていた。いずれの相談も専門の相談員が来館し、館内の相談室で行った。当館職員は予約受付、連携機関への連絡、相談会場の準備等に携わっていた。2017 年の時点では、神奈川県発明協会の協力を得た「発明相談」、公益社団法人けいしん神奈川の協力を得た「創業・経営相談」を行った。

4.3.2　行政支援情報の提供

行政支援情報として、かながわの自然と産業コーナーで、神奈川に関連した科学・技術・産業などに関する図書・雑誌、及び各行政機関からの情報公開資料を整備・公開した。

4.4　フロアでの展示・コーナーなど

ビジネス支援室では定期的に入れ替えを行う小さな展示を複数行っていた。また、インターネットによる情報検索支援のためのコーナーも設置していた。

4.4.1　産業関係団体からの推薦図書コーナー

川崎商工会議所、県産業技術センター（2017 年４月から地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所）、神奈川科学技術アカデミー（2017 年４月から地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究

図書館で学ぶ知的財産講座2014

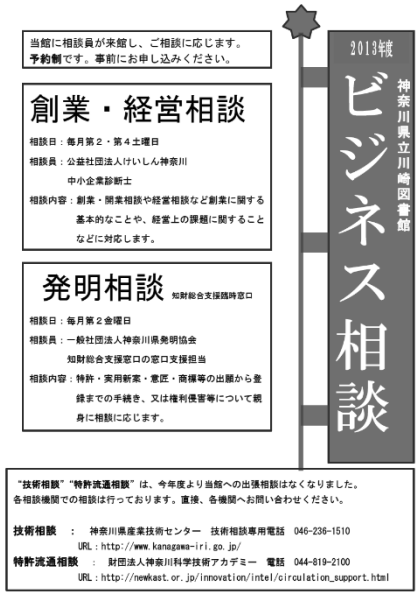
参加費　無料
事前申込制（先着順）
各回定員40名

企業の経営者や知的財産担当者等を対象に、知的財産に関する様々な課題について、事例等を基に解説いたします。

	開催日時	テーマ	内容	講師
第1回	平成 26 年 9 月 17 日（水）14 時～16 時	秘密保持契約についての実務上の留意点	企業と企業の間、企業と従業員の間等において、秘密保持契約を締結する上での実務上の留意点について、裁判例等を参照しつつ、解説を行います。	田野 賢太郎 氏 弁護士/横浜弁護士会
第2回	9 月 24 日（水）14 時～16 時	知的財産に関する訴訟の手続き ～知財訴訟の前提となる民法、民事訴訟法の知識を中心として～	知的財産に関する訴訟において前提とされる民法や民事訴訟法の知識について、裁判例などを参考にしながら説明します。	岡田 健太郎 氏 弁護士/横浜弁護士会
第3回	10 月 15 日（水）14 時～16 時	特許明細書の書き方 ～特許法第 36 条の拒絶理由を受けないために～	特許明細書の書き方について、審査基準、裁判例などを参考にしながら、特許請求の範囲、明細書の書き方について説明します	木下 茂 氏 弁理士/日本弁理士会関東支部
第4回	10 月 29 日（水）14 時～16 時	ここが落とし穴だよ著作権	企業経営において知っておくべき諸問題（インターネット、ソフトウェア、契約等）、キャラクターと商標等との関係について事例に即して解説します。	高原 千鶴子 氏 弁理士/日本弁理士会関東支部
第5回	11 月 12 日（水）14 時～16 時	権利とは？　いかに知財と付き合っていくか	いくつかの事例を参考に、知財との付き合い方をお話しします。	加根魯 和宏 氏 神奈川県発明協会

主 催　神奈川県立川崎図書館
後 援　横浜弁護士会、日本弁理士会関東支部、神奈川県発明協会
会 場　神奈川県立川崎図書館 2Fホール（川崎市川崎区富士見 2-1-4）
お申込み方法 ⇒ FAX または当館ホームページの申込フォームでお申込みください。
URL:http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/
お問合わせ先 ⇒ 神奈川県立川崎図書館 産業情報課
電 話:044-233-4537／FAX: 044-210-1146

図書館で学ぶ知的財産講座のチラシ（2014 年度版）



当館に相談員が来館し、ご相談に応じます。
予約制です。事前にお申し込みください。

創業・経営相談
相談日：毎月第２・第４土曜日
相談員：公益社団法人けいしん神奈川 中小企業診断士
相談内容：創業・開業相談や経営相談など創業に関する基本的なことや、経営上の課題に関することなどに対応します。

発明相談 知財総合支援窓口
相談日：毎月第２金曜日
相談員：一般社団法人神奈川県発明協会 知財総合支援窓口の窓口支援担当
相談内容：特許・実用新案・意匠・商標等の出願から登録までの手続き、又は権利侵害等について親身に相談に応じます。

2013年度
神奈川県立川崎図書館
ビジネス相談

"技術相談""特許流通相談"は、今年度より当館への出張相談はなくなりました。
各相談機関での相談は行っております。直接、各機関へお問い合わせください。

技術相談　：　神奈川県産業技術センター　技術相談専用電話　046-236-1510
URL：http://www.kanagawa-iri.go.jp/
特許流通相談　：　財団法人神奈川科学技術アカデミー　電話　044-819-2100
URL：http://newkast.or.jp/innovation/intel/circulation_support.html

ビジネス相談のチラシ（2013 年度版）

産業関係団体からの推薦図書コーナー

ビジネスレコメンド

アプローチ展示

やさしい科学展示

IT コーナー（2009 年時点）

所）などの産業関係団体や試験研究機関と連携し、各団体と県民との接点をつくり、これを深めて地域産業振興を後押しするのを目的として、2005 年よりビジネス支援室の入口付近に設置した。年に２回、各団体に推薦図書を挙げてもらった。推薦図書は、推薦団体を表示した上で展示し、貸出もした。このコーナーは大変好評で、展示した図書に予約がつき、展示期間中、貸出中のままのものもあった。タイトル、著者等の情報がわかるパネルを作って図書の後ろに展示し、図書が貸出中の時はパネルが見えて貸出中であることがわかるように工夫していた。

4.4.2　ビジネスレコメンド

ビジネス関連資料の利用促進を図るため、実用的で気軽に読めるビジネス関連資料書架を使い、毎月１回テーマを決めて何冊かを表紙が見えるかたちで展示していた。ビジネスマナーや企業紹介、モノや情報の整理術の図書などを展示した。

4.4.3　アプローチ展示

当館で所蔵する各種の資料を紹介する目的で 2014 年度にビジネス支援室の入口付近で開始した。毎月１回テーマを決めて、例えば周年を迎える企業に関するビジネス書、企業紹介をしている児童書、創業者の伝記、その企業の社史など、図書館内で別々の場所に置かれている資料を１ヶ所に集めて展示することで、当館が所蔵する様々な資料を紹介した。各テーマの関連資料目録も作成した。

4.4.4　やさしい科学展示

毎月１回テーマを決めてやさしい科学コーナー入口で本の展示と紹介パンフレットの作成・配布を行った。長期休暇に合わせて自由研究をテーマとするなど、季節に合ったテーマや話題のテーマを選定し、利用を促進した。

4.4.5　IT コーナー

インターネット情報検索サービスとして、ビジネス支援室奥にパソコンを設置して、インターネットによる情報検索や文書作成等の利用に供した。パソコンは 2008 年の時点では 14 台、2011 年の東日本大震災による節電を機に 10 台となった。プリントアウト（１枚 10 円）が可能であった。このコーナーは近隣の方によく利用された。申込制（氏名記入）で、多数の方に利用してもらうため一人１日１時間の利用としていたが、2012 年６月から１回に限り延長を認めた。2016 年８月から不正利用防止のため申込時の本人確認を強化した。

5　社史室

5.1　概要

社史室は 1998 年のリニューアルの際、約１万冊の社史（経済団体史、労働組合史等を含む。以下、略）を公開書架に並べて４階に設置した。当初はほぼ全ての社史を開架していたが、年に 4～500 冊ほど増えていくので、スペースの都合から 2008 年までに、労働組合史、神奈川県内を除く商工会議所、農協（JA）などの年史は、順次、書庫（旧書庫４層）に移していった。また、その頃、増えつつあった社史の付録の電子媒体（CD-ROM 等）も書庫（旧書庫４層）に配架していた。

2008 年度までの社史室の担当課は図書資料課であったが、組織改編にともない 2009 年度は産業情報課の担当となった。ただし、産業情報課は、おもに１階を担当するので、４階の社史室での相談等は３階のカウンターで対応するケースが多かった。そこで、2011 年６月以降は３階を担当する科学情報課が担当課となった。

2010 年頃、社史室内にある約 70 連の書架に余裕はなく、１冊増えるごとに、１冊を書庫に入れるような状況になっていた。書庫入れの対象としたのは、主に古いもの、神奈川県以外の経済団体史、社史関連図書（会社の歴史をまとめた市販の本など）である。2014 年の資料総点検時には、保存と公開スペースの確保を目的に、1950 年以前の社史を一括して書庫に入れ貸出不可とした。

2017 年度末の時点で社史の所蔵は約１万 9,000 冊と、リニューアル時のほぼ倍になっている。

5.2　配架の推移

社史室の配架は、NDC の分類順（０門から７門まで／８門・９門に該当する社史はなし）に並んでいる。2008 年頃、社史関連資料（社史の調査に用いる本、社史に関する本、市販されている会社の歴史の本など）は、入口を入って正面の書架にあったが、のちに中央の書架２連に移している。

閲覧席は、カウンター正面に５席（１席は蔵書検索用）あった。衝立のあるキャレル状の机であったが、2003 年頃を中心に、社史への悪質な落書きが増えたため、席の向きを変える、席を仕切る衝立を外す、室内からボールペンを撤去、迷惑行為を禁止する張り紙の掲示などの措置をとっていった。後半の数年間は目立った落書き行為は無かった。

2013、14 年頃には、当館の社史であることを明示するため、社史の奥付に蔵書印を押した。現在も当館では社史のみ蔵書印を押している。また、外函を含めてパッケージと考えている企業も多いこと

高田高史．社史の図書館と司書の物語．柏書房，2017，265p.

高田高史．社史室の魅力を発信する．専門図書館．2014.9，no.267，p.58-62.

“社史コレクションの利用に直結する催事・広報の展開.”人・まち・社会を育む情報拠点を目指して:図書館実践事例集．文部科学省生涯学習政策局社会教育課．2014，113p.

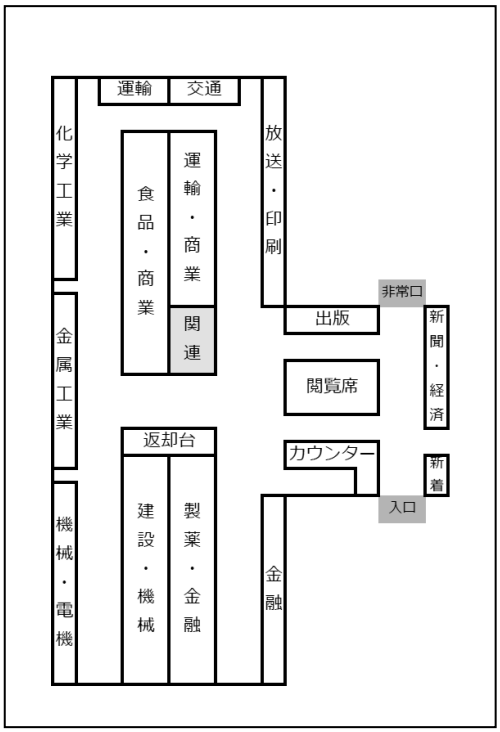
おじさん三人組 川崎図書館に行く．本の雑誌．2011.9，No.339，p.16-17.

波乱万丈 社史１万 4000 冊．東京新聞．2008.10.7，朝刊.

社史の蔵書は国内屈指 県立川崎図書館．読売新聞．2012.5.20，朝刊，横浜版.

社史室の鍵。開館時から用いられていたものと思われる。

コラム
社史室の奥の階段を登ると屋上に出るための小さな空間があった（関係者以外は立ち入り禁止）。昼休みには、静かに昼食をとる人もいた。窓には「カラスに注意」の張り紙が貼られていた。うっかり屋上に出て施錠され、閉じ込められてしまった人もいたそうである。



「社史の窓辺」コーナー制作記. SiL. 2014.10, 34 号.

バーチャル「社史室」の使い方. SiL. 2016.7, 44 号.

高田高史. 社史の図書館と司書の物語. 柏書房, 2017, 265p.

「バーチャル社史室」開設. 神奈川新聞. 2016.5.17, 朝刊, 川崎版.

「社史室」書架ネット公開. 読売新聞. 2016.5.25, 朝刊, 川崎版.

から、社史フェアを始めた頃より、外函に入れた状態で社史を配架するようにしている。

5.3 サービス

社史室の開室時間は、東日本大震災の後などを除き、9時から 17 時までであった。カウンターでは貸出・返却、ごく簡単な蔵書の調査をするのみで、主に非常勤職員や再任用職員が対応していた。レファレンス、複写などは3階のカウンターで対応していた。一日あたり 20 名程度の来室者であったため、社史室のカウンターでの遣り取りをする機会はそれほど多くはなかった。

書庫にある社史を出納する際には、カウンターを無人にするわけにはいかず、3階の職員に電話をして出納をしていた。17 時で閉室した後の社史の利用は出納というかたちで、主に3階のカウンターで受付をしていた。

窓のない空間で、とくに夏場は熱がこもるため、扇風機を回していた。また、社史室の話声は3階に響くこともあるので、このことを念頭に置いて、接客や電話を行っていた。

5.4 展示・コーナーなど

2008 年頃、3階から4階に上がる階段および踊り場の壁面には、50 周年式典で配布した冊子『時代を映す社史の魅力』をもとにしたパネルを掲示していたが、劣化もあったので取り外した。移転までの数年間は、社史関係を中心に「当館が掲載された新聞記事」という掲示コーナーを階段の踊り場に設けていた。また、「社史ができるまで講演会」の第1回目からの講演の様子を伝えるミニパネルを掲示していた。刊行物「社楽」も配布や掲示をしていた。なお、社史室の入口前には小さなコインロッカーを置いてあった。

社史室内の中央の書架2連には社史関連図書を並べていた。市販の本が多く手に取りやすいので、社史への導入的な役割を期待していた。しかし、社史を見てほしい見学や取材などの際にも、社史ではなく関連資料で足をとめてしまうケースが多々あったことなどから、2013 年 11 月、同書架2連の上2段（計4段）を「社史の窓辺」という展示スペースにし、社史を紹介するミニコーナーとした。「社史の窓辺」では、数カ月ごとに「社楽」に掲載した社史や、季節・話題にちなんだ社史を展示していた。

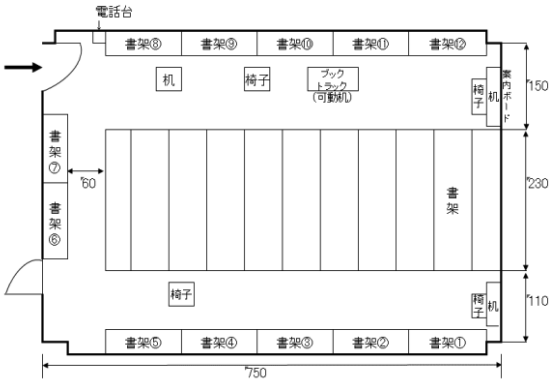
当館のホームページには、社史の書架の写真を撮影した「バーチャル社史室」を 2016 年に開設し、社史室の書架に並ぶ社史をわかりやすく紹介している。

6　化学文献室・書庫

6.1　化学文献室（2006 年～）

１階「やさしい科学コーナー」の拡充等に伴い、それまで１階にあった「外国化学文献コーナー」を地階に移し「化学文献室」を開設。地下１階の壁面に固定式の書架、部屋の中央には手動式の集密書架を設置して、社団法人日本化学会から寄贈された海外の化学分野の雑誌約 350 誌を集約・公開し、サービスの充実に努めた。入室・閲覧の受付は１階カウンターで行った。「Journal of the Chemical Society of Pakistan」（パキスタン）や「Nafta Gaz」（ポーランド）など、新しい巻号の所蔵が国内では当館のみの貴重な雑誌もあった。

一方、もともとは食堂として使用されており（1985 年度まで）、書庫利用を想定した造りではないため、湿度の管理が難しく、資料にカビが発生。カビの除去作業を行うとともに、除湿機を開館中常時２台稼働させた。



化学文献室

6.2　書庫

発行から相当年数が経過し、利用頻度の低い資料、または新しい版を受け入れた資料については、随時書庫入れを行った。蔵書数の増加に伴い慢性的に配架スペースが不足しており、図書・雑誌とも随時書庫内資料のずらし込み作業を行い、配架レイアウトの見直しを図った。各階の書庫の壁面にはぐるりと隙間ごとに書架を立てて資料を配架していた。増加により入らなくなった書架からはこういった箇所へ「別置」という形で一部資料を移動してスペースを作っていた。手製の木製書架なども含め隙間なく書架を置き、隣の書架と重なり合って資料を取り出すのにコツがいる場所すらあった。また、年に１回程度、まとまった資料を野庭収蔵Ｃに移送し、空きスペースの確保に努めた。

書庫内には物品専用の小荷物専用昇降機（ダムウェーター）があり、台車やブックトラックを載せて、日々の書庫出納や物流等に使用していた。手動で開閉する扉は二重になっており、２枚とも確実に閉じた状態以外では可動しない仕組みだった。書庫と本館とでは階層が異なっていたため、書庫は１層・Ｍ３層・３層・４層に扉が設けられており、通過する２層へは人力で上げ下ろしを行っていた。

書庫立面図　　2017.4現在

旧書庫			新書庫		
	図書	雑誌		図書	雑誌
4階	S社史 L.労働組合史	Z549～-699 (別置)Z547-D0信学技報 (別置)Z047-49論処研報 (別置)Z540-T5東芝技術公開集 他に別置1～3あり ★一部MBに別置	4階		Z4門～509.8 (507,507.2は1階別置) 別置1～別置23まであり ★一部MBに別置
3階	通路側 旧整理 ４０～４８	奥面右 Z533～535-N 奥面左 Z535-N4～539T 左側 Z539-T1～548 (別置)Z532-K17 機械と工具 (別置)Z540-0○○ 電力中央研究所報告 (別置)Z540-T2 テレビジョン学会技術報告 (別置)Z540-9 電気学会研究会資料	3階		Z510～532 別置1～別置22まであり ★一部MBに別置 (Z530-0～Z530.5-K)
2階			M3階	年鑑・年報(赤丸シール) 旧整理と新整理は別立てで配架 白書は３年分１階公開	Z0,2,3,7 (Z4,5) (終刊雑誌の一部)
			2階	旧整理 ５０～５９ 535.5は収蔵センター 年鑑・年報含む (別置)大型本	
1階	＜電動書架Ａ＞ 旧整理 ０～３，４９，６～９ 川崎公害裁判資料 社史複本 グメリン、パイルシュタイン、メトーデン 洋書(主に日本化学会からの寄贈図書)	＜電動書架Ａ＞ 化学会から寄贈の洋雑誌（非継続） Z430-○○ Z430.3-Cケミアブ Z547-D3 信学技報 (1954～1980) 4門和洋雑誌（下記）	1階	入門 新整理 ０～９ データブック (別置)地図、国勢調査 (別置)洋書(ACSシリーズ) (別置)JISハンドブック、岩波文庫 (めか入口別置)川崎市明細地図 ＜電動書架Ｂ＞ 規格 ＜電動書架Ｃ＞ 規格	Z507, Z507.2 入門用雑誌 Z535-A ASCII 新聞縮刷版 新聞原紙 ＜電動書架Ｂ＞ Z430.3-Cケミアブ ＜電動書架Ｃ＞ Z430.3-Cケミアブ
B1階	洋図書 (旧整理・新整理) *典の部屋にあり 鍵は管理課にあり 要手続き	化学会から寄贈の洋雑誌（継続） Z430-○○		雑誌はここに記載されている以外にも「別置」があちこちにあります。代本板を入れてありますが、わかりにくいところがあればお知らせください。	

＊１階＜電動書架A 和洋雑誌別置＞
書架A11：Z405-13 National geographic (1997-2004) v.191～v.206 これ以前の1985-1996は収蔵C
日本版はZ430-14 1995～2013.3 (新書庫4階)
Z420-N日本物理学会年会講演予稿集 Z420-N1日本物理学会分科会講演予稿集
書架A12：Z405-N9 Nature (1990～1995) v.343～v.378, Z405-S2 Science (1990～1995) v.247～v.270
＜NatureとScience これ以降の新しいものは新書庫４階所蔵の位置、これ以前の古いものは収蔵C＞
＊収蔵センター（横浜市港南区野庭）
雑　誌：科学技術系外国語雑誌および一部和雑誌
図　書：旧整理０～３，４９，５35.5，６～９、　新整理０～９、児童書(やさしい科学)０～９
洋図書：別置記号A付与　【例　A Y570 8】

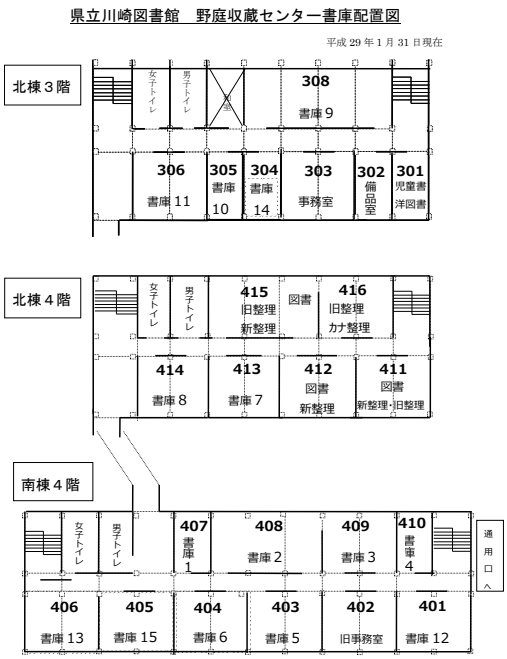
書庫

小荷物専用昇降機（ダムウェーター）

7　野庭収蔵センター（デポジット・ライブラリー）

2004 年４月、新たなサービスとして、横浜市港南区の生涯学習文化財課収蔵センター（旧県立野庭高校・現文化遺産課収蔵センター）内に、県内企業情報センター等との協同による全国初の「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」を開設した。（詳細につい

知られざる書庫の中. SiL.　2010. 1, No. 18.



配置図

年度	寄贈受入	所蔵ﾀｲﾄﾙ数
2008 年度	３社より	1,567 ﾀｲﾄﾙ
2009 年度	７社より	1,586 ﾀｲﾄﾙ
2010 年度	12 社より	1,653 ﾀｲﾄﾙ
2011 年度	３社より	1,676 ﾀｲﾄﾙ
2012 年度	６社より	1,679 ﾀｲﾄﾙ
2013 年度	２社より	1,735 ﾀｲﾄﾙ
2014 年度	１社より	1,766 ﾀｲﾄﾙ
2015 年度	１社より	1,767 ﾀｲﾄﾙ
2016 年度	２社より	1,780 ﾀｲﾄﾙ

科学技術系外国語雑誌の受入状況

齋藤久実子．神奈川県立川崎図書館における「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」の開設．情報管理．2004，vol.47，no.7，p.476-480.

佐藤翔．神奈川県立川崎図書館「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」のコレクション評価．佐藤翔，2015，31p.

特集デポジット・ライブラリー10 周年.神資研.2014，vol.48，p.3-27.

「収蔵センター」って、どんなところ？.SiL．2012.7，No.28.

ては、参考文献を参照）

名称は、2017 年に「野庭収蔵センター」から「野庭収蔵庫」に変更された。

7.1　寄贈・受入

開設に先立つ 2003 年度以降、企業等から毎年多くの外国語雑誌の寄贈を受け、2018 年 4 月現在では 1,780 タイトルに及んだ。搬入された外国語雑誌には１冊ずつ、受入印を押したシールを表紙に、タイトル毎の雑誌番号を記入したシールを背表紙に貼付した。利用者からの出納や複写依頼に対応して資料の提供を行った。

7.2　物流等

職員が常駐し、出納や現物確認等の対応に当たった。資料の物流は、週３回（火・水・木）当館の連絡車が巡回していたが、2012 年度より宅配による週４回（火・水・木・金）の配送に変更された。2017 年度は原則週２回（火・金）の搬送になり、その日にあわせて職員が出張する体制となった。

7.3　資料の移送

図書館内の書庫の狭隘化に伴い、ほぼ年に１回、発行年の古い資料等の野庭収蔵Ｃへの移送を実施した。３階の事務室まで、時には 100 箱を超える段ボールを階段で運び上げ、該当する書架への配架を行った。主な移送は、2008 年度 5,082 冊（コンピュータ関係、児童書）、2009 年度 3,043 冊（コンピュータ関係、児童書）、2010 年度 2,681 冊（４・５門）、2011 年度 5,304 冊（環境、６門）、2014 年度 雑誌 31 箱などである。移送後に出納依頼があった図書については、請求記号ラベルの下部に黄色のシールを貼付し、利用の有無が分かるようにしていた。

7.4　点検

資料の管理として、2007 年度に配架コードの点検約３万冊、2014 年度には約４万冊の図書については、貼付バーコード読み取りによる点検を行った。

7.5　除籍

当館の主要分野以外で、県立図書館と重複して所蔵している図書等の除籍作業を行った。主な除籍は、2008 年度 2,136 冊（年鑑・年報）、2009 年度 1,565 冊（複本）、2012 年度 4,042 冊（０門、３門、６～８門）などである。

8　ミニ展示

ミニ展示は、１階の入口から階段を昇ったところにある２階のスペースで行っていた。壁面に作り付けのケース１基、平置きケース２台、掲示用のボード、長机、映像がある場合はモニターなどを用いていた。

基本的には、事業部の各課が数か月ごとに交代して担当し、所蔵資料、パネル、企業・団体等からの借用品を展示していた。

敢えて「ミニ」と付けているのは、1959 年の開館からの数年間は１階で大掛かりな展示をしていたことや、博物館のような立派な展示と勘違いしないようにという配慮があった。展示の時期や内容にもよるが、数か月前にテーマを決めて、課をあげて準備をすすめていた。2010 年度の組織改編により５課から３課に減ったことなどもあり、徐々に開催の間隔は長くなっていった。

ミニ展示では、通常、展示内容と関わる講師を招いたミニ展示関連講演を開催していた。これは、展示と講演を併せておこなうことで、知識を深めるというだけではなく、メディア等に注目されやすいという狙いもあった。

展示の入れ替えは館内整理日などに行っていた。やむを得ず間に合わないときは、「一部は準備中」などの張り紙をして、開催後も数日間、準備を続けていた。

当館での展示後に、県内の市町村の図書館などへ当館作成のパネルを貸し出し、その図書館での展示に活用されたこともあった。

以下、年度ごとに展示を紹介する。

展示「インスタントラーメン 50 年の歴史」

8.1　2008 年度

「インスタントラーメン 50 年の歴史～日本が生んだ世界食～」

開催：2008 年 4 月 8 日から 5 月 25 日

インスタントラーメンの開発の秘話などを紹介。インスタントラーメンの断面がわかるように工作したものも展示した。関連講演会は「たかがインスタントラーメン　されどインスタントラーメン」講師：木島実氏（日本大学）。

十字路．日本農業新聞．2008.5.1，朝刊．

即席ラーメンの歴史紹介．東京新聞．2008.5.6，朝刊．

半世紀の道３分から．神奈川新聞．2008.4.25，朝刊．

「即席ラーメン50年」展．毎日新聞．2008.4.19，朝刊．

南足柄市立図書館に貸し出して展示したことが記事にもなった。（神奈川新聞．2009.11.30，川崎版．）

「地球温暖化への警鐘－IPCC20 年の歩み」

開催：2008 年 5 月 28 日から 7 月 16 日

地球温暖化への警鐘を鳴らしてきた国際的組織である IPCC の 20 周年を記念して開催。その歩みを振り返った。

「ペンシルロケットから半世紀－日本の宇宙開発の歩み」

開催：2008 年 7 月 18 日から 9 月 10 日

ペンシルロケットにはじまった宇宙開発の歩みを紹介。ペンシルロケットのレプリカ等も展示した。

ペンシルロケット歴史 パネルで紹介．神奈川新聞．2008.8.14，朝刊，神奈川版．

宇宙開発の歩みたどる．神奈川新聞．2008.8.14，朝刊，川崎版．

宇宙開発知る展示．東京新聞．2008.8.28，朝刊．

展示「県立川崎図書館 50 年の歩み」

「県立川崎図書館 50 年の歩み＆未来の歴史に触れてみよう」

開催：2008 年 9 月 12 日から 12 月 10 日

50 周年式典の時期にあわせて開催。当館の歴史を年表・パネルで紹介。IC タグを使ったディスプレイ方式の紹介などを NEC や内田洋行の協力のもとに実施した。

「江戸商家の家訓に学ぶ企業倫理－家訓と CSR－」

開催：2008 年 12 月 12 日から 2009 年 2 月 1 日

企業の CSR（企業の社会的責任）を、江戸時代の商家の家訓とあわせて紹介し、企業倫理の本質をパネルなどで紹介。老舗企業の社史などを展示。関連講演会は「江戸に学ぶ企業倫理－今日に生かすべき先人の教え－」講師：小林俊治氏（早稲田大学）。

「ロボット技術の現在」

開催：2009 年 2 月 4 日から 2009 年 3 月 31 日

世界一の技術体験．神奈川新聞．2009.3.27，朝刊，川崎版．

ロボット技術の歩みをたどる展示。あわせてロボット競技大会に参加する県内の高校の取り組みを紹介した。関連講演会は「国際競技大会優勝ロボットがやってくる！」解説・実演：尾花健司氏（県立磯子工業高校）。

8.2　2009 年度

「宇宙（そら）を観る－2009 年は世界天文年 ガリレオから 400 年－」

開催：2009 年 4 月 8 日から 5 月 24 日

天文年ちなみ企画展．神奈川新聞．2009.4.12，朝刊，川崎版．

世界天文年にあわせてガリレオの人物・業績の紹介などをした。関連講演会は「春の星空めぐり」講師：山田幸一氏（県立青少年センター）。

「北洋観測～海洋地球研究船『みらい』からの温暖化報告～」

開催：2009 年 5 月 27 日から 7 月 8 日

環境月間ちなみ北極観測を紹介．朝日新聞．2009.6.18，朝刊，川崎版．

みらいが北極海で調査をした成果を、海洋研究開発機構（JAMSTEC）の協力を得て、パネルや映像で紹介した。関連講演会は「2008 年の北極海 知っているようで知らない北極の様子」講師：米本智仁氏（海洋研究開発機構）。

「小さいもの集まれ！微生物の世界」

開催：2009 年 7 月 10 日から 9 月 9 日

微生物の世界を紹介．読売新聞．2009.9.4，朝刊，川崎版．

微生物の世界を説明した。また、調査に不可欠な顕微鏡にもスポットをあてた。関連講演会は「インフルエンザのはなし」講師：斎藤隆行氏（県衛生研究所）。

「『優秀会社史賞』受賞社史展」

開催：2009 年 9 月 11 日から 11 月 11 日

財団法人日本経営史研究所が隔年で表彰している優秀会社史賞の

受賞社史を展示した。関連講演会は「目からウロコの創業記」講師：村橋勝子氏（社史研究家）。

「かながわの産業遺産物語」

開催：2009 年 11 月 13 日から 2010 年 1 月 13 日

スチームハンマー、巨大歯車、橋、トンネルなど県内の産業遺産、記念碑などを紹介した。県立機関活用講座「産業史とともに」と関連した開催だった。

「大地が語る地球の魅力－人と地球の記憶を語るジオパーク」

開催：2010 年 1 月 15 日から 3 月 31 日

国内のジオパークを県立生命の星・地球博物館や各地のジオパークの協力を得て紹介した。テーマと関連したサイエンスカフェ「地球のミドコロ教えます」を期間中に開催した。

8.3　2010 年度

「包装の美と技術の歩み」

開催：2010 年 4 月 13 日から 7 月 7 日

さまざまな商品パッケージを紹介し、包装の歴史をたどった。関連講演会は「包装技術の歩みをたどる」講師：澤村邦夫氏（日本包装技術協会 包装技術研究所所長）。

「小惑星探査機『はやぶさ』の冒険」

開催：2010 年 7 月 9 日から 10 月 13 日

2003 年に打ち上げられ 2010 年６月に地球にサンプルを届けた『はやぶさ』の軌跡を紹介した。「はやぶさ」や小惑星「いとかわ」の模型も展示。関連講演会は「小惑星探査機『はやぶさ』の冒険」講師：川口淳一郎氏（JAXA はやぶさプロジェクトリーダー）。

「技能ルネッサンス！かながわ 2010」

開催：2010 年 10 月 15 日から 10 月 31 日

神奈川県で開催する技能五輪全国大会にあわせて急遽企画したため短期の開催となった。大会委員会と協力して協議課題作品なども展示。当館もスタンプラリーの設置場所となり、キャラクター「カモメン」の着ぐるみも来館。

「できる会社の社長力～昭和生まれの創業者」

開催：2010 年 11 月 3 日から 2011 年 1 月 12 日

企業の社是・社訓などをとりあげ、関連する社史やビジネスサプリ本を展示した。クイズ風の展示も行った。関連講演会は「できる会社の社是・社訓」講師：千野信浩氏（ダイヤモンド社編集者）。

「“はかる”技術」

開催：2011 年 1 月 14 日から 3 月 31 日

神奈川県計量協会所蔵のキログラム原器、メートル原器のレプリ

珍しい地形の自然公園を紹介．　産経新聞．2010.3.11，朝刊，川崎版．

コラム

「小惑星探査機『はやぶさ』の冒険」の関連講演会は、応募が殺到したこともあり、急遽、USTREAM で配信を行った。閲覧者数は 682 名であった。はやぶさの帰還前から依頼をしていたので、時の人となった川口氏の講演が実現した。

宇宙への興味広げて．　神奈川新聞．2010.7.29，朝刊，川崎版．

はやぶさ関連の展示．　しんぶん赤旗．2010.7.17，朝刊．

小惑星探査機はやぶさ、県立川崎図書館に…….SiL．2010.7，no.20.

カモメンの着ぐるみを着る職員

カモメンが遊びに来たよ！．　SiL．2010.10，no.21.

やさしい科学コーナーでも、「はかる」を特集した。

県立川崎図書館でミニ展示「“はかる”技術」.日本計量新報.2011.1.30, no.2855.

東北の自然、産業知って. 東京新聞. 2011.4.28, 朝刊, 川崎版.

高田高史. 社史の図書館と司書の物語.柏書房, 2017, 265p.

企業キャラ世相を投影. 日本経済新聞. 2011.9.1, 朝刊.

企業キャラの秘話紹介. 神奈川新聞. 2011.8.24, 朝刊.

社史をもとに企業キャラ展. 毎日新聞. 2011.8.13, 朝刊, 川崎版.

キャラクターで企業の歴史知る. 読売新聞. 2011.7.31, 朝刊, 川崎版.

ペコちゃんが県立川崎図書館に来ているよ!. SiL. 2011.7, no.24.

“社史の魅力紹介ー展示「社史にみる企業キャラクター」.”司書の出番. 2011.7.10. https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=473.

「東京スカイツリーとタワー建築」を展示します。. SiL. 2012.1, no.26.

タワーの今昔比較. 神奈川新聞. 2012.2.5, 朝刊, 川崎版.

笑わせて、考えさせて「イグ・ノーベル賞」展. 朝日新聞. 2012.4.27, 朝刊, 川崎版.

イグ・ノーベル賞知ろう. 東京新聞. 2012.4.18, 朝刊, 神奈川版.

笑いの科学紹介. 神奈川新聞. 2012.4.23, 朝刊, 川崎版.

火災報知器はワサビの香り. 読売新聞. 2012.4.29, 朝刊, 川崎版.

カなどを借用。さまざまな “はかる” にまつわるミニ知識を紹介した。関連講演会は「“はかる” 技術の歴史ーヒトはモノをどうはかってきたかー」講師:沢辺雅二氏(沼田記念館・ミツトヨ博物館館長)。

8.4 2011 年度

「東北地方の産業と自然」

開催:2011 年 4 月 8 日から 5 月 11 日

東日本大震災の被災地の本来の姿を伝える目的で急遽企画。東北地方に関する本を展示した。節電中だったこともあり、会場の一部やケース内の蛍光灯を外すなど、照明を控えた。

「ノーベル賞からのメッセージ」

開催:2011 年 5 月 13 日から 7 月 13 日

アルフレッド・ノーベルの生涯・実績、日本人受賞者、ノーベル賞に関する事柄などを紹介した。関連講演会は「ノーベル賞受賞者たちの栄光とその舞台裏」講師:馬場錬成氏(東京理科大学)。

「社史にみる企業キャラクター」

開催:2011 年 7 月 15 日から 10 月 12 日

おなじみの企業キャラクターは社史にどう書かれているのかを紹介。店頭ペコちゃん(不二家)、店頭ケロちゃん&コロちゃん(興和)なども借用。関連講演会は「社史にみる企業キャラクター」講師:当館職員(期間中に2回開催)。

「いま、日本の森を…2011 国際森林年」

開催:2011 年 10 月 14 日から 12 月 7 日

国際森林年にあわせて「知ろう」「再生させよう」「楽しもう」の 3 つのテーマで日本の森林を紹介した。関連講演会は「日本の森は今」講師:鹿住貴之氏(樹恩ネットワーク事務局長)。

「『三浦半島のとっておきの風景』巡回展」

開催:2011 年 12 月 9 日から 2012 年 1 月 11 日

横須賀三浦地域県政総合センターとの共催。三浦半島の写真や、世界遺産登録を目指す「武家の古都・鎌倉」を紹介。パンフレットの配布も行った。

「東京スカイツリーとタワー建築」

開催:2012 年 1 月 13 日から 3 月 31 日

2012 年5月にオープンが迫る東京スカイツリーや全国のタワーを紹介。「高さを求めて(内藤多仲の業績)」「東京スカイツリー」「日本各地のタワー」の3つのテーマを設けた。関連講演会は「東京スカイツリーの秘密」講師:澄川喜一氏(彫刻家、東京スカイツリーデザイン監修者)。

8.5　2012 年度

「イグ・ノーベル賞に注目！」

開催期間：2012 年 4 月 8 日から 5 月 9 日

日本人が受賞した業績を中心に、イグ・ノーベル賞を紹介した。関連講演会は「イグ・ノーベル賞受賞者が語る 香りが変える未来社会」講師：田島幸信氏（香りマーケティング協会理事長）。

「みんなで選ぶ社史グランプリ－東西図書館投票－」

開催期間：2012 年 5 月 11 日から 7 月 11 日

大阪府立中之島図書館と合同で、2010 年以降に刊行した社史 27 点を５部門に分け投票イベントを行った。また、日清食品や味の素、内田洋行から会社にまつわる品物を借りてケース内で展示した。

関連講演会は「社史 千夜一夜物語」講師：土屋暁氏（大日本印刷 C&I 事業部）。

「南の海で生まれた丹沢・伊豆の化石展」

開催期間：2012 年 7 月 13 日から 10 月 10 日

神奈川の大地の誕生、南の海から来た丹沢と伊豆の大地、化石が語る伊豆半島物語というテーマで展示。関連講演会は「南の海で生まれた丹沢・伊豆の化石」講師：門田真人氏（神奈川地学会会長）。

「進化しつづける電気洗濯機」

開催期間：2012 年 10 月 12 日から 2013 年 1 月 9 日

電気洗濯機の歴史や機能の変遷について、特許資料なども用いて解説した。関連講演会は「電気洗濯機 100 年の歴史」講師：大西正幸氏（生活家電研究家）。

「読む 知る 感じる 夢見ヶ崎動物公園」

開催期間：2013 年 1 月 11 日から 3 月 31 日

川崎市夢見ヶ崎動物公園の協力のもと、シマウマ一日分のエサや、レッサーパンダのエサと糞などを展示した。また、飼育係が使用している道具や飼育係オススメの本等を紹介した。関連講演会１は「獣医が語る夢見ヶ崎動物公園の裏側～飼育・作業・診療～」、関連講演会２は「高校生に教える 夢見ヶ崎動物公園の裏側～飼育・作業・診療～」講師はいずれも鈴木友氏（夢見ヶ崎動物公園）。

> コラム
>
> 動物の写真をポストカードにしてクイズの景品にしたり、パソコンの壁紙としてダウンロードできるようにもしました。また、高校生向けの講演会では、県内高校のホームページで生物部等の有無を調べ、顧問の先生宛にチラシを送り PR しました。多くの高校生が参加し、進路の参考になったという声もいただきました。

“特集！みんなで選ぶ社史グランプリ”社楽. 2012.5, vol.4.

“発表！みんなで選ぶ社史グランプリ”社楽. 2012.6, vol.5.

“講演「日本水産百年史」ができるまで”社楽. 2012.7, vol.6.

小池貴子. みんなで選ぶ社史グランプリ～東西図書館投票. 図書館雑誌. 2013, vol.107, no.2, p.94-95.（大阪府司書との共著）

高田高史. 社史の図書館と司書の物語. 柏書房, 2017, 265p.

社史の進化見比べて. 朝日新聞. 2012.6.9, 朝刊, 横浜版.

「通の評価、光栄」社史グランプリ　アサヒビール表彰. 神奈川新聞. 2012.7.11, 朝刊, 川崎版.

社史の人気　アサヒビール１位. 読売新聞. 2012.6.24, 朝刊, 川崎版.

社史グランプリ　アサヒビールに. 日本経済新聞. 2012.7.11, 神奈川首都圏版.

投票形式　社史グランプリ. 読売新聞. 2012.4.21, 朝刊, 川崎版.

社史グランプリは　大阪の施設と共同企画. 神奈川新聞, 2012.4.21, 川崎版.

みんなで選ぶ社史ブランプリ東西図書館投票. あうる. 2012, no.107. p.39.

川崎「この社史いいじゃん」/ 大阪「あの社史ええねん」. SiL. 2012, no.27.

社説　社史グランプリ. 神奈川新聞.

秋空に洗濯物…洗濯機の歴史を見て聴いて. SiL. 2012.10, no.29.

図書館と動物園が〈夢〉のコラボです！. SiL. 2013, no.30.

当館初 高校生向け講座開催. SiL. 2013.4, no.31.

夢見ヶ崎の動物知ろう. 神奈川新聞. 2013.2.7, 朝刊, 川崎版.

夢見ヶ崎動物公園展が人気．読売新聞．2013.1.24,朝刊，川崎版．

県立川崎図書館　動物園を「見せる」．東京新聞．2013.1.25，朝刊，川崎版．

図書館の中で動物園を紹介．朝日新聞．2013.1.31，朝刊，第２神奈川版．

あの近代建築が県立川崎図書館に！？.SiL. 2013.4，no.31.

“川崎図書館ミニ展示「辰野金吾と丸の内ー東京駅と近代建築の保存ー」開催中”司書の出番. 2013.6.18, https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=1648.

今の時期の星空知って．神奈川新聞．2013.7.27，朝刊．

飛行機好き 集まれ．神奈川新聞．2013.11.20，朝刊．

航空会社から資料借り展示．朝日新聞．2013.11.19，朝刊．

図書館空港から飛び立つ！．SiL．2013.10，no.33.

「図書館空港」の関連講演会は展示期間中の９月開催予定で募集をしていたが、講師の都合にて2014 年３月に日程を変更。

神奈川県立川崎図書館展示「橋ーかたちと技術ー」．橋 海響だより 本州四国連絡高速道路㈱社内報．2014.2-3，no.57，p.14.

生命科学研究に貢献するマウス．東京新聞．2014.6.14，朝刊，川崎版．

マウスの活躍知って．毎日新聞．2014.6.20，朝刊．

研究支える生物に焦点．神奈川新聞．2014.7.3，朝刊，川崎版．

8.6　2013 年度

「辰野金吾と丸の内」

開催期間：2013 年 4 月 9 日から 7 月 10 日

建築家・辰野金吾が手掛けた東京駅丸の内駅舎と日本銀行本店を取り上げた。職員が作った模型なども展示。近代建築の保存についてもパネルで紹介した。関連講演会は「なぜ人は残してきたかー東京駅丸の内駅舎と日本銀行本店の保存と復元ー」講師：中村茂樹氏（日本銀行）・大内田史郎氏（JR 東日本）・吉田鋼市氏（横浜国立大学）。

「星に親しむ」

開催期間：2013 年 7 月 12 日から 10 月 9 日

ペルセウス流星群、アイソン彗星を取り上げるとともに、日本各地の天文台・プラネタリウムを紹介した。笹と短冊を用意し「旧暦で七夕を祝おう」のイベントも。関連講演会は「地上最高の星空づくりを目指して～MEGASTAR 開発ストーリー～」講師：大平貴之氏（プラネタリウム・クリエーター）。

「図書館空港～空を飛ぶ技術～」

開催期間：2013 年 10 月 11 日から 2014 年 1 月 8 日

航空技術の本 100 冊をパネルで紹介した。ANA や JAL から借用した品々、鳥人間コンクール関係の資料を展示した。関連講演会は「鳥になりたい男たち～人力飛行機 世界記録にかける青春～」講師：安部建一氏（日本大学）。

「橋 ー形と技術ー」

開催期間：2014 年 1 月 10 日から 5 月 7 日

橋についての基本的な事項や技術的な歴史と、神奈川および日本の代表的な橋を紹介した。関連講演会は「橋～かたちと技術～」講師：勝地弘氏（横浜国立大学）。

8.7　2014 年度

「理科教育・生命科学の発展を支える生物」

開催時期：2014 年 5 月 9 日から 8 月 13 日

学校理科教育の実験・実習や生命科学の研究に利用されている生物を紹介した。シロイヌナズナ、アカハライモリ、メダカ等の手作りの模型も展示した。関連講演会は「その研究 マウスで確認できました！」講師：伊藤守氏（実験動物中央研究所）。

「かわさき区のたからもの」

開催時期：2014 年 8 月 15 日から 11 月 12 日

川崎区内の工場や産業遺産を紹介した。川崎駅から当館までの道のりを模型にし、特徴的な建造物等を示した。当館のペーパークラ

フトも配布。関連講演会は、文字・活字文化の日記念講演会（10 月 26 日）を兼ねて実施した。

「キノコとその仲間たち」

開催時期：2014 年 11 月 14 日から 2015 年 2 月 11 日

県立生命の星・地球博物館からパネル・標本を借用するなどして、キノコ、カビ、菌類などを説明した。関連講演会は「きのこ博士の世界放浪記」講師：保坂健太郎氏(国立科学博物館)。

展示「キノコとその仲間たち」

「ゆるキャラ®と商標」

開催時期：2015 年 2 月 13 日から 5 月 13 日

ゆるキャラをテーマとして、商標と関連づけた展示を行った。新サービスの「特許情報プラットフォーム」も紹介した。関連講演会は「ゆるキャラ®と知的財産権」講師：穂坂道子氏（河野国際特許商標事務所弁理士)。

ゆるキャラの商標権考える講演会を開催. 東京新聞. 2015.2.6, 朝刊.

コラム

ゆるキャラの展示をするにあたり、日本地図を掲出、各地のキャラクターを配置して展示することにしました。館内で呼びかけたところ、旅行の土産や親戚や友人から或いは物産展で入手などご協力頂き、かなりの数が集まりましたが、10 県ほどはどうしても埋まりません。

始まった展示を見た当時の館長が、東京事務所に元部下がいるのできいてみよう、と言ってくれました。各都道府県は、国会などへの政治活動や観光 PR などのため、東京中心部に東京事務所を構えています。こうしてキャラクター不在の県の東京事務所に連絡をとってお借りしにいくことになりました。

当日、永田町の市町村会館内にある事務所を訪れました。ビルの中には各県東京事務所が入居しています。訪れた素晴らしい眺望の部屋には、知事が国会へ陳情などの所用で立ち寄るときに座るという椅子もありました。

そこからは事前に東京事務所の方が作成した分刻みのスケジュールで各県事務所を訪ねて回ります。みなさん親切に、ご自慢のキャラクターたちのグッズを貸してくださいました。事務所ごとにその県のカラーが出ているようで、面白いものです。

持参したバックもパンパンになり、お礼を言って事務所を後にしました。こうしてめでたく全都道府県を制覇、その道のりは「クリッピング」にも連載させて頂きました。

8.8　2015 年度

「自然×ひらめき＝新技術」

開催時期：2015 年 5 月 15 日から 8 月 12 日

企業から商品等を借用して、生物模倣（バイオミメティクス）の実

生物ヒント 製品を展示. 日本経済新聞. 2015.2.6, 朝刊, 神奈川・首都圏経済版.

紙の進化をテーマに講演会と展示会. 紙之新聞. 2015.10.5.

小林利栄子. 神奈川県立川崎図書館「ハイパフォーマンスペーパー～進化する紙～」. 機能紙研究会誌. 2015.10, no.54, p.59-64.

高田高史. 展示「文化財を守る技術」の開催まで. ネットワーク資料保存. 2016.3, no.113, p.1-3.

保存、復元に焦点. 神奈川新聞. 2015.12.23, 朝刊.

図やイラストでPM2.5解説. 東京新聞. 2016.2.12, 朝刊.

雑誌でパソコンの進化を振り返る！.SiL. 2016.7, no.44.

“パソコン雑誌と向き合って（ミニ展示「雑誌にみるパソコンの進化」を開催しました！）”司書の出番.2016.10.12, https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=4842.

ミニ展示に素材提供 日本ねじ工業協会. 日刊産業新聞. 2016.9.7.

ねじの特設コーナー. 金属産業新聞. 2016.9.12.

産業の塩、生活を支える“ねじ”. 金属産業新聞. 2016.9.26.

ねじの“ミニ展示”開催中. ファスニングジャーナル. 2016.9.27.

トコトンやさしい「ねじ」のお話. ファスニングジャーナル. 2016.11.7.

“ミニ展示「産業の塩　生活を支える“ねじ”」を振り返って”司書の出番. 2017.1.20, https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=5271.

例を紹介した。関連講演会１は「生き物×特性観察＝ぶつからないクルマ」講師：安藤敏之氏（日産自動車総合研究所）、関連講演２は「自然に学ぶものづくり」講師：赤池学氏（ユニバーサルデザイン総合研究所所長）。

「ハイパフォーマンスペーパー」

開催時期：2015 年 8 月 14 日から 11 月 11 日

機能紙の基本的な事項や生活の中での使われ方を、実際の機能紙とともに紹介した。関連講演会は「紙の可能性 過去～現在～未来」講師：江前俊晴氏（筑波大学）。

「文化財を守る技術」

開催時期：2015 年 11 月 13 日から 2016 年 2 月 11 日

文化財を守る技術を、博物館・団体・企業からの借用品などとともに展示した。関連講演会１は「未来へ“文化”をつなげるために－神奈川県立歴史博物館の資料保存－」講師：嶋村元宏氏（神奈川県立歴史博物館）、関連講演会２は「博物館の大きな役割としての資料保存－そのための環境と維持管理－」講師：吉田直人氏（東京文化財研究所保存修復科学センター）。

「生活に身近な環境情報」

開催時期：2016 年 2 月 13 日から 5 月 11 日

川崎市環境局の協力により、PM2.5 などの大気汚染物質や化学物質の基礎的な情報等を紹介した。関連講演会は「知っていますか？PM2.5 川崎市の環境対策の歴史と現在の取組」講師：井上俊明氏（NPO 法人環境研究会かわさき）・三澤隆弘氏（川崎市環境総合研究所）。

8.9　2016年度

「雑誌にみるパソコンの進化」

開催時期：2016 年 5 月 13 日から 9 月 7 日

所蔵しているパソコン雑誌で、1980年代から2000年頃のパソコンの進化の過程を振り返った。また、同時期に展示コーナー内でミニミニ展示「川崎図書館の自慢」を開催した。関連講演会は「パーソナルコンピュータの進化とネットワークの変遷」講師：藤広哲也氏（コアブレインズ代表取締役）。

「産業の塩 生活を支える“ねじ”」

開催時期：2016 年 9 月 9 日から 2017 年 1 月 11 日

ねじの歴史、基礎知識、できるまでの工程などを紹介した。関連講演会は「トコトンやさしい「ねじ」のお話」講師：門田和雄氏（宮城教育大学）。

「単位のあゆみ」

2017 年 1 月 13 日から 5 月 10 日

長さや重さの単位のこれまでとこれからを、神奈川県計量検定所の協力を得て行った。関連講演会は「キログラム原器の役割終了へ～物体による標準から物理定数へ～」講師：内川恵三郎氏（日本計量史学会会長）。

神奈川県立川崎図書館で展示「単位のあゆみ」を開催中. 日本計量新報. 2017.1.29.

“ミニ展示「単位のあゆみ」を開催中” 司書の出番. 2017.2.2. https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=5322.

8.10　2017 年度

「川崎図書館のあゆみ」

2017 年 5 月 12 日から 9 月 30 日

当館のこれまでの歴史を、写真や刊行物、ゆかりの品々などで振り返った。「川崎図書館おもいでかるた」も作成し、インターネットでも閲覧できるようにしていた。

（第 1 部　13.3 参照）

9　講演会・イベント

当館では、前章のミニ展示をはじめ、多くの講演会やイベントを開催している。その多彩さ、内容の充実は、特記すべきことといえる。主な取り組みを以下に紹介するが、演題・講師名・開催日等は全てを記せなかった。詳細は各年度の事業概要に記録している。

9.1　科学・技術関係

9.1.1　文字・活字文化の日記念講演会

2005 年に制定された「文字・活字文化振興法」により、10 月 27 日は文字・活字文化の日と定められた。当館では、10 月 27 日もしくはその前後に、著書のある講師を招き講演会を開催している。

	演　題	講 師
2008 年	文学における科学の風景	池内 了
2009 年	身近で見る進化	北村 雄一
2010 年	日本のものづくりの今	奥山 睦
2011 年	アインシュタインと 21 世紀の科学	小山 慶太
2012 年	渋滞のサイエンスを実践してみる	西成 活裕
2013 年	うなぎの話	青山 潤
2014 年	川崎駅周辺地区のまちづくり	中井 検裕
	海の中で動物たちは何をしているのか	佐藤 克文
2015 年	できたての地球	廣瀬 敬
2016 年	カラスの出張授業	松原 始

（敬称略）

コラム

佐藤克文先生に文字・活字文化の日記念講演会の講師を依頼したところ、佐藤先生は当館を子供のころ、利用していたとうかがった。ただ、10月下旬はご都合が悪いということなので、12月に特別講演会として開催した。その時の広報用のチラシに以下のメッセージをいただいた。「物心ついて本を読むようになってから県立川崎図書館にバスで通い詰めていました。図書館で本を借りた後、川崎球場近くの屋台でおやつを買ったり、隣の広場で時々行われたサーカスを見たことを覚えています。」

コラム

中井検裕先生の講演の当日（10 月 26 日）は、かわさきハロウィンの開催日。おまけに、その年のパレードは、当館の正面を通っていくコースでした。講演中、窓の外には、いろいろな仮装の皆さんが騒がしく通っていく事態となり、中井先生も講演を中断して笑っていました。2 階の窓に我々の姿を見かけると、手を振ってくれる仮装の皆さんも多かったです。翌年からはコースが変わってしまいました。

9.1.2　サイエンスカフェ

サイエンスカフェは、飲み物を片手に科学者と市民が身近に語り合う試みとして、1998 年にイギリスやフランスではじまったとされる。当館では 2006 年より開催した。当初は県立機関活用講座として行った。集客への苦労もあったが、チラシの作り方やタイトルを工夫するなどして、100 名以上の応募がある人気イベントとなった。

2008 年４月「ニセ科学の見破り方教えます」（ゲスト：左巻健男氏）には 189 名の応募があり、サイエンスカフェでははじめての抽選を行った。2008 年８月の「第２の地球の探し方」（ゲスト：藤原英明氏）をはじめ幾度か、応募者が定員を大幅に上回ったため、午前・午後の２回実施したこともあった。2008 年 12 月の「体内時計を調整するメラトニンの秘密」（服部淳彦氏、竹村真由子氏）や、2009 年２月の「発見者藤嶋さんが語る光触媒のすべて」（ゲスト：藤嶋昭氏）では定員を 90 名まで拡大した。

2010 年には、理化学研究所横浜研究所が創立 10 周年を迎え、サイエンスカフェの共催の申し出があった。以来、毎年、理化学研究所横浜研究所とも共催でサイエンスカフェを開催してきた。

他に、県機関の専門家等が講師をすることもあった。

「カフェ」と称していることから、会場の一角では、飲み物（コーヒーや紅茶、ペットボトル飲料）を提供している。

「ニセ科学」にご用心．神奈川新聞．2009.4.27，かながわNIEキッズweekly.

月の謎 研究者と語らう「サイエンスカフェ」に100人．神奈川新聞．2009.9.6，朝刊，川崎版.

県立川崎図書館サイエンスカフェ　研究最前線語る．神奈川新聞．2010.8.13，朝刊，川崎版.

2008 年度 「ニセ科学の見破り方教えます」 「かながわの大気環境を読む」 「第２の地球の探し方」　※午前・午後２回開催 「ニセ科学の見破り方教えます Ver. ２」 「体内時計を調節するメラトニンの秘密」 「発見者藤嶋さんが語る光触媒のすべて」
2009 年度 「ニセ科学の見破り方教えます ver. 1. 1」 「月の残された謎　その起源に迫る」 ※午前・午後２回開催 「世界を変えたダーウィンの進化論が生まれるまで」 ※午前・午後２回開催 「ニセ科学の見破り方」 「地球のミドコロ教えます」
2010 年度 「キカイとカラダの意外な関係」 「リンパ球から iPS 細胞をつくる！」

「ゲノムってどうやって調べるの？どう役に立つの？」 「相模湾ってどんなところ？」
2011 年度 「津波の科学」 「海底温泉に生きる動物たち」 「神奈川県の警報・注意報！」 「遺伝子組み換え作物って…何？」 「津波のメカニズムと減災」 ※「津波の科学」の申込者が多数であったため再度開催した。 「細胞が運命を決めるとき」
2012 年度 「腸内細菌とプロバイオティクス」 「糖尿病になりやすい体質ってなんだろう？」 「光で探るシリコン結晶の世界」 「DNA とタンパク質の知られざる関係とは？」
2013 年度 「インフルエンザについて」 「今、神奈川の地下で何が起こっているのか…地震・火山」 「奮い立て免疫！ーからだを守るミクロの世界」 「植物の『見えない力』を捉える技術」
2014 年度 「大気汚染の現状と課題」 「魔女の草を排除せよ。寄生植物ストライガの撲滅に向けて」 「身近な制御工学　～家電からロボットまで～」 「ただの栄養素？　世の中が変わるタンパク質研究」
2015 年度 「化学物質について考えてみましょう」 「南極のペンギンと環境変動」 「植物にだけできること　～バイオマス植物のはなし～」
2016 年度 「どうなっている？箱根の火山」 「遺伝情報が医療を変える」 「きのこの世界のナマケモノ？」
2017 年度 「老化と筋萎縮について」

9.1.3　県立機関活用講座

県民の高度、専門的な学習に応えるため、県の生涯学習機関等で

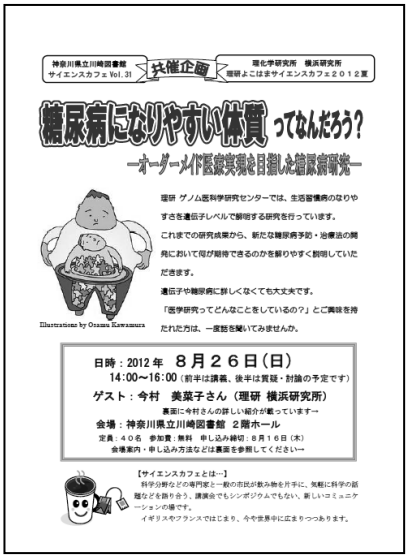
相模湾をテーマにサイエンスカフェ．神奈川新聞，2010.10.28，朝刊，川崎版.

教授と語らう津波の科学 来月川崎でサイエンスカフェ．読売新聞．2011.6.5,朝刊，横浜版.

語る「津波の科学」参加者を募集．神奈川新聞．2011.6.11，朝刊，川崎版.

県立川崎図書館サイエンスカフェ「津波の科学」．日本経済新聞．2011.6.17，朝刊，神奈川版.

減災に向け課題探る 専門家と市民津波テーマに語り合う．神奈川新聞．2011.7.23，朝刊，川崎版.



サイエンスカフェのチラシ

ペンギンが語る生態系変化　県立川崎図書館　南極海環境学ぶ催し．朝日新聞．2015.8.13，朝刊，横浜版.

南極へ関心高めて．神奈川新聞．2015.9.4，朝刊，川崎版.

「老化と筋委縮」治療法など紹介．神奈川新聞．2017.4.29，朝刊，川崎版.

「科学を撮る」のポスター

サイエンスロマン

電子楽器「ケロミン」誕生秘話を語る．神奈川新聞．2012.10.3，朝刊，川崎版．

「ケロミン」誕生の秘話．東京新聞．2012.10.3，朝刊，川崎版．

稲木美由紀．神奈川県立川崎図書館のビジネス支援サービス：知的財産権分野における連携を中心に．情報の科学と技術．2011，vol.61，no.6，p.222-227.

テーマを決めて行う連続講座で、受講は有料だった。当館では2010年まで開催していた。

	テーマ名・講師（敬称略）
2008 年 6 月	「スペシャリストが語る地球の未来」（4回） 講師：西澤利栄、中村征夫、岸由二、松岡延浩
2009 年 10 月-11 月	「産業史とともに」（5回） 講師：清水慶一、経済産業省・川崎市担当者、種田明、増田彰久、高橋哲郎
2010 年 10 月-11 月	「科学を撮る」（4回） 講師：海野和男、伊知地国夫、松野茂雄、白尾元理

9.1.4　サイエンスロマン

当館と関わりのある分野の県立機関と連携を密接にする目的で、横浜駅西口近くにある生涯学習情報センターを会場に開催した。2010 年度は「地層や化石から過去の様子を描き出す」（講師：生命の星・地球博物館学芸員）、2011 年度は「丹沢の希少植物」（講師：自然環境保全センター研究員）、2012 年度は「かながわの希少淡水魚を守る」（講師：水産技術センター研究員）を実施した。開館しながら、他所で開催するため人員の手配などは苦労した。

9.1.5　開発秘話シリーズ

「シリーズ」とあるが、1回のみの実施だった。2012 年 10 月に開催した「開発者が語る『ケロミン誕生秘話』」では、カエルのかたちをしたパペット人形の楽器の開発を取りあげた。

9.2　ビジネス支援関係

1996 年に神奈川県知的所有権センター支部として認定を受けるなど、主に知的財産部門において、相談やセミナーなどの活動を積極的に行ってきた。主なものは以下のとおりである。

9.2.1　相談事業

発明相談は、月２回程度開催した。神奈川県発明協会（旧、発明協会神奈川支部）の担当者が来館し、中小企業や個人事業主の方などの相談に応じた。

創業・経営相談は、月２回程度開催した。けいしん神奈川（旧、神奈川県経営診断協会）の中小企業診断士が来館し、創業の計画や資金調達などの相談に応じた。

経営相談は、毎月１回程度、川崎商工会議所の経営指導員が来館

し、経営に関する相談に応じた（2011 年度までの実施）。

技術相談は、予約により随時開催した。神奈川県産業技術センターの技術コーディネーターが来館し、技術関係の相談に応じた。（2012 年度までの実施）。

特許情報活用相談は、予約により随時開催した。特許情報活用支援アドバイザーが来館し、特許流通活用に関する相談に応じた。（2010 年度までの実施）。

特許情報流通相談は、予約により随時開催した。特許流通アドバイザーが来館し、特許情報の流通に関する相談に応じた。（2011 年度までの実施）。

これら各種の相談は、１階の相談コーナー（１階、裏口近くの小さな部屋）において行っていた。

特許情報活用講座のチラシ

9.2.2　知的財産関係情報等の提供

知財に関する各種のセミナーは他機関との共催や後援というかたちで実施してきた。主なものは以下のとおりである。

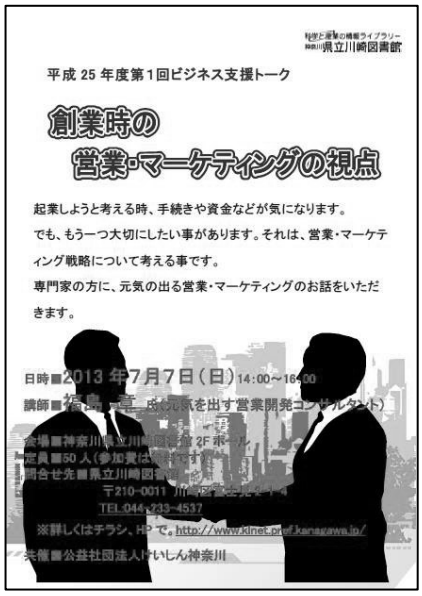
2008 年度	特許情報検索アドバイザーによる「特許情報（IPDL）活用講習会」（41 回）、県知的所有権センター４機関共催「特許活用セミナー」（２回）
2009 年度	特許情報活用アドバイザーによる「特許情報活用講座」（42 回）、県知的所有権センター主催「特許情報活用セミナー」（１回）
2010 年度	特許情報活用アドバイザーによる「特許情報活用講座」（33 回）
2011 年度	川崎市と共催「知的財産スクール in かわさき」（４回）
2012 年度	関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（１回）、川崎市と共催「知的財産スクール in かわさき」（６回）
2013 年度	関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（３回）、川崎市と共催「かわさき知的財産スクール（６回）、横浜弁護士会と連携した「図書館で学ぶ知的財産講座」（２回）および関連講演会（１回）
2014 年度	関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（２回）、川崎市と共催「知的財産スクール in かわさき」（６回）、横浜弁護士

コラム

当時の担当者は、知財関係のセミナー等の変遷を次のように語った。「知財の講座は年に 40 回以上も開催していたが、2010 年度に特許庁の事業が終了してしまう。定着していた事業を、このまま終わらせたくはないと考え、川崎市が知財のセミナーを開催しているのを知り、当館との共催を持ち掛けた（2012 年度）。さらに、横浜市の弁護士会に話を持ち掛け、「図書館で学ぶ知的財産講座」を開催。つづいて、弁理士の団体にも依頼して開催を増やしていった。」

戦略的知財マネジメント促進事業のチラシ

中小経営者向け 知財の連続講座 21 日から県立図書館. 神奈川新聞. 2016. 9. 15, 朝刊, 川崎版.



ビジネス支援トークのチラシ

「人の先にいけ」地元企業の底力. 神奈川新聞. 2010. 2. 7, 朝刊, 川崎版.

「ビジネスにした社長」講演. 毎日新聞. 2012. 1. 29, 朝刊, 川崎版.

中小ビジネス支援トーク. 神奈川新聞. 2013. 1. 16, 朝刊, 川崎版.

2014 年度	会、日本弁理士会関東支部、神奈川県発明協会の後援による「図書館で学ぶ知的財産講座」（５回）
2015 年度	関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（１回）、川崎市と共催「かわさき知的財産スクール」（６回）、横浜弁護士会、日本弁理士会関東支部、神奈川県発明協会後援「図書館で学ぶ知的財産講座」（５回）
2016 年度	関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（１回）、川崎市と共催「かわさき知的財産スクール」（６回）、横浜弁護士会・日本弁理士会関東支部・神奈川県発明協会の後援「図書館で学ぶ知的財産講座」（５回）
2017 年度	関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（１回）、川崎市主催・当館後援「かわさき知的財産スクール」（６回）、神奈川県弁護士会・日本弁理士会関東支部後援「図書館で学ぶ知的財産講座」（４回）

9. 2. 3 ビジネス支援トーク

神奈川県や京浜臨海部などのビジネスシーンで活躍する方を講師に迎え、多彩な情報をビジネスパーソンに提供するトークイベント。

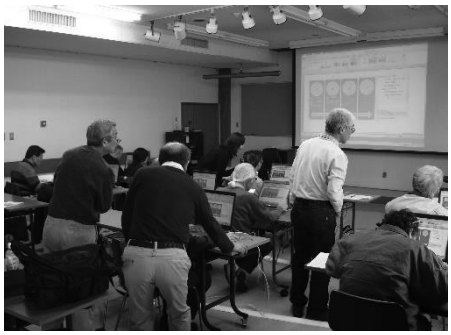
2008 年度	「著者が語る“満員電車がなくなる日”」 「川崎・元気企業の底力－日本理化学工業」 「ビジネスパーソンのための食育」
2009 年度	「江戸呉服商の家訓に学ぶ長期的経営戦略」 「長寿企業の秘訣」 「川崎・元気企業の底力２－営電株式会社」 「失敗から学ぶ創業・新規ビジネスのコツ」 「基礎から学ぶ開業手続きとマーケティング戦略」
2010 年度	「起業のヒントーその目の付けドコロ」 「起業のプロセスー陥りやすい３つのワナ」 「日本のものづくりの今」 「川崎・元気企業の底力３－タイジ株式会社」
2011 年度	「女性起業家が生まれるとき。」 「映像をビジネスにした社長の話」
2012 年度	「起業家が語る。こんなこと、あんなこと！！」 「活力ある中小企業紹介」 「創業する時に知っておきたい『資金と手続き』のはなし」

2013 年度	「創業時の営業・マーケティングの視点」 「人類が抱える様々な課題に、ミドリムシで挑むベンチャー企業の物語」
2014 年度	「『食』は企業の未来を決める」 「脱石油時代、昆虫テクノロジーの産業利用」
2015 年度	「女性企業家の話から事業成功のツボを学ぶ」 「なぜもめる？商標・意匠・著作権」
2016 年度	「地域密着型事業実践者から成功のツボを学ぶ」 「地域書店の底力」
2017 年度	「地域のたまり場作りを学ぶ」

地域課題解決へ事業方法学ぼう．神奈川新聞．2016.8.9，朝刊，川崎版.

9.2.4　パソコン講習会

パソコン（約 15 台）を使いながら、文書作成、インターネットの情報検索等を行う初心者向けの講習会で、2006 年より開始した。講師はボランティアグループ「さくらネット川崎」にお願いしていた。年に 10 回前後開催していた。開催月の前月 1 日の申し込み開始日に、申込みの電話が集中する人気の講習会であった。パソコン講習会は、市町村などの公民館などでも同様の講習会を行うようになったこともあり、2015 年度までで開催を終えた。



パソコン講習会

9.3 社史関連

9.3.1　社史ができるまで講演会

社史ができるまで講演会は、2012 年５月より開始した。はじめから連続しての開催を意図してはいなかった。開催に至る経緯などは当館職員が執筆した本に詳しい。

高田高史．社史の図書館と司書の物語．柏書房，2017.265p.

最初の数回は、社史がどのように作られるのかを知ることで社史への関心を高めたい、という趣旨で行われた。しかし、社史編纂に関する講演会はあまり例がなく、受講者の多くは企業等の社史編纂担当者であった。また、講師から客層を絞ったほうが話しやすいという声もあり、社史編纂に携わる方を対象とした講演会とすることにした。

講演会後に、講師の前に列ができ、個別の質問や名刺交換が続くのも、この講演会の特徴である。後日、メールで連絡をしたり、実際に会社を訪問したりして、より詳しく社史編纂の相談を受けたと耳にする。

コラム

冷房の準備ができていない５月、真夏日になった日に開催したことがあった。多くの受講者がいらしたため、講演開始後、さらに室温があがっていく。講演中に窓を開けるのは車の音がうるさいので難しい。結局、担当者は講演会場を抜け出して、館内の扇風機をかき集め、出入口や講師の前に置いていった。受講者は、仕事の出張でいらしているビジネスマンが多く、他の講演会よりもビジネスセミナーという雰囲気だったので、とりわけ気を遣った。

2012 年度 『日本水産百年史』ができるまで 『内田洋行百年史』ができるまで 『日清食品 50 年史』ができるまで 『アサヒビールの 120 年』ができるまで 『東京書籍百年史』ができるまで
2013 年度 『花王 120 年』ができるまで チッソ社史『風雪の百年』ができるまで 『サカタのタネ 100 年のあゆみ』ができるまで 『コミ―は物語をつくる会社です。』ができるまで
2014 年度 『富士ゼロックス 50 年のあゆみ』ができるまで 『味の素グループの百年』ができるまで　そして、できてから アクセンチュア 50 年史『KISEKI』ができるまで 『首都高物語～都市の道路に夢を託した技術者たち～』ができるまで 『三洋電機社史』ができるまで 『鹿島 創業 170 年記念誌』ができるまで
2015 年度 『ヤクルト 75 年史』ができるまで 『医学書院の 70 年』ができるまで 髙島屋スペースクリエイツ社史『おかげにて 135』ができるまで 『小学館の 80 年』ができるまで 『住友重機械工業 プラスチック機械事業部 50 年史』ができるまで 『1st Vintage モトックス 100 年史』ができるまで
2016 年度 『ヤマトホールディングス 100 年史』編纂中 『TOPPAN FORMS 50th』ができるまで 『日本橋で三百年』と『国分三百年史』ができるまで 『保土谷化学工業百年史』ができるまで
2017 年度 『NISHIYAMA100』ができるまで 『日本フイルコン 100 周年記念誌』ができるまで

社史ひもとき「千年分」３年目の講演会．神奈川新聞．2014.6.11，朝刊，川崎板．

社史ができるまで 首都高物語で講演．毎日新聞．2014.9.17，朝刊，横浜版．

県立川崎図書館で社史講演会．産経新聞．2015.1.15，朝刊，神奈川版．

鹿島が170年 記念誌で講演．建設産業新聞．2015.2.10．

社史ができるまで講演会

9.3.2　社史フェア

2014 年から始めた社史フェアについても当館職員が執筆した本

に詳しい。前年に刊行された社史、約 200 点をすべてホールに並べ、最近の社史の傾向がわかるように展示した。新しい社史をまとめて見られる機会は他になく、特に企業の社史編纂担当者に好評で、数時間滞在して調査している来場者が多い。

１年目（2014 年）は水・木・金の３日間であったが、２年目（2015 年）からは水・木・金・土の４日間の開催とした。

例年、以下のように開催した。

・社史は原則的に平置き。
・１冊に１枚、３行程度の短い解説パネルを付ける。
・ロゴ、および、スタッフＴシャツ作成。
・気が付いたポイントを吹き出しにして掲示（２年目以降）。
・お気に入りの社史の記入（投票）ができる（３年目以降）。
・会場では BGM をかける（４年目以降）。

2016 年には、朝日新聞社メディアラボと共催で７月に渋谷（東京都）で「社史フェア in 渋谷」を開催した。渋谷の会場では、2014、15 年に刊行した社史から 200 点を選んで展示した。

社史フェア 2015

ユニーク「社史」魅力を紹介 県立川崎図書館でフェア25日から. 産経新聞. 2014.6.10, 朝刊, 神奈川版.

全国の社史を展示 企業の遊び心、開発秘話も満載. 毎日新聞. 2014.6.11, 朝刊, 横浜版.

社史フェア2015REPORT. SiL. 2015.8, no.40.

社史200冊 時代映して 県立川崎図書館　きょうまで展示. 朝日新聞. 2016.6.25, 朝刊, 横浜版.

全国の最新社史集結 あすまでフェア. 神奈川新聞. 2018.7.6, 朝刊, 横浜版ほか.

9.4　小学生等を対象としたもの

科学技術週間（４月）、かながわサイエンスサマー（７、８月）、春休み期間などに小学生等を対象とした各種のイベントを開催してきた。

夏休み科学工作、科学実験教室は、くらりか（蔵前理科教室ふしぎ不思議：東京工業大学の卒業生のボランティア・グループ）の方に講師をお願いしてきた。定員を超える応募のあることがほとんどで抽選になることも多く、午前と午後の２回開催するなど、好評を博してきた。「ポンポン蒸気船を作ってはしらせよう！」（2013 年度）など、ホールに簡易的なプールを作り、バケツで水を運んで準備をすることもあった。

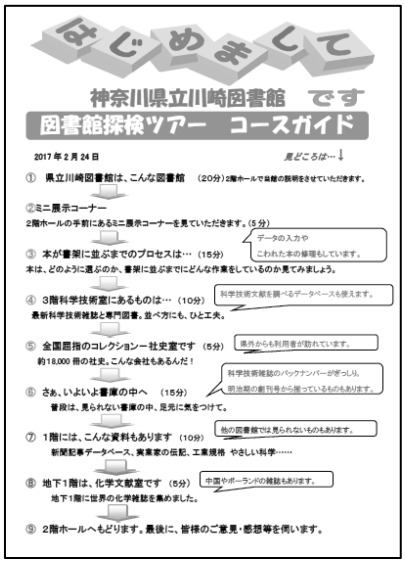
また、夏休みシネマウィークサイエンス劇場、サイエンスシネマウィーク、映像でみる科学者、夏休み科学映画会など、名称や内容の変遷はあるが、子どもを対象として、８月上・中旬に、科学関係の団体から借用したビデオの上映会を行うことも多かった。上映会では、事前の応募は行わず、直接、ホールに設けた椅子だけの席に座って鑑賞していただいた。

こうしたイベントの広報は、通常の広報（県内の図書館でのチラシ配布）だけでなく、近隣の小学校にチラシを持参・送付するなどの工夫もしていた。

工作講座 2014

知の宝庫　図書館探検. 読売新聞. 2008.11.29, 朝刊, 神奈川版.

近くの図書館もチェック！ 図書館探検ツアーに行ってみよう!. ダ・ヴィンチ. 2010, no.7, p136.


はじめまして

神奈川県立川崎図書館　です

図書館探検ツアー　コースガイド

2017年2月24日　見どころは…↓

① 県立川崎図書館は、こんな図書館　（20分）2階ホールで当館の説明をさせていただきます。

②ミニ展示コーナー
2階ホールの手前にあるミニ展示コーナーを見ていただきます。（5分）

③ 本が書架に並ぶまでのプロセスは…（15分）
本は、どのように選ぶのか、書架に並ぶまでにどんな作業をしているのか見てみましょう。
データの入力や
こわれた本の修理もしています。

④ 3階科学技術室にあるものは…（10分）
最新科学技術雑誌と専門図書。並べ方にも、ひと工夫。
科学技術文献を調べるデータベースも使えます。

⑤ 全国屈指のコレクション－社史室です（5分）
約18,000冊の社史。こんな会社もあるんだ！
県外からも利用者が訪れています。

⑥ さあ、いよいよ書庫の中へ（15分）
普段は、見られない書庫の中、足元に気をつけて。
科学技術雑誌のバックナンバーがぎっしり。
明治期の創刊号から揃っているものもあります。

⑦ 1階には、こんな資料もあります（10分）
新聞記事データベース、実業家の伝記、工業規格 やさしい科学……
他の図書館では見られないものもあります。

⑧ 地下1階は、化学文献室です（5分）
地下1階に世界の化学雑誌を集めました。
中国やポーランドの雑誌もあります。

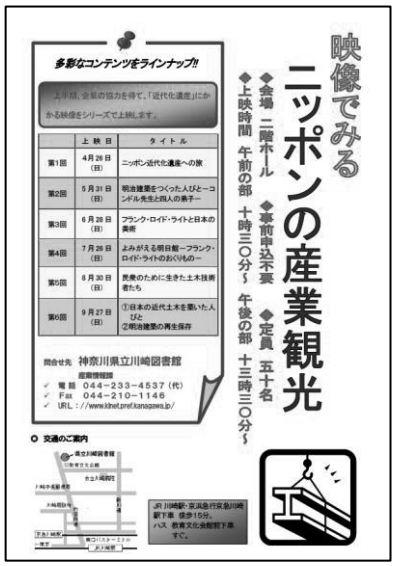
⑨ 2階ホールへもどります。最後に、皆様のご意見・感想等を伺います。

探検ツアーで配布したコースガイド（2015 年）

本をリサイクル. 神奈川新聞. 2008. 11. 4, 朝刊, 川崎版.

コラム

市民まつりの際は、トイレを借りに来館する方が多かった。また、当館の東側駐車場がメインのステージとなっていたため、ステージのにぎやかな音が連日、聞こえてきた。当館の隣接地は屋台になっていて、焼き豚などのにおいも漂ってきた。職員は昼休みに会場を散策する楽しみがあった。


映像でみる
ニッポンの産業観光
◆会場　二階ホール　◆事前申込不要　◆定員　五十名
◆上映時間　午前の部　十時三〇分～　午後の部　十三時三〇分～

多彩なコンテンツをラインナップ!!

上半期、企業の協力を得て、「近代化遺産」にかかる映像をシリーズで上映します。

	上映日	タイトル
第1回	4月26日（日）	ニッポン近代化遺産への旅
第2回	5月31日（日）	明治建築をつくった人びと－コンドル先生と四人の弟子－
第3回	6月25日（日）	フランク・ロイド・ライトと日本の美術
第4回	7月26日（日）	よみがえる明日館－フランク・ロイド・ライトのおくりもの－
第5回	8月30日（日）	民衆のために生きた土木技術者たち
第6回	9月27日（日）	①日本の近代土木を築いた人びと ②明治建築の再生保存

問合せ先　神奈川県立川崎図書館
産業情報課
✓ 電話　044－233－4537（代）
✓ Fax　044－210－1146
✓ URL：//www.klnet.pref.kanagawa.jp/

○ 交通のご案内
県立川崎図書館
JR川崎駅・京浜急行京急川崎駅下車　徒歩15分。
バス　教育文化会館前下車すぐ。

「ニッポンの産業観光」のチラシ

9.5　図書館を紹介するもの

9.5.1　資料の調べ方講座

当館の資料の使い方や活用法などを職員が説明し、図書館の資料や機能の利用の促進を図った。蔵書検索（OPAC）、データベースを使った文献の探し方、特許情報、規格情報、国会図書館のホームページ、社史などをテーマに開催した。2012 年に「ユーザーサポートガイダンス」から「資料の調べ方講座」に名称を変更している。

9.5.2　体験ツアー・探検ツアー

普段は見ることができない図書館のバックヤードの業務や施設を紹介するイベントで 2008 年度から毎年数回、実施している。はじめに館の説明をして、バックヤードを含む館内の見学、最後に質疑応答、という流れであった（約 90 分）。特に書庫の中や本の修理などに興味を持つ参加者が多かった。参加者には「ツアーコースガイド」を配布していた。

9.6　その他のイベント

9.6.1　リサイクルフェア

11 月上旬に富士見公園一帯で３日間行われる「市民まつり」にあわせて開催していた。ホールに本を並べて「ご自由にお持ちかえりください」とした。2008 年は開館 50 周年の一環として企業、書店、図書館等の協力を得て約 3,700 冊の本を提供し、３日間で 855 名が来場した。2009 年にも開催した。

9.6.2　シネマ・テーク＆トーク（トークの集い）

映画監督の市川徹氏の作品を上映し、監督のトークも開催していた。2006 年から 2013 年まで開催。「市民まつり」の時期に行った。

2008 年以降に上映した作品は、川崎ゆかりの実業家・浅野総一郎を描いた「九転十起の男 浅野総一郎　青春期」「九転十起の男 激動の壮年期」「九転十起の男 グッドバイ」、富士屋ホテルの創業者・山口仙之助らの足跡を追う「破天荒力」、タカジアスターゼ、アドレナリンを発明した科学者・実業家「さくら、さくら～サムライ化学者・高峰譲吉の生涯～」「TAKAMINE～アメリカに桜を咲かせた男～」、開港間もない横浜での浅野総一郎を描いた「弁天通りの人々」である。

9.6.3　映像で見るシリーズ

テーマを決めて連続で映写会を行った。2009 年は「映像で見るニッポンの産業観光」、2010 年は「映像で見る社史」、2011 年は「映像で見る科学者」、2012、13 年は「映像で見る実業家」、2014 年は「映

像で見る川崎」を開催した。特に「映像で見るニッポンの産業観光」は毎月（１日２回）の開催で、274 名が参加している。事前の応募は行わず、直接、ホールに設けた椅子席に座っての鑑賞であった。席に余裕があるときは、館内放送で参加を呼び掛けたりもした。

10　協力・ネットワーク

10.1　協力事業の変遷

神奈川県立の図書館の主な図書館協力事業の変遷は、『神奈川県立図書館　60 年の歩み』に記録されている。また、KL-NET（図書館情報ネットワーク）は、機器更新や開発を経て現在第５次の図書館システムを稼働している。詳細は『神奈川県立図書館紀要』に記されているため、この章では、当館の 2008 年度以降の協力事業を記録する。

また、科学技術文献相互利用制度（科学技術文献相互利用ネットワークを略し通称科技ネット）については後述する。

2008 年度、2009 年度当時の当館の協力事業は、所蔵している専門的な資料の活用を企図して、所蔵図書の相互貸借の促進、専門的な文献の複写サービスや、科学技術に関連する調査相談などの連携事業を、県内外の公共図書館や行政機関、大学の図書館、県立高等学校図書館を対象に県立図書館と協力し行っていた。

その他に、県内各地において、当館が作成した展示パネルの貸出を行い、「出前講座（ユーザーサポート・ガイダンス）」や研修会などを開催し、当館の特色あるノウハウを提供していた。

2010 年度に組織改正があり、２部６課制から１部４課制となった。それまで協力事業を運用していたネットワーク事業課は、協力事業を科学情報課に移行し、以降科学情報課が、協力事業を運用することになった。移行した業務は、『平成 23 年度　事業概要』(2011 年)の科学情報課の組織内容に、県内市町村・大学図書館との連携協力、資料の相互利用、KL-NET の運営、研究機関等及び他の図書館等との科学技術資料に係る調査研究及び相談、研究機関等及び他の図書館等との科学技術資料の相互利用（協力事業業務のみ抜粋）、と記載されている。

2011 年度には、連絡車の更新の時期に、見直し、効率化が進められ、この年度をもって巡回を行っていた連絡車の廃止が決定したため、次年度より宅配便を導入することになった。

2014 年度に、科学技術文献相互利用制度は終了したが、行政機関への支援サービスとして現在も資料の提供等を行っている。

2017 年度、県内外の協力事業の連携の体制は、例年通りに行ったが、野庭収蔵Ｃへの宅配便の配送を、週に２回（火・金）に変更し

第４章　県内図書館のネットワーク拡大と人材育成－最近 10 年③－．神奈川県立図書館 60 年の歩み．2014，ｐ.25-31.

森あかね・森谷芳浩．図書館ネットワークを支えるKL-NET の変遷　-第５次システムまでの歩み-．神奈川県立図書館紀要．2016，no.12，ｐ.25-44.

NEWS 物流激増！　平成４年度の連絡車．連絡車だより．1993，no.19　初夏号.

2005 年に撮影された当館の連絡車
(2011 年連絡車廃止まで使用されていた)

積み込み作業の様子(2005 年)

1	保健福祉大学
2	水産技術センター
3	地球市民かながわプラザ
4	産業技術センター
5	畜産技術センター
6	生命の星・地球博物館
7	温泉地学研究所
8	歴史博物館
9	ライトセンター
10	がんセンター
11	公文書館
12	産業技術短期大学校
13	保健福祉大学実践教育センター
14	総合教育センター（善行/亀井野）
15	かながわ女性センター
16	衛生研究所
17	環境科学センター
18	平塚看護専門学校
19	農業技術センター
20	こども医療センター
21	外語短期大学
22	金沢文庫
23	衛生看護専門学校
24	東京工業大学附属図書館すずかけ台分館

2008 年 科技ネット加盟機関一覧（名称ママ）

コラム

1985 年から協力事業担当が「連絡車だより」を発行していた。内容を読むと、川崎図書館の取り組みを紹介したり、県の研究機関の担当の方が記事を書いていたり、当館と研究機関の担当の方々との密接な関係がうかがえる。また、当時のレファレンスの事例、神奈川県科学技術関係新聞記事索引、KL-NET の使い方、また研究員がどのように文献を検索していたのかなど多種多様な当時のノウハウの記事も掲載されていた。1994 年以降は発行されなくなったが、当時の状況の一部を知ることのできる貴重な資料となっている。

当館職員作成資料.「神奈川県科学技術文献相互利用について」2010.4

た。

また、川崎市立図書館との間の相互利用では、1984 年度から、県立図書館（横浜）と川崎市立各館相互間の資料は連絡車で当館に搬送し、川崎市は、資料の受領・返却のため当館に車両を運行することになっている。従来から、川崎市立図書館との連携を当館が担っており、県内市町村立図書館間の資料の相互利用の重要な役割を果たしている。

2017 年 10 月以降に予約サービスを停止したのち、12 月以降の休館に伴い当館からの搬送資料はなくなったが、川崎市立図書館の各館への物流拠点の役割は継続し、2017 年度末まで運用した。休館中は、野庭収蔵Ｃの搬送を２週間に１回（木曜日）に変更した。当館の返却ポストが使用できる期間中は、県立図書館所蔵の返却資料と、他図書館で返却された当館所蔵資料の物流が続いた。同時に移転後の図書館の協力事業の物流のための搬入経路や、駐車場の確認など準備及び手続きに追われた。

また、協力事業で利用していたオリコン（搬送用の折りたたみコンテナ）など物品の整備も行った。搬送最終日には、協力事業で使用する物品（オリコンなど）は、すでに移転後の図書館に移動していたので、搬送で使用した最後のオリコンや残った物品をいくつかキャリーに載せ移転後の図書館へ人力で移動させた。

10.2　ネットワーク（科技ネット）

科学技術文献相互利用制度（科技ネット）は、1983 年度から始まった県内における科学技術の振興に資することを目的として神奈川県内の図書館、大学、研究機関が所蔵する資料を相互に利用しあう制度である。（「神奈川県科学技術文献相互利用実施要領」参照）

2008 年頃は、野庭収蔵Ｃ（デポジット・ライブラリー）や、科学技術文献相互利用制度加盟機関（県立の試験研究機関、専門教育機関 24 機関を対象）を、当館の連絡車で巡回し、資料の相互貸借や、閲覧、複写（コンテンツシートサービスを含む）やレファレンス（資料調査）の協力を行っていた。加盟機関は、2008 年度の科技ネット加盟機関一覧の通りで、2010 年度に当館職員によって作成された資料には、刊行物の配送、パンフレット・チラシの配布、臨時の荷物の配送なども業務内容に含まれていた。

加盟機関の中には定期巡回する機関と、資料の利用がある場合のみ巡回する機関があった。また、「県立の図書館と県立高等学校による連携・協力モデル事業」のモデル校となっていた平塚工科高校・磯子工業高校への巡回も行われていた。他に、原則として週２回、県立図書館（横浜）に寄り、県内市町村立図書館との相

互貸借の物流を確保していた。

2011 年度の連絡車乗務者表や、巡回コース要領などには、運転手と司書の２人構成で、毎週３回（火・水・木）、２週間６コース編成で巡回していた記録が残っている。

10 機関の参加で 201 冊の貸出であった制度の開始時期に比べ、年々加盟機関も増加し、24 機関の相互利用で 2008 年度は約 1,412 冊、2011 年度は約 1,393 冊の貸出が行われていた。2012 年度に各機関へ巡回を行っていた連絡車が廃止となり、資料の利用は減少の途を辿った。

県の研究機関への相互利用は、県立図書館協力車、宅配便、県の搬送システムである逓送便の配送に変更された。当館が巡回していた施設のうち搬送量の多かった、かながわ女性センター（現名称かながわ男女共同参画センター）、県立保健福祉大学附属図書館、東京工業大学附属図書館への搬送は県立図書館協力車による搬送に変更となった。

また、野庭収蔵Ｃは、宅配による週４回（火・水・木・金）の搬送に変更された。

2014 年度に、事実上宅配便による相互利用となっていた科学技術文献相互利用制度自体が廃止され、以降は県の研究機関それぞれへの行政支援サービスによる資料の提供等となった。野庭収蔵Ｃへの搬送は、配送回数は変わっているが継続している。

10.3　各種研修等

県域全体で質の高いサービスを提供するため、市町村立図書館、県立学校図書館、専門図書館等の職員の能力開発や人材育成支援について、関係機関との連携の下に当館の機能やサービスを紹介する図書館職員等対象の研修等を行っている。また、実習等の受入、見学者への対応等を行っている。

県立図書館が企画する市町村図書館等職員や高等学校図書館職員を対象とした研修事業のなかで、当館の特色ある資料とサービスについて当館職員が担当し、研修を実施した。移転を控えた 2017 年度は、６月の市町村図書館等職員対象の基礎研修のみ実施した。また、他の図書館関係団体等から依頼を受け、研修講師を派遣した。この時期、レファレンスサービスの著書を執筆した職員がおり、新聞・雑誌等の取材を受けたり、各地の図書館で講演をする機会が多く、その関連で当館が取り上げられたことも度々あった。

大学で図書館・情報学を受講している学生等の図書館現場での実習のため実習生、県の事業としてのインターンシップ生、県や学校から依頼を受けたジョブシャドウ、高校教員の初任者研修の依頼を

池田孝．神奈川県科学技術文献相互利用システムについて－県立試験研究機関の相互協力－．専門図書館．1987，№.115，p.54-57

	火曜日	水曜日	木曜日
第1週、第3週	A	B	C
第2週、第4週	D	E	F

巡回内容　（2011 年）

コース詳細

A：野庭収蔵センター→衛生研究所→平塚高等学校→生命の星・地球博物館→温泉地学研究所→農業技術センター

B：総合教育センター（亀井野）→総合教育センター（善行）→女性センター→地球市民かながわプラザ→国際言語文化アカデミア→野庭収蔵センター→県立図書館→生涯学習情報センター

C：野庭収蔵センター→県立図書館→歴史博物館→生涯学習情報センター→ライトセンター→がんセンター→公文書館→産業技術短期大学校→保健福祉大学実践教育センター→東京工業大学

D：野庭収蔵センター→平塚看護専門学校→環境科学センター→畜産技術研究所→産業技術センター→東京工業大学

E：野庭収蔵センター→こども医療センター→県衛生看護専門学校→県立図書館→生涯学習情報センター

F：金沢文庫→磯子工業高等学校→野庭収蔵センター→県立保健福祉大学→水産技術センター→県立図書館→生涯学習情報センター

例：『図書館のひみつ』（高田高史．PHP 研究所，2016）には当館の写真が何点か使用されている。

当館刊行物「SiL」No.22（2011.1）から編集

職業体験を終えた中学生や高校生から礼状等を通じて様々な感想をいただいている。

・図書館には自分の知らない場所や仕事がたくさんあり、その仕事の大変さや難しさがよく分かりました。（中学生）

・図書館といえば小説や伝記を貸し出すところだとしか思っていませんでしたが、今回県立川崎図書館のような専門的な図書館があることを知ることができました。（高校生）

受け入れる職員は、仕事を通して感じる生きがいや喜び、大変さなどを尋ねられ、改めて自分の仕事に対する心構えを問い直す機会になっている。

Topics　幅広い科学技術系の蔵書誇る理系専門の図書館での司書勉強会　神奈川県立川崎図書館．図書館の学校．2014 冬，p.48

「専門家に資料を学ぶ」の様子
（2015 年 7 月 9 日開催　「土木」の回）

受けた社会体験研修については、移転を控えた 2017 年度を除いて受け入れた。

実習を通じて図書館を身近に感じ理解を深める手段として、高校や中学校からの依頼を受けて行う体験学習は、毎年生徒を受け入れた。

県内外の図書館職員に当館の業務を経験してもらう受入研修については、2008 年度に高知県室戸市から１名、2009 年度に厚木市から１名、2016 年度に長期派遣研修として高知県立図書館・高知市立市民図書館から２名を９月から 11 月の３ヶ月間受け入れた。

見学については、特徴ある当館の資料やサービスについて関心がある幅広い見学者を受け入れている。県内外の議員、図書館関係者、展示の協力団体、他県の行政職員、図書館利用者の団体等、様々な見学者が訪れた。2017 年度は移転前の図書館を見学しておきたいという目的が多かったようである。

月の第２木曜日の館内整理日を利用して、職員のスキルアップのため、不定期ではあるが職員向けの研修会を行った。職員を講師とし、レファレンスサービスや当館で所蔵する特色ある資料の概要等の講義を行っている。

2010 年度からは、「専門家に資料を学ぶ」として天文、数学、土木、機械工学等の各分野の専門家に該当分野の当館所蔵資料を見ていただき、感想や提言をいただいたり専門家ならではの資料の使い方などを紹介していただく研修も行っている。職員にとっては、当館の業務や所蔵資料について勉強する機会となっている。

10.4　神奈川県資料室研究会事務局

関係団体等との連携・協力事業として、神奈川県資料室研究会（以下、神資研（しんしけん））の事務局運営を行っている。

神資研は、県内企業、大学、研究機関のライブラリーや知財部門で構成されている館種を超えたネットワークであり、事務局は月例会の開催や、ニュースと年報の発行等のサポート、会員との連絡調整等を行っている。当館では、館長が会長を務め、理事１名（事業部長）、事務局を産業情報課が担当している。1961 年に創立し、2011 年に 50 周年を迎えた。2017 年度末の会員数は、正会員 87 機関、賛助会員 12 機関、個人会員 23 名となっている。

「企業及び公共機関等の資料室（図書館、図書室）の運営向上について連絡と研修等を行い、各資料室の充実と運営の活発化を図ることにより、企業及び公共機関等の進展に寄与し、あわせて神奈川県産業の振興に寄与すること」（会則第３条）を目的に活発に活動している。会の歴史や活動の詳細は複数の文献で紹介されている。

活動の中心は、８月を除く毎月開催している月例会である。月例会では、講演会、見学会、グループディスカッション等を行っている。2004 年からは、パシフィコ横浜で開催される図書館総合展にブース出展とフォーラム開催で参加している。

理事会が月例会の企画・運営を行っており、年間計画を立てて総会に提案している。講演会は、「泥臭さ」と「半歩先を行く」というモットーの元に、電子ジャーナル・学術雑誌関連、実務関連、著作権関連といった会員の実務に役立つテーマを中心に取り上げている。毎回詳細な例会記録を掲載した「神資研ニュース」と年報「神資研」を発行している。

神資研と当館の連携で、2004 年４月より会員機関から当館に学術洋雑誌等を寄贈してもらい、会員機関および県民に広く活用してもらうデポジット・ライブラリーの運用を開始した。また、当館の KSP への移転に関連して、連携団体として様々な対応を行った。

2010 年には神資研の事務局としての活動が評価され、県立川崎図書館が第 12 回図書館サポートフォーラム賞を受賞した。2014 年には図書館を支援する団体として、神資研が第 100 回全国図書館大会で日本図書館協会から感謝状を贈られた。2017 年には 50 年以上の持続可能な活動とその実績に基づいた官民連携的な取り組みの成果が評価され、神資研が Library of the Year のライブラリアンシップ賞を受賞した。

〈参考〉2016 年度月例会テーマ一覧

４月（講演会）「改めて、図書館システムについて考えてみよう」
５月（特別講演会）「川崎モデルの中小企業支援とは？
～キーワードは“おせっかい”と“えこひいき”」
６月（見学会）「防災専門図書館」
７月（講演会）「学術雑誌コレクションを評価する
～「科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリー」の評価から～」
９月（見学会）「玉川大学教育学術情報図書館」
10 月（講演会）「ライブラリアンのためのスキルアップ講座
～わかりやすい文章のために」
11 月（図書館総合展フォーラム）「著作権を巡る最近の動向
TPP、AI、オープン化」
12 月（グループディスカッション）「視覚で伝える本の魅力」
１月（講演会）「知っておきたい規格の知識　効率的な入手のために」
２月（見学会）「ジェトロビジネスライブラリー」
３月（講演会）「学術大手出版社の戦略を探る！」

神資研　profile

神資研（しんしけん）は１９６１年に設立された京浜地区資料室運営研究会を母体にし、１９６３年に発足しました。神奈川県、近隣都県内の企業、大学、公共機関等の資料室、図書館、情報部門によって構成されています。月例会や分科会の活動などを通じ、資料室等の運営向上とスキルアップに努めています。

またその他の情報機関の団体等と連携を持ちながら活動を進めており、わが国でも屈指の地域情報団体として知られています。

神奈川県資料室研究会ホームページ

石原真理．神資研の 50 年．情報の科学と技術．2012，vol.62，no.3，p.126-129.

大塚敏高．継続し、発展をめざすローカルネットワーク:神奈川県資料室研究会 50 年の歩みを振り返る．専門図書館．2011，no.251，p.17-22.

齋藤久実子．つながれインフォプロ　第７回．情報管理．2014，vol.57，no.1，p47-49.

末廣恒夫．神奈川県資料室研究会の研修活動への取組　月例会を中心．情報の科学と技術．2016，vol.66，no.9，p.457-460.

末廣恒夫．巻頭言～神資研の県立川崎図書館集約問題への対応及び、平成 29 年度活動を振り返って～神資研．2017，no. 52，p.1-3.

感謝状

神奈川県資料室研究会殿

貴団体は図書館の活動に対し多大な貢献をされました

よってここに第百回全国図書館大会の機にあたり深く感謝の意を表します

平成二十六年十月三十一日

公益社団法人 日本図書館協会

理事長 森 茜

日本図書館協会からの感謝状

11　刊行物・広報物

ここでは 2008 年から 2017 年の間に、当館で発行した刊行物についてまとめる。最後に、2014 年から 2017 年まで広報媒体として活躍した、当館のキャラクター「かわとくん」についても触れる。

11.1　科学 EYES

当館の館報で前身は開館した 1959 年から続いてきた「京浜文化」である。刊行当初は施設やイベント情報を載せ、図書館の PR に重点を置いていたが、開館の翌年には、京浜工業地帯の諸問題をとりあげ、発信する情報誌という独自のスタイルを確立した。

「科学と産業の情報ライブラリー」としてリニューアル開館した 1998 年 11 月に、館のコンセプトに合わせて「科学 EYES」に誌名を変更したが、「京浜文化」で確立したスタイルを引き継ぎ、最新の科学やテクノロジー等を毎号のテーマに設定し、専門家による高度な情報を発信し続けた。

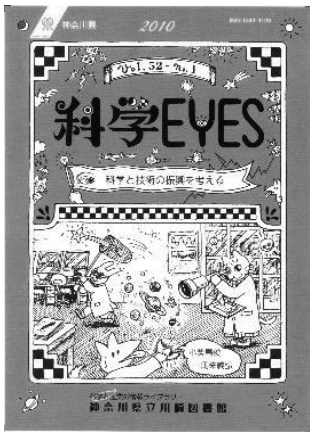
年２回刊行を基本としたが、2008 年は開館 50 周年特集号のため、年１回の刊行となった。

形態は A5 版、25 ページの小冊子であり、「京浜文化」２号より大きさは変わらない。2009 年より、前号までの誌名のアルファベットを図案化した表紙を一新し、職員の旧知であるというご縁から、日本画家の山田りえ氏にイラストを依頼することになった。

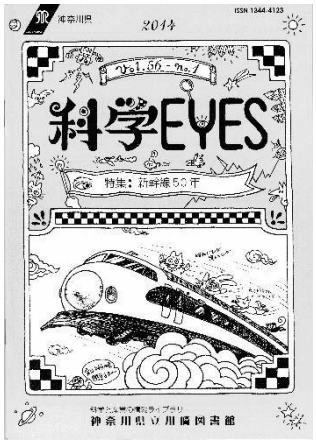
編集は、事業部長、情報サービス課長及び各課から１名の編集委員が担当し、会議の席で特集テーマと掲載内容を決定した。掲載内容は、特別号を除き定まったスタイルを守ってきた。専門家による特集テーマ論文が２本（情報サービス課[2010 年～科学情報課]編集委員が担当）、特集テーマ関連文献目録（資料整備課編集委員が担当）、そして資料室紹介（産業情報課編集委員が担当）である。その他編集総括は情報サービス課編集委員が受け持ち、印刷業者の選定や執筆者への謝礼金の手続きは、管理課担当と協力しながら進めた。

毎号 900 部ずつ印刷し、交換資料として全国の公共図書館、大学図書館、関連団体、企業資料室などへ幅広く配布していた。

過去にとりあげたテーマが、時を経て科学関係のニュースで話題になることも多く、バックナンバーについての問い合わせや送付依頼が多い。



科学 EYES. 2010.10, vol.52, no.1
ノーベル物理学賞受賞者の小柴昌俊氏のインタビュー記事が掲載されている。



科学 EYES.　2014.10, vol.56,　no.1.
特集：新幹線 50 年

PaReT(パレット)：Patent(特許)、
Reference books(参考図書)、
Technology(科学技術)をつないだことば。
「PaReT」創刊号（1995.12）より。

11.2　SiL 科学と産業の情報ライブラリーニュース

当館の情報紙で前身は 1995 年 12 月刊行の「PaReT」（隔月刊）である。「PaReT」が終刊となったのが 2005 年８月であり、同年 10 月から「科学と産業の情報ライブラリーニュース」（季刊）へ誌名を変

更した。2009 年４月より再びタイトルを変更し、「SiL」（季刊）となった。これはサイエンス、インダストリー、ライブラリーの略であり、「知る」とかけている。「i」にはインフォメーションの意味も込めている。移転作業の年である 2017 年９月まで刊行を続けた。

形態は A3 用紙を二つ折りにしたリーフレットであり、イベントの予告、新着資料の案内、新規導入データベースの紹介など、図書館の利用に即した実践的な情報を年４回発信していた。

編集は情報サービス課（2010 年～科学情報課）が担当した。当館へ興味を持ち、楽しんで読んでいただけるよう、職員へのインタビューやクイズ、双六などを掲載したこともある。

11.3　テーマ別文献目録

1995 年９月から刊行を続けていた「主題別文献目録」の巻号を継承し、2005 年 11 月の 33 号から「テーマ別文献目録」として刊行が始まった。年２回の刊行。担当は資料整備課であった。

「燃料電池」、「『３Ｄプリンタ』関連情報」等、発行時に話題となっていた科学技術をテーマに選び、関連する図書及び雑誌文献のリストを作成し、館内で配布していた。半年刊であるが、2011 年の「東日本大震災」や、「『箱根山のやや活発な地震活動』関連情報」など時宜にかなったものは、速報版で出された。

移転前年度の 2017 年２月（55）号で終刊となった。

11.4　やさしい科学しんぶん

産業情報課が担当していた１階ビジネス支援室では、子供向けの科学技術関連書を集めた「やさしい科学コーナー」を設置していた。その産業情報課が子供を対象に編集していた情報紙が「やさしい科学しんぶん」である。1998 年５月に刊行を始めた「やまねこ新聞」の後継誌にあたる。

「きみのとなりの相対性理論」、「世界にほこれる日本の技術」といったテーマを毎号決め、子ども向けの平易な言葉で「やさしい科学コーナー」に配架されていた入門書を紹介していた。形態は A3 を二つ折りにしたリーフレットであり、主に１階ビジネス支援室や２階ホール前のチラシ置き場で利用者向けに配布していたほか、近隣の小学校等へも届けていた。刊行頻度は不定期刊であったが、移転作業に入る直前の 2017 年夏まで発行を続けた。

11.5　社楽

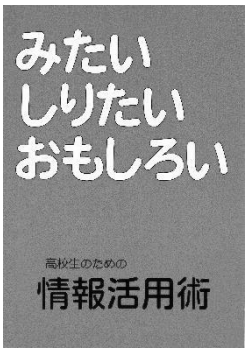
社史室の広報紙として、2012 年１月から刊行を始めた。移転後の現在も継続刊行している。科学情報課の社史担当が代々執筆してき

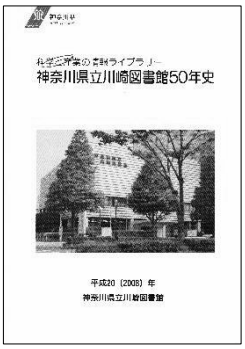
高田高史．社史の図書館と司書の物語．柏書房，2017，265p.

コラム

「科学と産業の情報ライブラリーニュース」第 11 号（2008. 4）では、「雑誌で発見!」について次のように紹介している。

「専門的な雑誌の記事の中にも思わず『なるほど！』と言いたくなる興味深い記事が見つかります。」





た。社史の使い方や検索方法、社史の楽しさ、社史フェアの報告といった社史にまつわる様々な情報を発信してきた。

社史は当館の主要なコレクションであるため、積極的な広報を行ってきたが、その一環として、「社楽」は早い段階からホームページでの公開を開始した。

11.6　その他

この 10 年間に不定期に発行した刊行物は以下のものである。

○「雑誌で発見！」

所蔵雑誌の記事の中から、話題性に富んだものをピックアップして紹介する A4 版 1 枚の印刷物である。自分の専門分野以外の雑誌は見ないという方にも、当館の様々な雑誌について知っていただきたいという趣旨から、2006 年度末から発行を始めた。１階、３階のパンフレットコーナーと科学技術室の雑誌コーナーに置かれていた。2008 年まで定期的に発行していたが、以後は「SiL」に吸収された。

○『高校生のための情報活用術：みたい　しりたい　おもしろい』2008 年 11 月

高校生向けの情報検索のための手引きである。50 周年事業の一環として、神奈川県資料室研究会と協同で刊行された。「インターネット利用の間口を広げ、情報収集及び図書館利用へのガイドとなるよう企画」された（「はじめに」より）。高校生だけではなく、一般の方にも活用していただける内容となっている。

○『神奈川県立川崎図書館 50 年史』2008 年 11 月

50 周年事業の一環として発行した。1959 年の開館から始まる当館の 50 年間の歴史を年表形式でまとめたものである。1 年毎に社会の動き及び図書館界の動きと絡めながら記述されており、時代のニーズに対して当館が行ってきたサービスや、半世紀の間に技術的に進化した図書館業務等について紹介している。24 名の職員が執筆に携わった。

○『時代を映す社史の魅力』2008 年 11 月

社史の利用促進を図り、特に神奈川県に関連する企業の社史を選び、紹介する『神奈川県ゆかりの会社史・実業家伝記一覧』を 2002 年からほぼ毎年刊行してきた。

その中で、開館 50 周年に合わせて発行した特集号が『時代を映す社史の魅力』である。50 年史の別冊として発行された。当館と同じく 50 年の歴史を記述した神奈川県ゆかりの会社史に焦点をあて、

1930 年代から 2000 年代まで年代順に紹介している。後半には、当館が所蔵する会社史目録を収録している。

○『神奈川県ゆかりの会社史・実業家伝記一覧』2011 年 8 月

前項で紹介した刊行物の 2011 年版である。神奈川県発祥、または県内に事業所がある企業の会社史の中で、当館に所蔵があるものを掲載している。また、実業家の伝記についても、神奈川県ゆかりの企業に関係の深い実業家をとりあげている。

なお、このシリーズは本書を以て一旦刊行を終了している。

11.7　キャラクター：かわとくん

世間でゆるキャラが流行していた頃、３階のカウンター裏で誰からともなく川崎図書館のキャラクターを作ってみてはどうかという提案が出され、自然に誕生したのが当館のキャラクター「かわとくん」である。コンセプトは、川崎図書館の外観をモチーフとし、誰でも再現できる簡単なキャラクターというものであった。名前は、当館の略称「川図」に由来している。

初めて公の場に登場したのは「SiL」34 号（2014.1）の「川崎図書館探検ツアーすごろく」においてである。同じ年の社史フェアにおいて職員有志が作成した T シャツに使用されたり、「SiL」に頻繁に登場するようになったことから、PR キャラクターとして館内での認知度が高まった。その後、刊行物やパンフレットには必ずかわとくんを掲載すること、というルールが誕生し、掲載位置についても規定された。

2015 年には、図書館総合展の第１回図書館キャラクター・グランプリ「館の働き者」部門にエントリーした。PR のプレゼンのために、全職員が段ボールで作ったかわとくんをかぶって館内での仕事を紹介した動画を撮影した。また、有志の職員が手作りの団扇を使って会場でパフォーマンスを行った。まさに全館あげての応援であった。その甲斐があり、結果は初挑戦ながら見事「館の働き者部門・準グランプリ」及び「審査委員会賞」を勝ち取った。

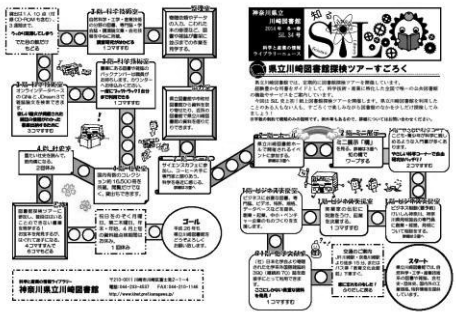
このように皆に愛されたかわとくんであったが、2018 年になると高津区へ移転するということで、富士見時代の図書館の建物を表しているかわとくんの使用は凍結となった。

12　広報活動とその成果

12.1　広報活動の努力

特色ある資料を有する当館では、とりわけ広報の役割が大きい。とくに、科学と産業の情報ライブラリーとして、ビジネス層などを

司書の出番．“「かわとくん」誕生！（1/2）”．神奈川県立川崎図書館．2015.12.20, https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=4138.



コラム

「広報用かわとくん」フォルダに残っていた 2016 年 11 月 30 日付のメモより

「かわとくん」のロゴの使用にあたって、以下のことを順守願います。

・「１画面にかわとくんは１個」であること

・「ロゴ＋図案としてのかわとくん」が同一画面にいるものも却下

クリッピング！（神奈川県立の図書館）@kanagawa_lib　(2015.12.7)

佐賀原正江. ビジネスマン利用者の開拓に向けた「営業」活動の日々―神奈川県立川崎図書館の特色ある PR 作戦. 図書館雑誌. 2010, vol. 104, no. 2, p. 76-77.

ビジネスライフに役立つ図書館.Forbes 日本版. 2009, vol.18, no.4, p.162-168.（３館紹介のうちの１館）
いろいろ出展してPRしています。.SiL,2013.１.30号

当館は「かわさき区宝物ガイドマップ」(2015年）などにも掲載された。

コラム
県立機関活用講座「科学を撮る」(9.1.3参照)のポスターは、相手にされないかなと思いつつも、各カメラメーカーのショールームに送ってみた。参加者へのアンケート「どちらで知りましたか？」に、カメラメーカーの銀座のショールームと書かれていて、「ほんとうに掲示してもらえたんだ」と担当者は感動していた。

コラム
かわさきFMの番組「かわさきUPSTREAM」内の「川崎県民センター情報」コーナーで県の情報を紹介しており、当館の催事を紹介する際は、担当者が川崎県民センターの担当職員と共に出演してアナウンサーとやりとりをしながら催事のPR等を行った。会話が思わぬ方向に広がって更におもしろくなることもあり、「緊張したけど面白かった」という担当者もいた。コーナーの最後に1曲リクエストでき、好きな曲を考える楽しい経験もできた。

ターゲットとした広報に力を入れてきた。

一例として、ビジネスフェア等への出展がある。川崎信用金庫主催のビジネスフェアでのブース出展、さわやか信用金庫（大田区）主催のビジネスフェアへのブース出展、東京都大田区産業振興協会ビジネスフェアなどへのブース出展を行い、チラシの配布や映像の上映など、PRに尽力した。

川崎区役所地域振興課が事務局となっている川崎区企業市民交流事業推進委員会（旧名称はインタラクティブかわさきネットワーク）に機関として参加し、区内企業や区民団体等との共同作業を行い、同団体が主催するイベント等でブース出展などもした。同会が発行する情報紙「ほっとネット」には催事情報などが掲載された。

メディアに対しては、記者クラブへの参考資料送付をはじめ、川崎市役所周辺にある新聞社支局への挨拶、掲載依頼なども行った。「Ａ新聞社からＢ新聞社、Ｃ新聞社に寄って、Ｄ新聞社」など、だいたいのコースもできていた。

その他、川崎駅東口地下街アゼリアへの催事のポスター掲示依頼、川崎駅構内のオーロラビジョンでの催事の紹介など、地域でのPRにも務めてきた。催事の内容によっては、業界新聞や関連団体等へのチラシ送付なども積極的に行ってきた。

年に数回、かわさきFMの県の情報番組でも催事が紹介された。武蔵小杉にあるスタジオで担当者がインタビューを受けていた。NHK FMでも県からの情報として当館の催事等が年に１、２度、紹介されていた。おもに電話によるインタビュー形式での放送だった。

12.2　広報活動の成果

当館が広報に力を入れていることは、2010年度より「メディア掲載件数」が年間数値目標となっていることからもわかる。活動・取組みが新聞・雑誌・放送・ウェブサイト等の外部メディアに掲載された件数で、この10年間は、記事の大小はあるが、各年度、ほぼ40件から70件程度が取り上げられた。とくに2013年度は、社史担当職員の神奈川新聞への連載や、話題性のあった東西社史グランプリなどがあり、数値目標40件を大きく超える94件の掲載があった。

社史は全国屈指のコレクションであることなどから、広報の努力と相俟って、メディアに取り上げられる機会が多かった。

TBSラジオ「安住紳一郎の日曜天国」の「おでかけリサーチコーナー」では、レポーターが来館して社史室を紹介するとともに、当館職員が安住アナウンサーと電話でやりとりをした（2009年３月８日放送)。当時の担当職員は社史の収集について「週に一度出される国会図書館のリストを調べて図書館に無いもの寄贈依頼する。利用

者からうちの会社が社史を作ったよと教えてもらう。古書店の目録でチェックをかけてないものを洗い出す。社史を出していない会社に電話をして「作られませんか？」と聞く。節目の年に社史を作る会社が多いので、色々な会社を調べて、そろそろ〇周年ですよね？社史は出されないのですか？と聞く。」などと答えている。安住アナウンサーには「それって大きなお世話ですよね」と言われたそうだ。2011 年９月からは当館職員が神奈川新聞に隔週で「社史を楽しむ」「社史をひもとく」を、2013 年には「社史ってすごい」を、連載していた。社史に書かれたエピソードなどを紹介する内容であった（合計で約 40 回）。

2015 年には東洋経済オンラインで、当館の紹介や、１、２冊の社史をクローズアップして取り上げる連載もしている（７回）。とくに東洋経済オンラインでの連載は、ビジネスパーソンがおもな読者層であるため、「東洋経済オンラインの記事を見て、社史を集めている図書館があることを知った」という企業の社史編纂担当者が来館し、社史室で調査をしていることが、しばしばあった。

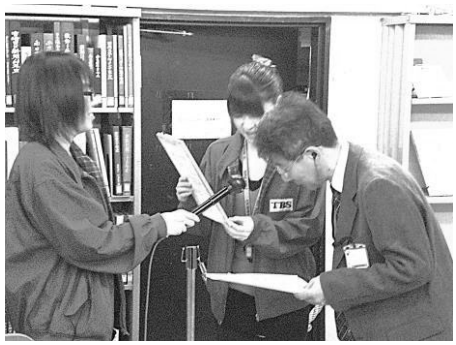
新聞は地域版だけでなく、全国紙、広域版やヤフーニュースなどに大きく掲載されることもあり、社史室の利用はもちろん、収集につながるきっかけにもなった。

この 10 年間で、もっとも反響が大きかったのは、テレビ番組「タモリ倶楽部」にて、当館の社史が取り上げられたことである。番組の様子は「社楽」47 号（2015.10）にまとめている。

事前の下見や打ち合わせを何度も行った上で、当日は朝早くからスタッフが来館。ホールにセットを組んでロケを行い、撮影機材は事務室の北側に設置。出演者の控室は館長室を用いた。タモリ氏ら出演者一同が館長室に入るときには、職員一同が事務室で出迎えた。

予定時間を越えて収録があり、とくに社史の双六は、出演者がゴールするまで続けていた（放映では一部しか使われていない）。楽しそうな笑い声が事務室に聞こえていたそうだ。

出演者へのサインの依頼や撮影などは禁じられていたため、放送された映像以外、かたちに残る記録は存在していないが、トイレから出てきたタモリ氏に声をかけたところ、気さくに挨拶してくれたとにこやかに語る職員もいた。



ラジオ収録中の様子。「SiL」15 号（2009.4）でも紹介。

コラム

多くのメディア（新聞、雑誌、学会誌、その他）に掲載されているので、すべては紹介できないが、例えば、ひと紀行. かながわ街物語　社史の蔵書は国内屈指　県立川崎図書館. 読売新聞. 2012.5.20, 朝刊, 横浜版には、当館と関係者を取り上げていただいた。個性輝く社史１万７千冊　県立川崎図書館. 朝日新聞. 2015.6.26, 朝刊, 第２東京版には、ほぼ１ページの記事が載った。

当館が「社史の聖地」として取り上げられたYahoo!ニュース特集「「社史」が会社を強くする」（2017.10.24 配信）は、ヤフーニュースのトップ画面にも掲載された。

13　2008 年から 2017 年のトピックス

13.1　施設の老朽化

2009 年４月 28 日の朝、出勤した職員は、職員通路（東側）の外壁の一部（コンクリートのブロック、横５メートル、縦 35 センチ）が崩落しているのに気が付いた。原因は、2001 年にあった外壁脇で

安全考え外壁全体固定　来月上旬に完成予定　４月下旬一部崩落. 神奈川新聞. 2009.9.12, 朝刊, 川崎版.

外壁崩落「あわや」　県立川崎図書館　火災で劣化原因か　重さ 400 キロ．神奈川新聞. 2009. 5. 23, 朝刊, 川崎版.

2017 年の３階科学技術室

コラム
「トイレをテーマにしたミニ展示をやりたい」と提案し、課内では合意を得たが、別の部署から「ただでさえ、１階のトイレが使えないことへの苦情も多いので、そのテーマはやめてほしい」と言われ、あきらめたことがあった。

地下・化学文献室での水漏れ

の火災による劣化が考えられている。その後の対策として、外壁にワイヤーを貼る修理が行われた。

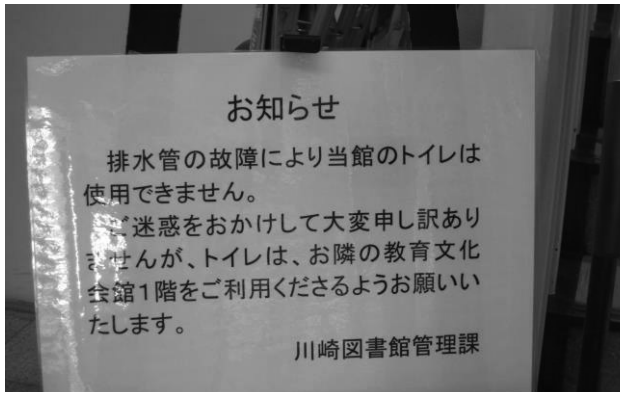
雨漏りは、当館の記録によると、開館数年後にはすでに始まっていたとある。その都度、大小の修理を行っていたが、雨漏りが止まることはなかった。

この期間は、旧書庫４層の書庫の書架にシートをかける、雑誌をブックトラックに移す、などの措置をとっていた。

３階閲覧室の雨漏りも、年々、対応が難しくなっていた。雨の日には見回りをおこない、雨漏りの箇所には三角コーンや雑巾を置いて注意を促していた。公開書架の近くに雨漏りが確認されると、本を移すなどして、該当する書架の一部または全部に本を置かないようにした。移転の間際には、天井の雨漏りの箇所からホースを垂らし、ポリ容器に流していた。また、長期にわたって、ポリ容器を書架の上に置いていた箇所もあった。

雨漏りは２階事務室の窓際でも起こった。結露も多かった。

１階では、2011 年 10 月に排水管が壊れ汚水が噴き出したことがあった。職員は書架の下段の本を机の上に移動させ、雑巾などを土嚢のようにして、水の広がりを抑えるなどしたが、一時的に、１階でのサービスを一部停止することになった。また、館内の全てのトイレが使えなくなり、数週間、隣接する教育文化会館のトイレを借りて使っていた。



2011 年の入口の掲示物

このほか、2012 年頃には、地下の科学文献室に浸水がおこり、書架にシートをかぶせたり、床に新聞紙を広げ水を吸わせたり、雨漏り対策のバケツを置くなど、対策をしたことがあった。

ちなみに、雪の日の管理課職員の苦労は「SiL」37 号（2014. 11）の「雪の日の管理課業務」というコラムにまとめられている。

13.2 東日本大震災

2011 年３月 11 日 14 時 46 分、東日本大震災発生の時、当館は通常どおり開館していた。３階カウンターにいた職員は次のように語る。「大きな揺れが長い時間続いた。その後、何度も余震を感じた。本が書架から崩れるように落ちた箇所もあった。利用者には書架から離れる、机の下で身を守るなどの声かけをした。利用者にも職員にも怪我はなかった。カウンターのパソコンで利用者と地震の情報を見ていた記憶もある。公開書架から落下した本を片付け、夕方には来館者に帰宅を促し閉館とした。」

当館では、上の階にいくほど本の落下が多かった。１階で書架から落ちた本は数冊だったが、４階では書架が倒れた箇所もあった。社史室に利用者１名とともにいた職員１名は心細かったそうである。また、書庫の中にある本も相当数、落下した。書庫の壁面に置かれた木製書架（仮書架）は、倒れた箇所もあった。

電車は止まっていたため、職員は歩いて帰るか、図書館で夜を明かすことになった。

図書館には、十数名の職員が泊まった。その一人は次のように語った。

「夕食は、近くの中華料理屋が開いていたので、そこで食べた。停電はなかったので、館長室のテレビをつけておいた。暖房も動いたので、通常は閉館と同時に切るがつけておくことにした。余震は続き、テレビからは警報の音が頻繁に鳴っていた。女性は館長室で、男性は事務室などで寝ることにした。非常用の毛布があったので、床に敷いたり、椅子の上で寝たりした。あまり寝られなかった。

翌朝、開館するべきか判断がわかれたが、結局、来られない職員も多かったことなどから閉館することにした。朝食は、近くのコンビニで購入した。品数は少なかったが、食べ物は売っていた。

午前中は、書庫で落下した雑誌や本を元に戻していた。前夜、帰宅した職員で、この頃、出勤してきた者もいたので、午後からは、開館することにした。

泊まった職員は、昼前に電車が動き出したので帰宅することにした。途中、昼食を食べた職員たちもいた。電車はとても混んでいた。」

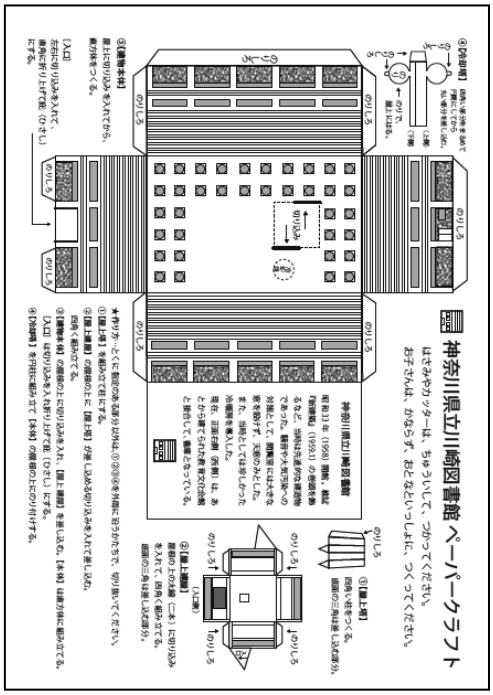
３月 11 日、12 日、当館の電気はついていたが、歩いて帰宅した職員によると「鶴見区内に入ると、すべての電気が消えている場所もあった。真っ暗な幹線道路を歩いた。」という。

震災後は計画停電の実施区域となり、停電が実施された時間は閉館とした。また県内の教育委員会ネットワークサーバー設置地域が停電になるとインターネット環境は使えなくなった。

３階の公開書架（３月 11 日）

新書庫内で倒れた仮書架（３月 11 日）

川崎図書館おもいでカルタ
→司書の出番. “「神奈川県立川崎図書館おもいでかるた」ができるまで”. 神奈川県立川崎図書館. 2017.10.25, https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/recommend/?p=5854.



数年前に作成した建物のペーパークラフトも配布し、好評であった。

館内では、平日の開館時間を９時から 17 時までとし、２時間の短縮をしたほか、展示ケース内の蛍光灯や廊下・書庫などの蛍光灯の本数を減らす、業務用のパソコンの使用は最小限にする、利用者用のパソコン（蔵書検索機）は必要な時だけ立ち上げるなど、さまざまな節電対策をしていった。

また、震災後は書架の耐震補強のため、社史室は休室となった。社史閲覧の申し出があったときには、職員がヘルメットをかぶって取りにいった。工事後も節電への協力から、社史室は 13 時から 17 時の開室としていた。2012 年４月から通常通り９時から 17 時までの開館となった。

13.3 2017 年度のサービス

2017 年度は移転準備のため 10 月１日より段階的にサービスを縮小していった。７月より利用者への周知を開始し、10 月１日からは以下のサービスを休止した。

・１階のビジネス支援室での閲覧（利用できる状態の資料は３階で閲覧・複写は可）。
・貸出・貸出の延長。
・予約・リクエストの受付
・JP-NET、日経テレコンの利用

１階でのサービスを中止する際には、１階入口の自動ドアは内側から布をかけて、サービスをしていない、入室できない、と気がつきやすいようにした。また、電気はつけないなど、利用者が誤って入らないような対策をした（中では、移転の作業を進めていた）。

10 月１日から数日間は、入り口に職員が立って、利用者への案内・説明をしていた。また、地下から電話のコードを引いて内線電話を設置し、階段を登らなくても、説明や対応ができるようにした。

新聞の閲覧、産業安全・労働衛生のビデオの貸出手続きなどは、３階カウンターで行うことにした。そのため、情報検索用のパソコンの台数を減らして新聞架の配置場所を３階閲覧室に設けるとともに、３階カウンターの内に、これらの業務を担当している産業情報課員の座席を配置した。

予約をしている資料を 11 月末日までに準備できない利用者には、メールや電話により、受取を５月の再開館後にするか、受取先を県立図書館に変更するか、取消しをするかの確認を行った。また、当館の所蔵資料の場合は、県立図書館や西口カウンターでの受取を希望している利用者へも、５月までは利用できなくなる旨を、当館から連絡した。担当者は「どのような文面にすればわかりやすく伝えられるのか、とても苦労した。」と語っていた。なお、返却ポストは

２月 28 日まで利用できるようにしていた。

移転前の最後のミニ展示は「川崎図書館のあゆみ」で９月 30 日まで展示していた。これまでの歴史を写真、刊行物、図書館用具などで振り返った。会場では、クイズに答えるとポストカード（白黒で中厚口の紙に印刷した開館前後の写真）をプレゼントした。使わなくなった図書館の目録カードは、会場で「メモ用紙などにご利用ください。ご自由にお持ちください」として配布した。「川崎図書館おもいでカルタ」も作成し、会場で掲示をしたほか、ホームページからもダウンロードできるようにした。

また、開館以来の入館 1,000 万人目が間近に迫っていたため、階段には１段を約５年として開館以来の累計入館者数がわかる数字を表示しておいた。

前日までの累計に基づき 1,000 万人目が見込まれる日時には、職員が入口でカウントをしていた。該当者には入口で声をかけ、館長室で、認定書、当館からの記念品（当館の刊行物、クリアファイル、ポストカード、バッジ）、県からラグビーワールドカップのグッズ、県立の社会教育施設の入場券を贈呈した。

11 月 30 日の最終日、閉室前の館内放送では、「長い間、富士見でありがとうございました」とアナウンスをした。19 時を過ぎ、最後の利用者は、館内や建物の外観を撮影していった。

1,000 万人目の入館者（11 月 22 日）

1,000 万人目の入館者への贈呈品

コラム

2017 年 11 月 30 日（木）19 時、いよいよ富士見の図書館が完全に閉館する時が来ました。幹部職員は全員残り、それ以外の職員も自主的に残っているなど、通常の閉館時よりも多くの人がその時を見届けました。

閉館時間が近づいてくると、既に暗くなってきた入口付近では図書館が 12 月 1 日から休館、移転する旨の掲示など、準備作業がはじまりました。図書館から出てくる利用者の方々に、居合わせた職員がそこここで「ありがとうございました」と挨拶をしていました。帰宅の途につく中にも、振り返って図書館を眺める人が多かったように思います。新聞社の記者がそのうちの１人にインタビューして、その様子は翌 12 月 1 日の神奈川新聞の記事にもなりました。最後の退館者は、忘れ物を取りに館内に戻った方だったと記憶しています。

入口のシャッターが閉まるのを中から見ているその場には、イベントに立ち会う特別感でちょっと興奮したような、寂しいような無事に終わってホッとしたような、不思議な空気が漂っていました。

60 年の歩み振り返る　貴重な写真、刊行物展示　県立川崎図書館．神奈川新聞．2017. 6. 29，朝刊，川崎版.

県立図書館入館１千万人を達成．神奈川新聞．2017. 11. 23，朝刊．川崎版.

県立川崎図書館休館 工都と歩んだ 60 年．神奈川新聞．2017. 12. 1，朝刊.

来館者が帰った後、開館日等の看板を取り外した

第２部　KSP への移転と再開館

第２部は、2017（平成 29）年と 2018（平成 30）年を対象に、移転の作業、そして「ものづくり情報ライブラリー」として KSP での再開館を迎えての出来事を記録した。

1　移転先の決定

1.1　神奈川県の「緊急財政対策」と移転後の図書館のコンセプト（目指すべき図書館像）

県財政再建のために 2012 年 10 月に発表された「神奈川県緊急財政対策」において、当館については県立図書館と生涯学習情報センターとの「機能の純化・集約化を含めた検討」という方向性が出された。その後、県民との意見交換会や市町村立図書館との見直し検討会等の場で存続を望む県民・利用者からの意見や市町村・世論からの要望を受け、更なる検討が行なわれた。

こうした状況から、2013 年２月の県議会において「企業活動の支援につながる機能に高度化・特化して、川崎市内に残す方向で検討」することを教育長が答弁した。更に、12 月の県議会において、「溝の口にある KSP が総合的に見て、適地であるとの判断に至った。」との答弁が知事からなされた。これらの答弁や、市内での産業情報機能の存続という川崎市の意向も踏まえ、移転先については、川崎市高津区坂戸に所在するかながわサイエンスパーク（KSP）とし、当館の強みを活かした企業活動の支援につながる機能に特化することとなった。

国立国会図書館のサイト「カレントアウェアネス・ポータル」に、「神奈川県立図書館および県立川崎図書館の機能集約・廃止等についての検討」（2012 年 11 月８日）が掲載された。
https://current.ndl.go.jp/node/22274.

1.2　KSP における図書館の入居場所の検討

当館が入居した KSP は都市型サイエンスパークであり、誰でも入ることができる西棟と、入居者等の関係者しか立ち入ることができない R&D 棟と東棟の３棟の建物からなる。移転にあたり、十分な保管機能を有し、また、利用者に便の良い閲覧室が設けられる場所を検討した結果、最終的に閲覧室を西棟２階に、書庫を R&D 棟２階に設けることとした。

西棟の閲覧室には、利用者に圧迫感を与えない書架の高さと車椅子の利用者が自由に書架間を移動できること、R&D 棟には書庫スペースの他に事務スペースをとるためのレイアウトを設計し、最終的に、KSP では閲覧室と書庫を合わせて、約 2,500 ㎡の場所を確保した。

かながわサイエンスパーク（KSP）外観

かながわサイエンスパーク（KSP）とは
川崎市高津区坂戸３－２－１に所在。都心から約 20 分圏内という好アクセス、先端企業や研究機関等の高度集積エリアに立地する日本初・都市型サイエンスパークで、敷地面積約 55,000 ㎡、働く人数は約 3,400 名と日本最大級の規模を誇る。
http://www.ksp.or.jp/sciencepark/about/

1.3　移転の準備

2016 年度当初は、KSP へ移転することと新図書館の性格は決まっていたが、2017 年度末とされた移転の詳細なスケジュールは未策定だった。

本格的に移転準備が動き出したのは、2016 年８月からで、KSP の入居契約や改装工事、資料の移転、新規サービスの導入等、様々な手続きと作業を進めていった。

当館の移転・再開館については、複数の文献に掲載されている。ここでは2018年度の文献を挙げる。

古根村政義．“神奈川県立川崎図書館の移転・再開館について”．カレントアウェアネス．E2040，No.350，2018.07.12 http://current.ndl.go.jp/e2040，（参照　2019-07-29）

ジャパンナレッジ．“神奈川県立川崎図書館（１）”．図書館員が気になる図書館．2018-09-11. https://japanknowledge.com/articles/libguide/023.html，（参照　2019-07-29）.

ジャパンナレッジ．“神奈川県立川崎図書館（２）”．図書館員が気になる図書館．2018-09-25. https://japanknowledge.com/articles/libguide/024.html，（参照　2019-07-29）.

古根村政義．県立川崎図書館の移転・再開館について．ものづくり文化．2018，vol．60，no．1，p.21-25.

古根村政義．神奈川県立川崎図書館の移転後の状況について．図書館雑誌．2019，vol．113，no．2，p.86-87.

古根村政義，菅井紀子．ものづくり情報ライブラリー県立川崎図書館～リニューアルオープンまで～．神資研ニュース．2019，no.525，p.1-5.

資料の移転作業としては、移転する資料を大きく３つのグループに分けた。（１）KSP に移転するもの、（２）外部に保管するもの、（３）当館ではない他の図書館等で活用するものの３グループである。そして、2016 年 12 月からは、グループごとの移転場所への移動準備作業を開始し、2017 年５月にはそれぞれの分量を確定し、KSP での書架配置や、資料配架位置等の設計作業を進めた。

併せて、新規サービスとして導入する電子ジャーナル、データベース等については、神資研会員の意見や工業分野の大学が導入しているタイトルを調査し、公共図書館である当館が採用すべき候補をリストアップした。その後、提供各社に連絡し、契約の可否と導入価格の交渉を進めた。

2　サービスの検討

移転にあたって市町村立図書館と県立図書館の役割分担をするためのサービスの見直しを行った。当館の役割として、ものづくりのための技術情報の提供を主柱に、未来に向けた資料として電子ジャーナル・データベースを、現在の資料として規格や専門書を、過去を知るための資料として社史を整理し直した。

2.1　企業等によるものづくり活動の支援につながる高度で特化した機能の検討

ものづくり活動の支援につながる機能として、どのようなサービスを提供するかについての検討を行った。

その中で、大きな２つの課題について検討した。１つ目は、企業等が行うものづくり活動に必要な情報とは何かということ、２つ目は、旧図書館１階で提供していたものづくり技術関連資料以外の資料の取扱いについてである。

2.1.1　必要とされたものづくり情報

資料については神奈川県立図書館と当館とで分担収集しているが、当館の分担である科学技術分野の先端技術に関する情報については紙媒体から電子媒体への移行が他の分野よりも顕著であり、特に、ものづくり技術に関する情報ではその動きが速まっていた。ことに、電気・電子分野の学会誌の約 95%は印刷物としては発行されないボーンデジタルのものになっているといわれていた。

そこで、ビジネスパーソンを含むものづくりに関わる技術者や研究者が必要としている情報にはどのようなものがあるのかを、日頃からカウンターで利用者に接している職員や、来館利用者、先端技術見本市の来場者や神資研の会員にアンケート調査を行った。

アンケートには、社会人になって使えなくなったので困っている等の、個人では導入の難しい電子ジャーナルの導入への期待が多くあった。

60 年史編纂にあたり、移転作業に携わった職員（一部）がコラムを執筆した。それぞれの部署で経験した現場の声が集まった。

2.1.2　ものづくり技術関連資料以外の資料

ビジネスパーソン向けのビジネス書、地域資料、やさしい科学コーナーに配架してあった社会科学や芸術分野等のものづくり技術関連資料以外の資料は、他の図書館へ移管する方向で選別することとした。

そして移転・再開館にあたっては、これまでの閲覧・貸出・レファレンスサービス等の事業を継続しつつ、ものづくり技術関連資料の充実を図り、各種事業を展開していく、「ものづくり技術」を支える機能に特化した専門的図書館として全国的にも例のない特色ある図書館を目指すこととなった。

当館は、移転後の機能として

・製造業等の「ものづくり技術」の高度化や、技術開発をバックアップ
・知的財産に関する支援、知的財産関連業務の（地独）神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）等との連携
・ものづくりに役立つ電子ジャーナル、データベース等の先進的情報の発信

の３つの柱を掲げた。

移転を経験した職員の声（科学情報課）

60 年近い思い出が詰まった写真や物品の整理を行いました。開館式の写真、PR 用のマッチ、手書きの日誌やブラウン方式で使用されていたカードなど、どこか懐かしく、あたたかい気持ちになりました。また、手書きの看板には驚きの展開がありました。美しい文字で書かれた看板を１枚めくると、その下に別のきれいな看板、またその下には、と次々と趣向を凝らした看板が現れたのです。川崎図書館の諸先輩方の素晴らしさを感じた瞬間でした。

移転を経験した職員の声（科学情報課）

川崎図書館の歴史が詰まった文書や写真を整理しました。移転に向けて何とかコンパクトな形にしたいと思いつつも、開館前から残された約 60 年分の膨大な資料を前に、どこから手をつけて良いのか迷うことも…。
かつて図書館の地下にあった食堂の写真やメニューが見つかった時は、感動したことを覚えています。

2.2　５つの機能について

３つの柱を実現するために、閲覧室には５つの機能を持たせることとした。

１　Research　調査

ものづくり技術を支える専門書や社史、特許・規格、技報・学会誌などの科学技術資料と電子ジャーナル・外部データベースによる調査資料

２　Liaison　議論

弁理士・中小企業診断士等の専門家による知財相談・経営相談とグループ討議の環境

３　Conference　交流

ものづくりに関心のある方の異分野・異業種の交流拠点と、ものづくりに関する講座など多様なイベントの開催

４　Study　考究

図書館司書の専門的なレファレンスサービスにより求める情報の

移転を経験した職員の声（管理課）

移転に際して私の最大のミッションは、１年間という限られたスケジュールの中で、移転に係る各種契約と入札事務、移転や工事の作業、購入備品の納品等を、関係部署と連携のうえ、年度内にすべて完了させることでした。図書資料の搬出作業の中には予想以上に時間がかかったものもあり、年度内の完了が危ぶまれるものもありましたが、関係者の尽力により、なんとかミッション完了となりました。

移転を経験した職員の声（科学情報課）

還暦を迎える図書館には膨大の資料の他に、多くの物品が隠れていました。

２階ホール手前の小さい部屋にはパズルのように押し込められたキャビネットが。

「中には何が入っているのか？やけに重いぞ」と言いながら、何とか動かして中を覗くと、昔の司書が書いた「奉仕日誌」が出てきました。今と違い全て手書きで、担当者が書いた事に対し、確認者がコメントを返すという、昭和ならではの記録の取り方や紙の褪せ具合から、県立川崎図書館には多くの司書や職員が携わり、試行錯誤して 60 年間続いてきたのだと思いました。

移転を経験した職員の声（産業情報課）

移転の事前準備は、実際に資料を運び出す前に細かく確認をし、それぞれの資料を移転先の配置毎に並び替え、動線確保のために資料を仮書架に移動する作業の繰り返しでした。通常業務とは違ったものでしたが、その期間に多くの事を学び、図書館業務をする上で貴重な経験になったと思います。

移転を経験した職員の声（資料整備課）

書誌データの変更を膨大に行った記憶があります。図書館の移転はハード面はもちろんですが、ソフト面も大変なのだなと感じたものでした。

書庫で図書の移動作業で沢山の古い本を目にしましたが、中には丁寧に何度も修理を繰り返されてきた本もあり、諸先輩方の気概のようなものを感じました。

入手をサポートし、調査・研究に集中できる閲覧席と Wi-Fi によるインターネット接続環境

５　Inspiration　発想

ものづくりに役立つ入門書・新書・漫画などをリラックスして眺めることで、新たな発想やひらめきが生まれ、価値創造へとつながるゆったりとくつろげる空間

2.3　新たな機能について

2.3.1　電子ジャーナル・データベース

今回の移転で資料面での最大の特色は、公共図書館では全国で初めて IEEE Xplore と Scopus という電子ジャーナル・データベースのポータルサイトを導入し、最先端の学術情報が提供できるようになったことである。電子ジャーナル・データベースは学会誌等のデジタル化に伴い、専門的な技術情報を利用するために欠かせないツールになってきている。

同じ公共図書館である県立の図書館と市町村立図書館の役割分担を踏まえ、県民に必要とされているが市町村立図書館では提供できない資料を提供することが県立の図書館の役割として重要だと考えた。当館ではこれまで収集・蓄積してきた技術・工学系の専門資料、特許・規格関係の資料の延長線上にある資料として、新たに「ものづくり技術」を支える最先端情報に誰でも容易にアクセスすることができる電子ジャーナル・データベースの提供を始めることとした。

電子ジャーナル・データベースを導入するにあたって、導入に要する費用や収録している情報量が多く利用しやすいことと、「ものづくり技術」を支えるという当館の機能に適うものであることを念頭に、事前の利用者アンケート等を参考にして検討した。その結果、人工知能（AI）や IoT（Internet of Things）、ロボット等の分野に関する文献を収録している IEEE のコンテンツと、査読を受けた様々な学術誌の抄録・引用文献を 7,000 万件以上（その中にはオープンアクセス（OA）になっていて本文まで利用できる文献を含む。）収録している Elsevier 社の Scopus を導入することとした。IEEE は米国の公共図書館への導入実績があり、導入の基準が整備されていたため、比較的容易に交渉が進んだ。まずは、来館者が誰でも館内で利用できることと検索結果を印刷（複写）することができる、この２つのコンテンツから始め、利用者の反応をみることとした。今後、利用促進の広報を強化するとともに、利用者のニーズや専門家の意見を参考に、コンテンツの見直しも含めて検討していく必要があると考えている。

2.3.2　各種団体との連携

専門的図書館として当館が所蔵する資料群を活用し、図書館の機能をさらに拡げていくため、各種団体との連携事業を新たに実施した。

これまでは、神資研、一般社団法人神奈川県発明協会、公益社団法人けいしん神奈川、そして、蔵前理科教室ふしぎ不思議（くらりか）と連携して、それぞれ職員研修、発明相談、創業・経営相談、科学普及事業を行ってきた。移転後はこれらの事業の充実に加えて、新たに日本弁理士会関東支部神奈川委員会（2019 年４月より日本弁理士会関東会神奈川委員会）や特定非営利活動法人 NPO ブルーアース等と連携し、知的財産相談、科学普及事業等を行うこととした。また、神奈川県立産業技術総合研究所やハード面とソフト面の起業支援者としての機能を有する株式会社ケイエスピーと当館の三者で行う新たな連携事業について、検討を進め、ものづくり技術を支える企業や産業団体等との連携・協力関係を構築した。さらに、神奈川県立産業技術短期大学校や県立職業技術校等の教育機関との連携・協力も進めた。

2016 年度は重点的な取り組みの一つとして、「移転に向けて、現在の所蔵資料の再整備に取り組む。また、移転作業のスケジュールやサービス計画等を検討するためのプロジェクト・チームを設置し、具体的な検討を行う。」を挙げ、幹部職員を中心に所蔵資料の再整備と移転プランの検討を行った。

2017 年度は重点的な取り組みに「円滑な図書館運営の確保」、「綿密な移転準備と着実な移転作業の実施」、「移転後の専門的図書館に相応しい資料・機能等の検討」を挙げ、それらが実施できるように事業計画が立てられた。2017 年５月以降、プロジェクト・チームの下に中堅職員等によるワーキングチームが組織され、実際的な作業が本格化した。

3　新図書館への移転の実際

今回の移転は、資料を移動する単なる引越しではなく、資料や機能の見直しを含んだ図書館の新設に近い作業であった。移転作業の概要を時を追って見ておく。

2017 年 10 月１日から、移転準備作業のため１階ビジネス支援室の閉室や新規図書貸出の停止など一部図書館サービスの休止を行い、３階科学技術室と４階社史室の２室で利用者対応を行った。また、KSP の西棟２階（閲覧室）及び R&D 棟２階Ｃブロック（事務室・書庫）の賃貸を開始した。

10 月３日から、賃貸エリアの内装及び設備の仕様変更工事を開始し、2018 年１月 31 日に完了した。これに先立ち、原状復帰のための仕様確認を KSP の管理会社である KSPC と行った。

11 月 23 日に、外部書庫の借上げ契約を(株)ギオンと結び、ギオン相模原センター内に図書資料を預け、書庫として利用することとした。

11 月 27 日から KSP での書架設置工事が始まった。まず、R&D 棟の書架設置と、西棟閲覧室に書架を設置するための耐震補強工事から始めた。

12 月１日から KSP への移転準備のためにすべてのサービスを休止する全面休館に入り、移転作業に専念することとなった。また、作業効率を上げるため、職員の変則勤務を中止し、月曜日から金曜

閉室したビジネス支援室の棚や机を使い、資料の並べ直し等を行った

資料の移送には大量の段ボールが必要だった

資料の移転を果たし、空になった書庫

移転を経験した職員の声（科学情報課）

什器の引っ越しが終わった３月最終週、２名ずつ交代で旧図書館で電話当番をしました。

机も椅子もなく空っぽになった事務室での当番でしたが、人はいなくても電話はかかってくるものです。工事関係、職員への取次依頼、利用者の方からの質問等に対応しました。郵便や消防関係の来客もあり、思いのほか多忙な時間であったと記憶しています。

2018 年３月 30 日に、再開館についての記者発表を行った。（「ものづくり情報ライブラリー　県立川崎図書館　５月 15 日に再開館！　～かながわサイエンスパークにてリニューアルオープン～」）

移転を経験した職員の声（資料整備課）

移転の作業で最も印象に残っているのは資料の移動です。他館へ譲渡するものや新たに書庫入れする資料のピックアップと移動、書庫内の別置になっている資料の移動またはそれに伴う書架のずらし込み、業者の方が分かりやすいように資料をまとめる等、その作業を１階から３階にかけて荷物用のエレベーターと人力でひたすら行うことは体力との勝負でした。

日までの平日勤務に変更し集中して作業を行った。

12 月４日から、委託業者による、KSP に移転する図書資料への IC タグ貼付とひもづけデータの書き込み作業を３階閲覧室内で開始した。

12 月 28 日から、図書館用案内サイン・家具の製作業務を開始し、デザイン等を決定し、2018 年１月 19 日に発注した。

１月 22 日から KSP への図書館資料の運び出しを開始し、３月２日には完了した。

３月１日から、KSP 閲覧室内の放送設備や防犯用監視カメラの設置工事等が始まった。

３月５日から、相模原書庫への資料の運び出しを開始した。

３月 22 日から KSP への事務用什器類の運び出しをはじめ、翌 23 日には完了した。この搬出の際に、庁内パソコンの移設も行われた。

３月 26 日に、KL-NET 機器類の移設と設定が行われた。この作業により、旧図書館では業務用端末機が使用できなくなった。また、KL-NET 機器類、事務用什器類や文書類の引っ越しが終了後、各自が自分の荷物の荷ほどきを行い職員の主な勤務場所は KSP になった。４月１日以降でないとオンラインが利用できなかったが、移動した資料や機器の整理などやるべき作業が多かった。

３月 28 日には新たに導入した IC タグを活用したセキュリティゲートの設置と業務システムとの連動の設定作業が行われた。

旧図書館では、３月 31 日までは利用者や移転関係の業者からの問い合わせに対応するために、職員が輪番で電話番をした。これは、KSP に設置した電話番号の利用開始が４月１日からであったためである。KSP との間の電話連絡は、旧図書館の電話と、当館に割り当てられていた緊急用の携帯電話を KSP に持ち込んだものとの間で行った。

３月 30 日には外部書庫への搬入の履行確認も完了し、川崎区富士見地区を離れることとなった。

4　資料の移送

旧図書館にあった 43 万冊相当の資料を３グループに分けた。まず、（1）当館の「ものづくり技術」を支える機能に最も必要な情報を収録している資料は、技術調査や研究開発に役立つ学会誌・講演論文集・技術報告書等の約 8,700 タイトルであると考え、旧図書館にあった雑誌はすべて KSP 書庫に収容することとした。また、ものづくり技術の調査に役立つ基本的なものと新しい情報を提供できる図書を加えた約 28 万冊（換算後）を KSP に、（2）相模原市内に設けた外部書庫には図書約 13 万冊を移すこととした。さらに、（3）（1）

及び(２)以外の資料のうち約５千冊は、横浜市西区の県立図書館と川崎市立の図書館等の市町村図書館で活用してもらうため、移管ないしは譲渡した。なお、相模原市内の外部書庫に保管している図書は、午前中に予約すれば、原則当日の午後４時以降に受け取れる仕組みを構築し、利用者の利便性を確保した。

KSP に移転した資料約 28 万冊のうち、閲覧室に図書約６万冊と雑誌の最新号の一部、書庫に図書１万冊と雑誌 21 万冊相当を保管し利用に供している。

閲覧室に配架している図書には、IC タグを貼付し、貸出・返却や資料点検等の蔵書管理に活用している。

当館の図書資料は従来から大きく５つのグループに分けられている。社史、規格・特許、専門書、コンピュータ・情報クラスタと入門書である。移転にあたって、これまで別置していた和・洋書と参考図書を混配するといった配架方法の変更も行った。また、コンピュータ・情報クラスタは一部見直しを行い、Ａ～Ｅだった補助記号をＡ：情報科学、Ｂ：コンピュータ・システム、Ｃ：プログラミング、Ｄ：データベースその他の各テーマに変更した。

雑誌は、継続受け入れをしている約 2,000 タイトルの中から、よく利用される約 1,000 タイトルの最新号を閲覧室で公開している。これらの雑誌は、他の公共図書館での所蔵が少ないものが多い。

5　新図書館での整備

5.1　図書館設置条例の改正について

図書館が移転するにあたって、条例や規則の見直しを行った。

5.1.1　神奈川県立図書館条例の改正

2017 年 12 月の県議会で、「神奈川県立図書館条例」の改正が行われた。ここでは、第１条の川崎図書館の所在地を変更した。当初名称と目的の改正についても検討したが、名称については、これまでの図書館との継続性を明確にするために変更しないこと、目的については、上位法である「図書館法」の第２条の定義を受けたものであり、現行以上に収集する資料を限定することは、今後の検討事項とした。

5.1.2　神奈川県立図書館組織規則の改正

移転に合わせて運営体制を見直し、事業部門はそれまでの３課体制からサービスを担当する課と資料を担当する課の２課へと組織を再編し、それに合わせて、組織規則第 15 条以下の部課の設置や、各

移転を経験した職員の声（科学情報課）

10 月１日から KSP での再開館までの約７か月間、当館所蔵図書の貸出サービスが停止しました。そのため、９月 30 日までに予約が入った図書について、「予約の取り消し」あるいは「再開館後まで予約継続」のどちらかを選んでいただく必要がありました。

５日間かけて、リクエスト担当２名で約 140 人の方にメールあるいは電話で連絡をしました。無事全員にお伝えでき、ご理解をいただくことができました。

移転を経験した職員の声（産業情報課）

資料の移動とカビ取り、ゴミの分別廃棄の作業に追われた日々が思い出されます。物のない公開や書庫、事務室を見た時の、何とも言えない感じが強く印象に残っています。

移転を経験した職員の声（資料整備課）

地下１階の化学文献室から１階に大量の資料や物品を運ぶとき、階段に等間隔に並び、みんなでバケツリレーのようにして作業をしたことが印象に残っています。

移転を経験した職員の声（産業情報課）

完全休館に先立ち閉室となった１階で所蔵規格現物と HP の所蔵規格資料類リストと書誌データとの突合せを行いました。おおむね一致したのですが見つからないものがいくつか…。書誌データなどを確認したところ、どうやら薄い冊子体の資料のようです。加除式ファイルなどの隙間をパタパタさがし、発見しました。紛れやすい資料は管理が大変です…。

移転を経験した職員の声（資料整備課）

夏の暑い中、雑誌のサイズを測るために書庫にこもったり、午前中に旧図書館で勤務をし、重い荷物を持って午後から KSP に出勤したりと、大変ではありながらも新鮮な経験がたくさんできました。

移転を経験した職員の声（産業情報課）

全面休館した 2017 年 12 月から再開館する 2018 年５月 15 日までは、全職員がカレンダー通りの出勤体制となりました。これまで交代勤務の体制で週末も開館してきたので、長い社会人生活で初めて毎週土日休みが続く、という経験をしました。

閲覧室の窓際に１人１人仕切りで区切られたキャレル席を 24 席設けた。各席には電源コンセントが付いている。

ディスカッションルーム。当館の資料を利用して調査研究を行う企業・団体（２名以上）が利用できる。

課の分掌事務の変更を行った。

４月１日には、2009 年度以来となる専任館長が配置された。また、神奈川県立図書館組織規則の改正の施行により１部３課制（管理課、事業部企画情報課・資料整備課）となり、事業部門の職員は常勤 10 名、再任用・臨時司書・非常勤司書 20 名の計 30 名で管理課と連携して図書館運営を開始した。

5.1.3　神奈川県立の図書館の利用等に関する規則の改正

利用規則では第３条（休館日等）と第４条（利用時間）の２項を変更した。

当館の主な対象としている技術者・研究者やビジネスパーソンが平日に活動していることから、開館日については、月曜日から土曜日までとし、日曜日を休館とした。開館時間は、30 分繰り下げて平日は９:30～19：30、土曜日・祝休日は９:30～17：30 までとした。

5.2　施設について

閲覧室は一般の人が出入り自由な西棟のエントランスから、エスカレータやエレベータを利用して入館できる２階に、スペースを確保することができた。また、閲覧室内は体の不自由な方の障害となるような段差もなく、誰でも利用しやすいバリアフリーの施設となった。

このスペースでは、旧図書館で３フロアに分けて配置していた閲覧室を１フロアで展開することができた。

当館は調査研究目的で来館する利用者の多くが、自分のパソコンを持ち込んで使用することから、電源コンセントが付いている閲覧席を 46 席用意した。この他の座席も含めて、閲覧のための座席は最大 140 席ある。また、調査研究に集中できるように落ち着いた内装と家具を配置し、居心地の良い空間を創った。

そして、利用者用インターネットと外部データベースの扱いについては見直しを行った。館内で利用者が自分の書斎に居るようにして調査研究できるよう Wi-Fi によるインターネット接続環境を提供し、旧図書館で、インターネット検索用に供していたパソコンは電子ジャーナル・外部データベース用に供することとし、15 台用意した。さらに、当館で受入れている学会誌が徐々に電子ジャーナル化している状況に対応するため、ID/PASSWORD の入力の必要のない IP 認証による接続方式を導入した。

そのほか当館では、新たに少人数のグループで議論ができる「デ

ィスカッションルーム」を設けた。当館の所蔵資料を使うことを条件として、８人までの会合ができる。

2018 年度末の施設の概要は次のとおりである。

県の広報誌「県のたより」2018 年５月１日号に川崎図書館の再開館のお知らせを掲載した。

（1）建物

	使用開始年月日	延床面積	所在地
かながわサイエンスパーク（KSP）内			
（西棟）	2017 年 10 月１日	1,308.000 ㎡	川崎市高津区坂戸３丁目２番１号
（R&D 棟）	2017 年 10 月１日	1,182.710 ㎡	同上
相模原書庫	2018 年２月１日	130.305 ㎡	相模原市南区当麻 2650-22
野庭収蔵庫	2003 年４月１日	1,491.840 ㎡	横浜市港南区野庭町 1660
合計		4,112.855 ㎡	

（2）建物の内訳

ア　かながわサイエンスパーク（KSP）

（ア）西棟　鉄骨鉄筋コンクリート造。一部鉄筋コンクリート造

（イ）R&D 棟　　同上

イ　相模原書庫　鉄筋コンクリート造

ウ　野庭収蔵庫　同上

（3）西棟

ア　施設　２階　閲覧室、ディスカッションルーム、知財スポット、カンファレンスルーム、コンサルティングルーム

合計座席数 140 席

イ　収蔵資料（2018 年４月１日現在）

図書　　約 65,000 冊

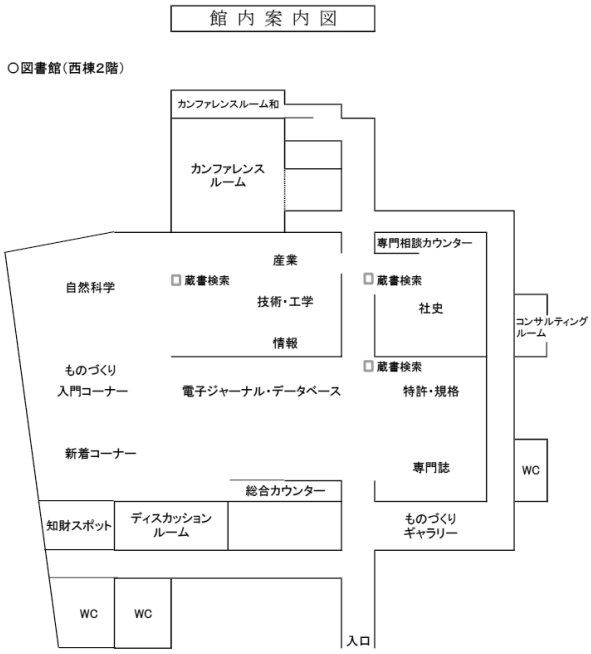
雑誌　　（専門雑誌最新号）約 1,000 タイトル

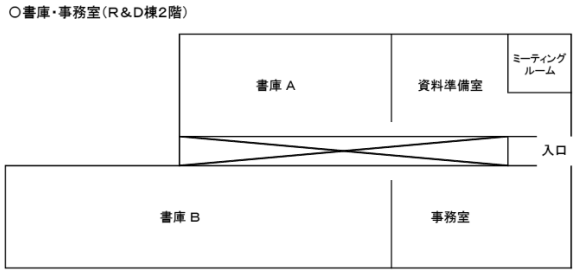
（4）R&D 棟

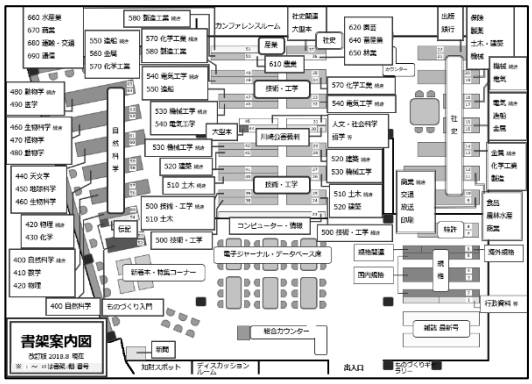
ア　施設　２階　事務室、書庫Ａ、書庫Ｂ

イ　収蔵資料（2018 年４月１日現在）

図書　　約 27,000 冊







書架案内図（2018 年８月現在）

志村計介氏作「林檎」。閲覧室内のカウンター横の壁面に飾っている。当館刊行物「ものづくり文化」第 60 巻第１号（2019）の裏表紙でも紹介している。

雑誌　　洋　　394 タイトル
　　和　6,161 タイトル

（５）　相模原書庫（外部書庫）

ア　施設 ４階　アーカイブセンター内

イ　収蔵資料（2018 年４月１日現在）

図書 約 125,000 冊

（６）　野庭収蔵庫（デポジット・ライブラリー）

ア　施設　北棟３階　事務室　書架（雑誌）

　　北棟４階　書庫（図書・雑誌）

　　南棟４階　書庫（雑誌）

　　計 22 教室

イ　収蔵資料（2018 年４月１日現在）

図書　約　41,000 冊

雑誌　洋　1,780 タイトル

　　和　　328 タイトル

5.3　野庭収蔵庫について

2016 年度までは、野庭収蔵庫には週４日間非常勤職員１名が常駐して、収蔵庫の維持管理や出納・複写依頼に対応していた。

野庭収蔵庫に収蔵している資料については KSP への移転に際して移動する計画はなかったが、総体としての図書館の職員の人員配置を見直す必要があり、外部への委託を含めた検討を行った。2017 年度は、移転のための休館が予定されていたこと等から、休館までの８か月は司書職員が交替で出張して対応した。2018 年度からは、野庭収蔵庫の資料管理と出納業務について司書有資格者を派遣できる業者と契約した。

6　再開館までの準備

2018 年４月１日、当館は、KSP 西棟２階に閲覧室を、R&D 棟２階に書庫兼事務室を整備して移転した。再開館については、2017 年度当初の時点で資料の移転が３月いっぱいかかる見通しとなったため、2018 年４月早々の再開館は難しいと判断した。移転後の運営体制の確立や新たに導入した機器類の取扱いについて習熟する期間も必要であった。当初は６月を予定したが、利用者へのサービスをできるだけ早く再開する方針のもと、連休明けの５月 15 日に再開館することとなった。そして、その前日に、記念式典を行うこととした。

４月９日には、教育長をはじめとした教育局の幹部が移転状況を

視察した。５月 11 日には式典当日のタイムスケジュールに合わせてリハーサルを行い、万全を期した。

6.1　館内の案内板および掲示物

図書館内のレイアウトや設備を分かりやすくするため、案内板や館内サインを設置した。利用者に利用方法を案内するための「利用案内」については、館内配置地図をイラスト化し、特徴や利用方法を紹介したものを作成した。また、移転に際して新たに導入した電子ジャーナル・データベース等の説明、資料配置の案内チラシや書架の見出しは職員が実際に現場で確認しながら作成した。

移転初年は明治 150 周年に当たることから、館内のアクセントとして、県立図書館が所蔵している横浜絵の中から、ものづくり技術の導入を紹介するものとして、「六郷川蒸氣車往返之全圖」と「横濱吉田橋ヨリ馬車道之真景」の２枚の複製物を作成して掲示した。さらに、1958 年 12 月に当館の開館記念のために購入された志村計介氏作「林檎」を引き続き飾ることとした。

6.2　新しい機能の研修

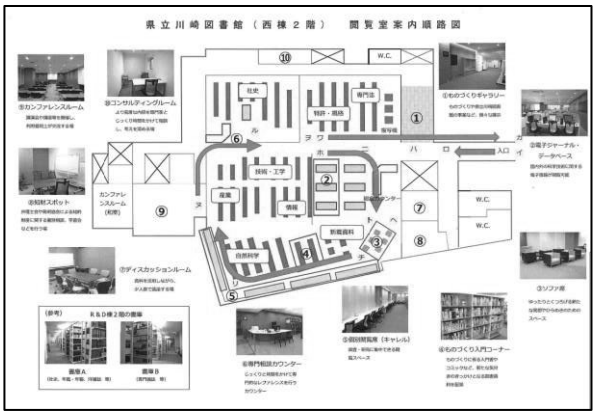
４月に入ると、新たに導入した電子ジャーナルや外部データベースは年間契約であるため利用ができるようになった。５月 15 日までの間に、カウンターに入る職員が電子ジャーナルや外部データベースについて、機器の取扱いや操作方法を習得して、利用者に対応できるようにする研修を行った。４月 10 日には新たに導入した電子ジャーナル Scopus、以後 IEEE や JP-NET、Brand Mark Search と順次全職員が説明会に参加した。この他、IC ゲートの操作方法、IC タグによる貸出返却方法や館内放送システムの研修等を行った。

6.3　内覧会・見学会の準備

新図書館の開館後、多数の見学の依頼が来ることを予測し、案内ビデオの作成や標準的な見学ルートの検討を行った。これは、記念式典後の内覧会で来賓を案内する際にも使用した。

案内ビデオは、旧図書館時代の概要編と新図書館の紹介編の２部からなり、各数分程度のものである。概要編は、1959 年１月の開館から入館者１千万人達成までの記録をニュースフィルムと写真で紹介するものである。また、紹介編は、新図書館で４月になってから撮影した当館の見どころを若手の職員２人が紹介するものになっている。この紹介編は「かなチャン TV」でも見ることができる。

見学コースは、誰でもが見学者に対応できるようにマニュアル化され、見学ルートと見どころを図書館入り口から閲覧室、知財スポ



内覧会・見学会用にルート図を作成した。

案内ビデオ概要編冒頭（旧図書館時代）

案内ビデオ紹介編冒頭（新図書館）

移転・再開館記念式典（2018 年５月 14 日）

テープカットの様子

式典後の内覧会の様子

ット、カンファレンスルームと社史コーナー、そして、R&D 棟書庫の順に特徴や機能を紹介することができるものになっている。

7　再開館

５月 14 日に、移転・再開館記念式典と内覧会を知事及び多くの来賓を迎え挙行し、翌 15 日から再開館した。

7.1　移転・再開館記念式典

移転・再開館記念式典は、KSP の西棟３階 KSP ホールにて５月 14 日 10 時から約 80 名の出席者を迎えて行われた。

まず、主催者として、神奈川県知事、教育長、当館館長からあいさつ、引き続き、来賓の神奈川県議会副議長、川崎市副市長等から祝辞をいただいた。そして、議員や図書館関係者等の招待客の紹介を行い、ホール内でテープカットを行った。テープカットは、図書館入口前で行いたかったのだが、入口前が手狭であったため会場正面に図書館入口の映像を投影しながら、壇上にて知事や副議長等６人で行った。

その後の内覧会は、３分置きに５グループに分けて行われた。待ち時間には、旧図書館時代の概要と新図書館の機能を紹介する案内ビデオを放映した。

7.2　再開館日

５月 15 日、当館は、長年親しまれてきた川崎市川崎区富士見地区から、同じ市内の高津区坂戸にある「かながわサイエンスパーク」内に移転・再開館し、一般利用者の利用に供し始めた。

8 新図書館の概要とサービス

8.1 新図書館の概要

新図書館への移転後、当館の所蔵資料等は KSP（西棟・R&D 棟）、相模原書庫、野庭収蔵庫に分かれることとなった。それぞれの概要は以下のとおりである（数値等は特筆しない限り開館時）。

8.1.1 閲覧室の概要（西棟）

（1）専門図書

旧図書館では貸出をしないレファレンス用資料を他と区別して集めて配架していたが、洋書も含めて請求記号の順に混配とした。自然科学（NDC 分類４門）と技術・工学、産業（５、６門）をそれぞれのスペースに分けて配置。低書架には０～３門、７門以降と大型本等を配架した。空いている部分を展示スペースとし、再開館当初から「川崎図書館の歩み」を展示、さらに川崎公害裁判訴訟記録についても開館当初は雑誌架付近に配置していたが、７月に低書架へ移動した。また情報クラスタについては一部見直しを行い、従来通りの分類にとらわれない配架を続けている。

（2）カウンター及びサービス準備室

メインとなる総合カウンターと、社史付近の専門相談カウンターと２か所のサービスポイントを設けた。総合カウンターに隣接するサービス準備室にはコピー機、出納用 FAX 機、監視カメラやセキュリティゲートに繋がった PC 類、及びカウンター作業に必要な物品があり、職員が電話による問い合わせ等に応じている。

（3）電子ジャーナル・データベース

総合カウンターの前に席を設け、閲覧用パソコン 15 台とプリンタ３台を設置した。

（4）社史

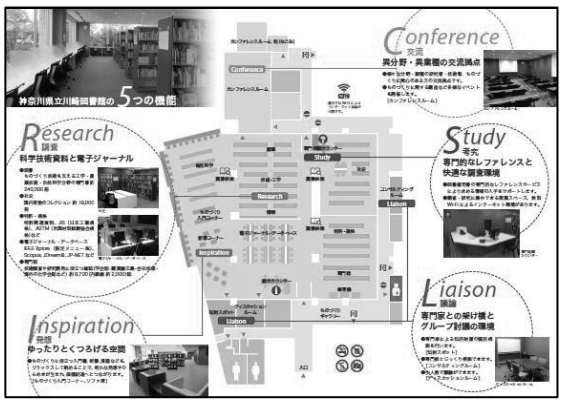
国内有数の１万 9,000 点を超える社史コレクションのうち、旧図書館では社史室に配架していた約１万 4,000 点を配架。社史関連図書についても開館当初は社史に続いて配架していたが、手狭となったため７月に付近の専門図書の書架へ移動した。

（5）特許・規格

旧図書館では１階にあった特許関連資料、JIS（日本工業規格、2019 年７月～日本産業規格）、ASTM などの国内外の規格約 5,500 冊と規格関連資料を配架。移転を機に所蔵する JIS ハンドブックをすべて公開書架に並べた。ほかに県や市の公報類を始めとした行政資料を配架している。推薦図書等の展示も行っている。

（6）ものづくり入門コーナー

ものづくりに役立つ入門図書と、手軽に読める新書シリーズ（ブ



利用案内の館内図

カウンターと閲覧室

書架

ものづくり入門コーナー

雑誌架

入口とセキュリティゲート

カンファレンスルーム

ルーバックス（講談社）、サイエンス・アイ新書（SB クリエイティブ））に加え、コーナー設置時に新たに寄贈で受け入れたものづくりに役立つ漫画を配架している。設置当初は 1,891 冊で始まり、2018 年度末には 2,104 冊（うち漫画 110 冊）となった。

なお、配架順序は、新書と漫画、続いて５～９門、その後に０～４門を並べ、ものづくりに関する図書を前面に出して収集分野をアピールするよう工夫した。

（7）雑誌

所蔵雑誌約 8,700 タイトルのうち約 1,000 誌の最新号を公開し、カバーに IC タグを貼付した。限られたスペースにできるだけ多くの雑誌を公開しようと上下の間隔を詰めたことにより表紙が見えにくくなったため、タイトルを表示したマグネットを書架に貼った。また、利用者からの要望に応えて年度途中から大学紀要類についても最新号を公開するようになった。

（8）閲覧席

開館当初は閲覧席として窓際にキャレル席 24 席、総合カウンター前に 18 席、社史に４席、ほかソファー席を用意し、その後旧図書館に残してきた椅子を予備的に搬入した。また知財スポット、カンファレンスルームなどを空室時に閲覧室として開放し、合計座席数は 140 席となった。キャレル席は将来的に、混雑して申込制や時間制を導入した場合に備え、席番号をあらかじめ付与している。

（9）その他

３台の複写機（１台はカラーコピー可）、閲覧室内に３台の利用者用蔵書検索端末を配置している。

8.1.2 閲覧室以外

（1）エントランス

自動ドアを入ると最初に IC タグのセキュリティゲートが設置されている。右手には「ものづくりギャラリー」があり展示のスペースとなっている。当初は垂直展示ケースのみ用意されていたが、開館後、旧図書館から運んだ覗き型の展示ケースを増設した。可動式の返却ポストは図書館外の廊下へ常設することができないため、開館中は「ものづくりギャラリー」の奥へ収納、閉館時に館外へ移動させる方法をとっている。

（2）カンファレンスルーム

講演会はじめ、各種のイベントの会場となる。収容人数は約 40 名程度と旧図書館のホールより少ない。正面と右手の２面にスクリーンを設置した。以前はホテルの宴会場として利用されていたことから一段高くなったエリアに水場がある特殊な造りになっていて、通

常はロールスクリーンで仕切っている。和室「和（なごみ）」が奥にあり、講師控室などに活用している。

（3）ディスカッションルーム

少人数（最大８名程度）のグループで議論ができる部屋を、２時間ごとの予約制で利用できるようにした。近隣企業等のほか、社史編纂に携わる来館者が所蔵している社史を見ながら検討する際や、「企業関係者と弁理士の知財研究会」などで活用されている。

（4）知財スポット、コンサルティングルーム

専門家による知的財産の個別相談用。コンサルティングルームはさらに機密性の高い相談ができるように用意されている。

R&D 棟書庫

8.1.3　R&D 棟

R&D 棟には事務室及び資料準備室、書庫の機能を備えている。書庫としては雑誌約 6,900 タイトルと年鑑年報・図書合わせて約２万冊を配架。資料準備室のある５スパン（部屋番号 232）側を書庫Ａ（主に社史、年鑑年報、洋雑誌等を配架）、事務室のある７スパン（同 225）側を書庫Ｂ（主に雑誌等を配架）と名付けていて、資料準備室奥には職員打ち合わせ用のミーティングルームがある。また多数の書庫資料の利用に対応できるよう、閲覧席とコピー機を設置している。

出納用カートブックトラックではペデストリアンデッキや１階を通れないために、出納運搬用に買い物カートを導入した。

8.1.4　相模原書庫

KSP 内に収納しきれない図書約 13 万冊を外部書庫で保管している。前章で述べた通り、保管している図書の搬送を開館日全日で行っている。保管受託会社のシステムへインターネット経由で出庫依頼をかけて取り寄せるシステムとなっている。

相模原書庫

8.1.5　野庭収蔵庫

横浜市港南区にある旧野庭高校の校舎を利用して 2004 年４月から引き続き、雑誌及び図書を保管している。

2018 年９月からは派遣職員が宅配便による搬送のある原則火曜日と金曜日の週２回現地で勤務、併せて雑誌整理や維持管理業務にあたっている。この体制が整うまでの移行期間は、当館職員が搬送日に合わせて出張する体制で対応した。

8.2　新図書館のサービス

西棟閲覧室の総合カウンターに常時職員２名、カウンターに隣接するサービス準備室に職員１名が電話対応やレファレンスに備えて

再開館当日の集合写真。真新しいエプロンを着用

期間	展示タイトル	協力	関連講演会
5/15 ｜ 7/11	高津区のものづくり	川崎市高津区役所 まちづくり推進部	「高津区にみる町工場と地域住民の共生」 （遠山浩氏） 「ものづくりを楽しむ」 （伊藤直義氏）
7/13 ｜ 9/12	社史にみる明治150年		
9/13 ｜ 12/12	人とロボットの調和	・川崎市産業振興財団 ・川崎市立川崎総合科学高等学校ロボット研究部 ・株式会社ミラ ・神奈川県産業労働局産業振興課	「パワーアシスト技術の開発」 （山本 圭治郎 氏、内田享子 氏） *同日、ロボット体験キャラバン開催
12/14 ｜ 4/1	人づくりからはじまるモノづくり	かなテクカレッジ東部	「手に、職。」が未来を変える。 （渡邊学氏、加賀江崇氏）

2018 年度「ものづくり展示ギャラリー」での展示

展示「高津区のものづくり」
（会期：2018 年５月 15 日～７月 11 日）
高津区への移転を周知する意味も込めて開館に合わせて行った。
高津区は、川崎市内でも製造業の事業所が多く集まっている区である。この展示では、高津区でものづくりをする企業（KSP 入居企業を含む）について、パネル、当館所蔵の文献、会社案内、借用した一部製品等によって紹介した。

展示「人とロボットの調和」

控えている（平日 17 時 30 分以降は総合カウンターのみ）。このほか、社史スペース付近に専門相談カウンターを設け、開館後しばらくは双方に人を配置する体制とした。しかし初年度は人員不足のために、ほとんど専門カウンターに人を配置できなかった。

R&D 棟には出納要員として２名を配置、書庫出納の対応と R&D 棟で閲覧をする利用者の対応に備えた。R&D 棟の資料出納用にインターネット FAX を導入、書庫内利用申し込み票を西棟サービス準備室から R&D 棟へ送り、出納対応者が西棟へ該当資料を搬送する方式を整えた。当初のシミュレーションでは 15 分毎の搬送を想定していたが、現状では随時運んでいる。通常は袋または出納用カートで２階を通って運び、雨天時は１階を利用している。R&D 棟の地上入口が封鎖される祝日開館日、ブックトラックや台車を使用した運搬には地下の駐車場を経由している。

再開館直前に、館名の入った黒いエプロンが事業部職員の人数分用意され、カウンターに入る時には着用することとした。館名の入ったエプロン姿で KSP の建物内部を移動することも、図書館の存在を周知することに一役買っていると言える。

9　イベント＆広報

9.1　イベント

移転後開催しているイベントには従前から実施していて継続したもの、内容をものづくりに関連付けて実施したもの、新規に始めたものがある。

9.1.1　展示

2018 年度「ものづくり展示ギャラリー」の展示を４期に渡って行い、各期間に関連講演会を開催した。概要は左のとおりであった。開館最初の展示では移転してきた高津区の区役所や企業・大学のゼミに協力を仰いだ。「社史にみる明治 150 年」では展示終了後、県内図書館に希望を募り展示物の貸出を行った。「人とロボットの調和」では、川崎市内で行われた「かわさきロボット競技大会」を職員が取材、出場したロボットも展示した。関連講演会と同日には「ロボット体験キャラバン」も併せて開催した。

館内でも各処で資料を展示している。新着棚（ラック）や低書架の展示に加え、特許・規格付近では産業団体からの推薦図書や連携団体である KSP、KISTEC に関連した資料展示も行っている。社史ではテーマに合わせた資料を、覗き型のケースで随時展示している。

9.1.2　社史関連

従前の「社史ができるまで講演会」からタイトルを「社史編纂サポートセミナー」と変更して回数を引き継ぎ、集英社(６月 13 日)、明治グループ(10 月４日)、京急グループ(11 月 30 日) の３回開催した。このセミナーが社史編纂に携わる人々を対象にしているのに対し、一般利用者向けに、社史を活用した講座「講演会・企業の足跡を知る」を立ち上げた。「東洋製罐グループ創立者の足跡と容器を知る」（９月８日)、「明治の鹿島と神奈川県」(10 月 12 日)、「日本ビール産業とキリンの歴史」（３月９日)の３回を開催した。

旧図書館から継続している社史フェアも開催(７月４～７日)、期間中は前年に刊行された社史をカンファレンスルームに展示して延べ 216 人が訪れた。

社史フェア 2018

9.1.3　ものづくりカフェと理科教室／実験教室など

従来開催してきたサイエンスカフェは、「ものづくりカフェ」と名称を変えることになった。初回は 12 月８日に理化学研究所と共催で開催した。第２回目の２月９日は藤嶋昭氏を講師に迎えたが定員を超える応募があり、抽選を行ったほどであった。

移転前から行っている小学生対象の「子ども科学実験教室」は、名称を「子ども科学実験室」として、引き続きくらりか（蔵前理科教室ふしぎ不思議）の協力により８月 11 日に開催した。新規には NPO ブルーアースの協力により、科学や技術の学び直しの機会として「大人の理科教室」を開催した(10 月 20 日「光を分解してみよう」)。12 月 15 日には「エンジニアに学ぶものづくり仕事講座」を開催した。

ものづくりカフェ

9.1.4　電子ジャーナル、データベースの PR

新規に導入した電子ジャーナルとデータベース普及のための活動を積極的に行った。開館翌日には、新規に導入した IEEE Xplore の活用セミナーを、Alex Liu Yupeng 氏(IEEE)を迎え開催した。急きょ開催が決まり、ホームページでの告知もままならない中、開館作業と並行しての慌ただしい準備となった。「資料の調べ方講座」では Scopus を採り上げた(７月 11 日)。また、職員が講師となってその場で参加者を募ってデータベース席で利用者が PC を操作しながら行う「電子ジャーナル活用講座」と称した Scopus、IEEE Xplore のショートセミナーを８月から開始し、延べ 10 回を開催した。年度後半には「電子ジャーナル・データベースを使いたおす！講座 in 県立川崎図書館」を２回開催(２月 23 日、３月５日)。館内で利用できるタイトルを数多く紹介した講座には多数の申し込みがあった。

IEEE Xplore 活用セミナーポスター

かわさきサイエンスチャレンジ：チラシとふせん

テクノトランスファーの様子

PR ポスター

9.1.5　知財関連

連携事業の一端として、新たに日本弁理士会関東支部（2019 年度からの名称は日本弁理士会関東会）との連携により「企業関係者と弁理士の知財研究会」を開催した（９～３月の４日間、全８回　於ディスカッションルーム）。これは企業関係者と弁理士が知財に関する文献の輪読と意見交換を行う研究会である。継続事業としては「図書館で学ぶ知的財産講座」を２回開催した(2 月 26 日、3 月 12 日)。各団体との連携では「知財セミナー」(神奈川県立産業技術総合研究所主催；12 月 18 日、日本弁理士会関東支部と連携；1 月 30 日)、関東経済産業局主催「戦略的知財マネジメント促進事業 知的財産セミナー」（12 月６日）を開催した。

このほか 12 月１日には県立川崎図書館・市立中原図書館共催で合同見学会を開催し、午前中は中原図書館、午後は当館とした。館内整理日に KSP 入居企業を対象とした見学会も開催した。

9.1.6　KSP 内イベントとの連携

KSP 内で行われた「テクノトランスファーin かわさき」（主催：公益財団法人神奈川産業振興センター、神奈川県、川崎市　７月 11～13 日）では、図書館としてブースを出展、ポスターを掲示し、利用案内やチラシ類を配布して図書館の PR に努めた。

夏休みのイベント「かわさきサイエンスチャンレンジ」では開催中の８月４日、知財スポットに理科実験などの入門用図書を揃え、西棟入口で図書館を案内するチラシを配布、持参して来館した人に特製オリジナルふせんを配るなど、KSP 内で図書館の存在をアピールした。

9.2　広報

9.2.1　新図書館の周知

当館が高津区へ移転したことを周知するために、関連機関や大学・高校などの近隣教育機関へ館長、副館長、部長等が挨拶回りを行った。また図書館の PR ポスターを作成して各機関へ配布した。デザインを手塚プロへ依頼、お茶の水博士と鉄腕アトムを配置した図柄となった。キャッチフレーズ「新しい技術はここから」は館内で職員募集した案をアレンジして決まったものである。

開館当初、KSP 館内には図書館への案内がほとんどなく、図書館の場所が分からず迷う人が多く苦情もあった。これには館内において看板等の掲示を制限するという KSP の方針もあったが、県民利用施設であることを踏まえ、KSP 内での了解を得て図書館への廊下曲

がり口の既存の表示への追記、エスカレータの上と下の案内板への記載、地下の駐車場の表示など、各処に徐々に案内表示を充実させていった。同様に、武蔵溝ノ口駅／溝の口駅からバス乗り場への案内も作成して来館者の利便を図った。

9.2.2　KSP 内における広報活動

各種イベントや図書館周知のための広報も旧図書館とは大きく異なり、開館当初は手探りの状態であった。KSP 内部への広報は機をとらえて積極的に行っており、入居企業等に配信されるメールマガジンへイベント告知掲載の依頼を随時行い、また KSP 入居企業が参加している「KSP 交流会」主催のランチセミナーでは新会員のひとつとして事業紹介を行った(2019 年２月 26 日)。

9.2.3　その他の広報活動

開館式典で流した当館の紹介動画は前述のとおり「かなチャンTV」にもアップされたが、ほかにも電子ジャーナルの紹介動画を作成、アップしている(2019 年３月～)。

9.2.4　館報等

旧図書館で刊行してきた「科学 EYES」について見直しを行った。タイトルは「科学 EYES」の前誌である「京浜文化」になぞらえ「ものづくり文化」とし、巻号を継承して刊行することになった。再開館を記念して「ものづくり情報ライブラリー神奈川県立川崎図書館に期待すること」と題し、藤嶋昭氏をはじめ当館にゆかりの人々へ執筆を依頼した。

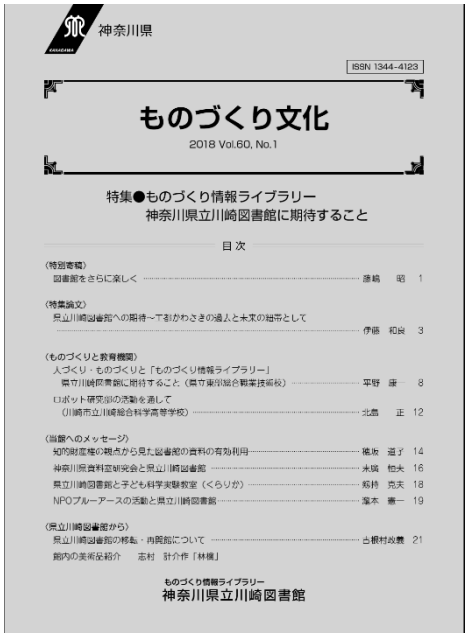
9.2.5　ホームページ等における広報

移転休館の期間中は川崎図書館のホームページを閉鎖していた。再開館に当たり、ホームページの大幅な変更を行った。開館後もコンテンツの充実を続け「すごい社史」(８月)、「ものづくりのための新着情報」(11 月)などのページを開設した。「ものづくりのための新着情報」は、新着の所蔵資料を、社史以外でもアピールするために始めたものである。また旧図書館から公開していた「バーチャル社史室」についても新図書館で撮影し直し公開した(１月)。

さらに３月には公式 Twitter「社史フェア・神奈川県川崎図書館社史情報」のアカウントを開設。県立２館共通の「クリッピング」と異なり、社史に関連する事柄に特化した情報発信を、目的としている。

駅前の案内表示

＜KSP 内のポスター掲示＞
KSPC へ申し出た上、次の箇所へ掲示を行う。
①KSP のエレベータ内（全 16 台）②R&D 棟１階有孔ボード③シャトルバス内
バス内掲示以外は貼付及び、期間終了後の撤去も職員が直接行う。


神奈川県

ISSN 1344-4123

ものづくり文化

2018 Vol.60, No.1

特集●ものづくり情報ライブラリー
神奈川県立川崎図書館に期待すること

目次

（特別寄稿）
図書館をさらに楽しく …… 藤嶋　昭　1

（特集論文）
県立川崎図書館への期待～「初かわさきの過去と未来の紐帯として …… 伊藤　和良　3

（ものづくりと教育機関）
人づくり・ものづくりと「ものづくり情報ライブラリー」
県立川崎図書館に期待すること（県立東部総合職業技術校） …… 平野　康　8
ロボット研究部の活動を通して
（川崎市立川崎総合科学高等学校） …… 北島　正　12

（当館へのメッセージ）
知的財産権の視点から見た図書館の資料の有効利用 …… 橋坂　道子　14
神奈川県資料図書研究会と県立川崎図書館 …… 米岡　恒夫　16
県立川崎図書館と子ども科学実験教室（くらりか） …… 鈴持　克夫　18
NPO ブルーアースの活動と県立川崎図書館 …… 塩本　善一　19

（県立川崎図書館から）
県立川崎図書館の移転・再開館について …… 占部村改貴　21
館内の美術品紹介　志村　計介作「林檎」

ものづくり情報ライブラリー
神奈川県立川崎図書館

「ものづくり文化」

ものづくり発信へ刷新　県立川崎図書館の館報.
神奈川新聞. 2019.4.10,　朝刊, 川崎版.

第３部　富士見での記録

第３部は、1958（昭和 33）年から 2017（平成 29）年を対象とし、竣工・開館以来の川崎区富士見での図書館の記録を、移転に際して発見・整理した記録や図版などで紹介した。

1　開館前後 （1958～1959）

①

②

⑤

③

④

⑥

①・②館屋竣工・開館当時の外観

鉄骨鉄筋コンクリート造で、地上4階、地下1階。当時としては近代的な設備を持つ建物であった。

③・④商工資料室(4階)開室

1959（昭和34）年5月15日に開室。特許公報類、JIS、商工人名録、関税表、社史及び沿革資料、全国の電話帳、企業の製品カタログなど約1,000冊余の商工業資料を公開した。

⑤屋上

ガラスブロックによるトップライトは、閲覧室からみると天窓となっていた。塔屋の下層は休憩室、上層は排気室となっていた。

⑥神奈川県立川崎図書館発足時の職員

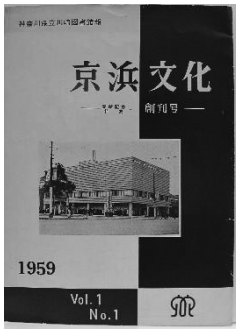
⑦

⑧

⑨

⑩

⑪



⑫

⑬

⑦落成開館式挙行

1958（昭和33）年12月20日（土）、国立国会図書館長をはじめとする来賓の臨席のもと、神奈川県立川崎図書館落成開館式が行われた。

⑧開館当時の図書館パンフレット

⑨・⑩開館後　長蛇の列

席が空くのを待ち、館外まで行列が続いた。入館できずにあきらめて帰る人も多数いたという。当時はまだめずらしかった冷暖房設備なども、その人気に拍車をかけていた。

⑪開館当時の閲覧室　（3階）

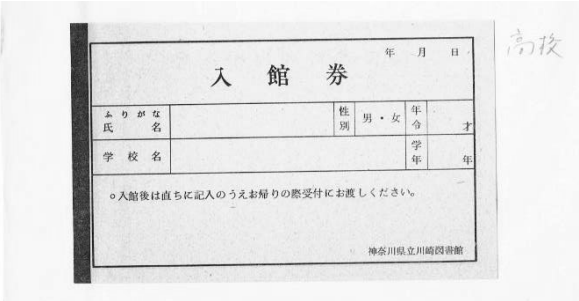
⑫館報「京浜文化」創刊　⑬「京浜文化」1号の中ページ　1959（昭和34）年6月

開館から数か月後の1959（昭和34）年6月、館報「京浜文化」を創刊。当初は図書館活動のPRに重点を置いていたが、1960（昭和35）年度以降は、京浜工業地帯という立地を意識し、地域が抱える問題点を取りあげていった。1998（平成10）年のリニューアル開館を機に、「科学EYES」と改題した。

2　昭和30年代

①

②



年　月　日

入　館　券

ふりがな 氏　名		性別	男・女	年令	才
学　校　名				学年	年

○入館後は直ちに記入のうえお帰りの際受付にお渡しください。

神奈川県立川崎図書館

③

④

⑤

⑥

①・②地下食堂営業開始　1959（昭和34）年頃

座席数は約40席。階段奥のガラスケースの中に、いくつかのメニューの食品サンプルが見える。図書館への入館待ちの行列に並ぶ学生たちが退屈になり、食堂の胡椒を持ち出して3階から階下へふりかけるいたずらまでおきた。

③入館券　1959（昭和34）年頃

利用には入館券が必要で、社会人、大学、高校の3種があった。当初は館内閲覧のみで、館外貸出は行っていなかった。

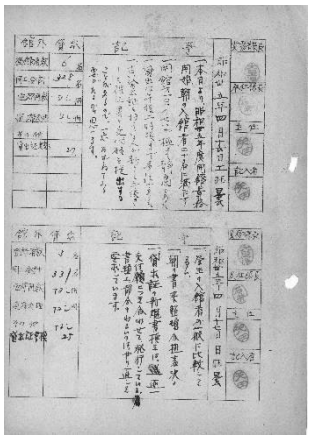
④第1回レコードコンサート　1959（昭和34）年5月

第1回レコードコンサート開催。毎月2回、土曜日または日曜日の午後開催した。毎回、音楽ファンで満員となった。

⑤展示会「アメリカ児童絵画展」　1959（昭和34）年7月

第1回展示「アメリカ児童絵画展」開催（7月30日まで）。以後一般文化展示開催。

⑥展示会「保存食料品工業展」　1960（昭和35）年10月



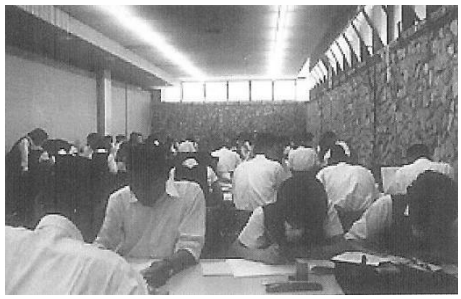
⑦

⑧

⑨

⑩

⑪



⑫

⑦奉仕日誌　1960（昭和35）年4月

当時の日報。カウンターでのサービスの様子が記録されている。

⑧・⑨小中学生室（1階）　1959（昭和34）年頃

専任の館員を配置し、「読書ノート」の作成等きめこまやかな活動を行った。また、1961（昭和36）年4月から1965（昭和40）年度まで、学生たちによる図書委員制度を設け、図書館業務の体験をした。

⑩「れふぁれんす」　のパンフレット　1962、1963（昭和37、38）年

レファレンス（調査・相談）の案内。電話や手紙でも相談できることが書かれている。

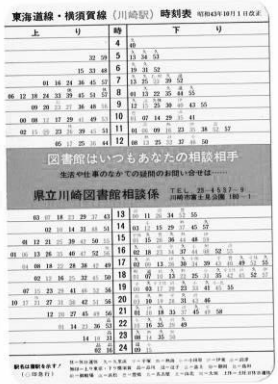
⑪展示会「三菱重工業美術展」　1959（昭和34）年10月

⑫学生室と改称　1962（昭和37）年

1階の「展示室」を「学生室」と改称。展示期間以外は自習の場としても活用した。

3　昭和40年代

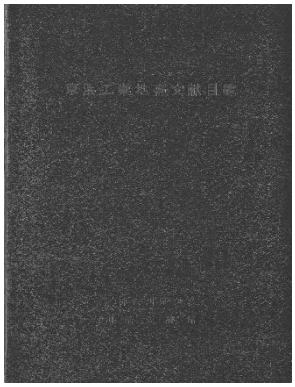
①



②

③

④



⑤

⑥

⑦

①・②レファレンスPR用マッチ・川崎駅時刻表（図書館のPR活動）　1960～1970（昭和35～45）年頃

マッチや時刻表、カレンダーを作って図書館のPRに努めた。マッチにはレファレンスの事例を載せている。

③書庫の増設　1967（昭和42）年頃

当時の川崎市産業文化会館側（西側）に書庫を増設した。

④リクエストカード　1969（昭和44）年頃

リクエスト・サービスを試行開始した。

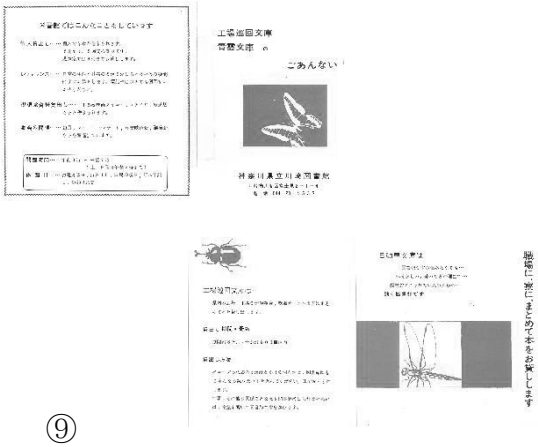
⑤京浜工業地帯文献目録　1966（昭和41）年3月

所蔵資料以外も対象とした経済・産業関係の総合的地域文献目録。1974（昭和49）年には増補版を、1984（昭和59）年には同目録の第2集を刊行している。

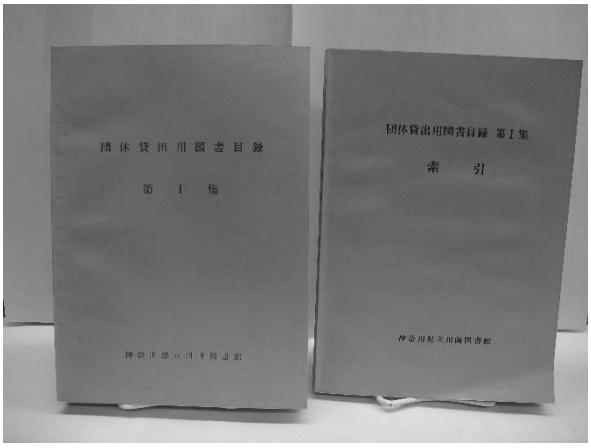
⑥・⑦1階「小中学生室」を「親子図書室」と改称　1974（昭和49）年頃

団体貸出専用車　配本風景

⑧



⑨



⑩

⑪

⑫

⑬

⑧・⑨団体貸出専用車、工場巡回文庫の配本開始と（青雲文庫含む）利用案内　1967（昭和42）年

1961（昭和36）年から団体貸出を実施。県内の会社・工場及び職場サークルを対象に活動していた。1967（昭和42）年度からは団体貸出専用車が配車され、工場巡回文庫として、サービス地域を拡大した。

⑩「団体貸出用図書目録」、「同索引」　1969（昭和44）年

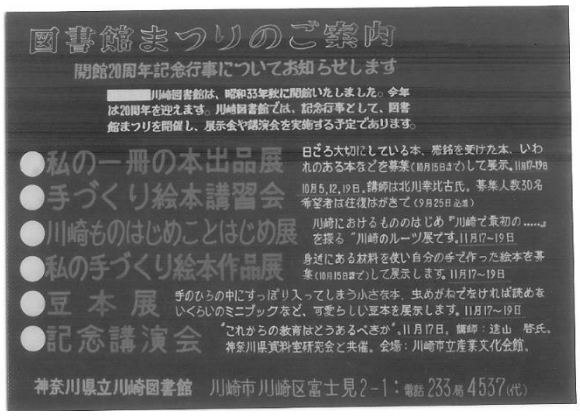
⑪・⑫「青雲文庫」開設　1970（昭和45）年8月18日

働く青少年を対象に、移動図書館「青雲文庫」（青雲号）の巡回貸出を開始。「青雲の志」（立身して社会に尽くそうとする志望）をいだく働く青少年のため、という意味を込めての命名だった。

⑬「話題の本棚」創刊　1970（昭和45）年頃

4　昭和50、60年代

①



図書館まつりのご案内

開館20周年記念行事についてお知らせします

[redacted]川崎図書館は、昭和33年秋に開館いたしました。今年は20周年を迎えます。川崎図書館では、記念行事として、図書館まつりを開催し、展示会や講演会を実施する予定であります。

●私の一冊の本出品展　日ごろ大切にしている本、思銘を受けた本、いわれのある本などを募集（10月15日まで）して展示。11月17~19日

●手づくり絵本講習会　10月5,12,19日。講師は北川幸比古氏。募集人数30名　希望者は往復はがきで（9月25日迄）

●川崎もののはじめことはじめ展　川崎におけるもののはじめ"川崎で最初の……"を探る"川崎のルーツ展"です。11月17~19日

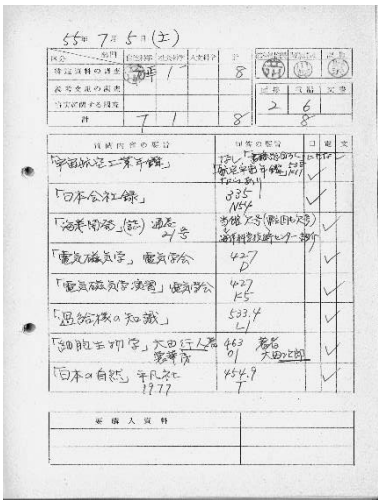
●私の手づくり絵本作品展　身近にある材料を使い自分の手で作った絵本を募集（10月15日まで）して展示します。11月17~19日

●豆本展　手のひらの中にすっぽり入ってしまう小さな本、虫めがねでなければ読めないくらいのミニブックなど、可愛らしい豆本を展示します。11月17~19日

●記念講演会　"これからの教育はどうあるべきか"。11月17日。講師：辻山　啓氏。神奈川県資料室研究会と共催。会場：川崎市立産業文化会館。

神奈川県立川崎図書館　川崎市川崎区富士見2-1：電話233局4537(代)

②



③

④

⑤

⑥

⑦

①「手づくり絵本の会」 1978（昭和53）年頃

開館20周年記念行事で開催した手づくり絵本講習会の受講者を中心に「手づくり絵本の会」が発足した。写真は展示会の様子。

②開館20周年記念行事　1978（昭和53 ）年

開館20周年記念「図書館まつり」開催。11月17日～19日の3日間開催した。「川崎もののはじめ・ことはじめ展」や「豆本展」などの行事を催し、多くの来館者が訪れた。

③ 参考奉仕日誌　1980（昭和55）年

レファレンス・サービスの質問事例などを記録した日誌。1959（昭和34）年より、1986（昭和61）年3月まで続けられた。

④ 新図書館号　1980（昭和55）年

26人乗りのバスを改造した新しい青雲号。外装書架に1,000冊、内装書架に800冊を積みこむことができた。

⑤・⑥・⑦館内の様子　1982（昭和57）年頃

1階「一般図書室入口付近」、「一般図書室」、「こども室」の様子。バリアフリー化の改修工事をし、1階には一般図書室、こども室を設置。3階は科学技術資料室、4階は特許資料室と室名を改称した。

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑧県民アカデミー「情報マン養成講座」 1983(昭和58)年

⑨・⑩ファクシミリ、パーソナルコンピュータを導入 1984(昭和59)年

図書館資料の提供手段としてファクシミリを導入した。1985年からファクシミリによるサービスを本格実施。

⑪・⑫仮設図書館 1985(昭和60)年9月

空調・照明設備の老朽化と屋上からの雨漏り防止のため関係設備の全面的な改修工事を行い、その間プレハブ2階建の仮設図書館を富士見公園に設置。9月27日より開館し、閲覧、貸出等のサービスを実施した。整理業務や視聴覚資料業務は富士見児童プール管理棟にて行った。(翌年3月23日まで)

⑬ 社会教育施設講座「植物を描く」 1987(昭和62)年

⑭ ミニ展示「花絵押花」 1988(昭和63)年

5　平成10年まで

①

②

③

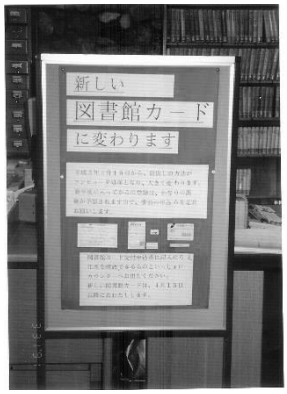
④

⑤

⑥

⑦

⑧



⑨

①・②・③・④・⑤30周年記念式　1989（平成元）年

オープン当初、約1万6千冊だった蔵書は、30周年を迎え、21万冊余となった。30周年を機に看板が新設され、講演会等、各種の行事も行われた。

⑥記念展示「メディアワンダーランド」　1989（平成元）年1月

開館30周年記念展示「メディアワンダーランド～くらしと情報機器」では、最新のOA機器類を紹介。データベースやCD-ROM、コードレスホンなどの体験コーナーを設けた。

⑦特許資料室（4階）　1989（平成元）年

⑧・⑨ブラウン方式貸出（1階カウンターにて）終了　1991（平成3）年

平成3（1991）年4月16日、KL-NETの稼働により、カウンターでの貸出、返却も電算化された。写真は、終了したブックカード＋袋状の貸出券を利用する方式（ブラウン方式）での貸出の様子。

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

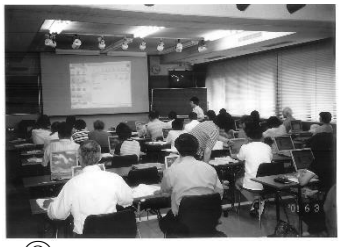
⑩おはなし会　1990（平成2）年頃
⑪ミニ展示「チューインガムの包み紙」 1993（平成5）年
⑫・⑬・⑭・⑮・⑯リニューアル開館　館内の様子　（⑫・⑬3階・⑭2階ホール・⑮・⑯1階）
1998（平成10）年4月16日

「科学と産業の情報ライブラリー」としてリニューアルオープンし、レイアウトが大幅に変更された。2階ホールでは「リニューアル開館記念式典」が開催された。1階閲覧室に特許公報類、規格などを配置。3階の一部の分野には、日本十進分類法にとらわれないクラスタ配置を導入した。4階は「特許閲覧室」から「社史閲覧室」となり、書庫内にあった社史を公開した。

６　科学と産業の情報ライブラリーとして

①

②



③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

①ITコーナー（1階）

②・③IT講習会　2001（平成13）年

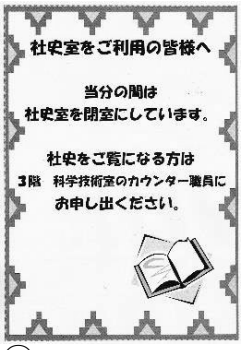
インターネットによる情報収集支援や、コンピュータリテラシー向上の便宜を図るため、14台のパソコンを1階閲覧室に設置。講習会なども実施した。

④・⑤ミニ展示「記録メディアいま・むかし」 2001（平成13）年2月

⑥・⑦・⑧科学技術系外国語雑誌「デポジット・ライブラリー」開設　2004（平成16）年4月15日

横浜市港南区の生涯学習文化財課収蔵センター内に、科学技術系外国語雑誌を収めた「デポジット・ライブラリー」を開設。開設当初は490タイトルであった。

⑨・⑩図書館探検ツアー開催の様子（⑨2階ホール・⑩書庫）　2008（平成20）年



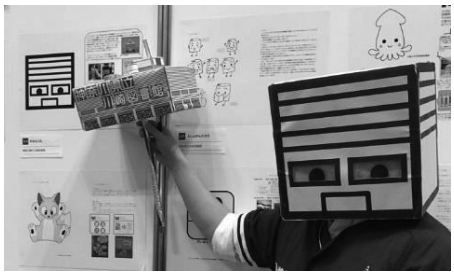
⑪

⑫

⑬

⑭

⑮



⑯

⑰

⑱

⑪東日本大震災　2011（平成23）年　社史室の一時閉室を知らせるポスター

3月11日の東日本大震災発生後、安全性確保のための工事が終了する6月まで社史室を閉室し、7月以降は節電のため午後のみの開室とした。（翌年3月まで）

⑫・⑬・⑭ミニ展示　2013、2014（平成25、26）年

「図書館空港　空を飛ぶ技術」、「読む　知る　感じる　夢見ヶ崎動物公園」、「かわさき区のたからもの」を開催。

⑮社史フェア2014（初開催）　2014（平成26）年

前年に刊行された社史を集め展示を行った。2014年以降毎年続いている。

⑯かわとくん　2015（平成27）年11月

第17回図書館総合展の第1回図書館キャラクター・グランプリにおいて、「かわとくん」のかぶり物を作製し、会場内でPRを行った。

⑰社史フェア出張開催「社史フェア in 渋谷」　2016（平成28 ）年7月

⑱移転前の最後のミニ展示「川崎図書館のあゆみ」　2017（平成29）年

神奈川県立川崎図書館 60 年史

2019 年 11 月 21 日　発行

編集兼
発行人　　神奈川県立川崎図書館　　館長　堀端　保聖

川崎市高津区坂戸３丁目２番１号
KSP　R&D 棟　C-225　（〒213-0012）
TEL：(044) 299-7825（代表）
FAX：(044) 322-8878

印　刷　　株式会社 野毛印刷社

移転前（2017年）

移転後（2018年）

神奈川県

神奈川県立川崎図書館
川崎市高津区坂戸3丁目2番1号 KSP R&D棟 C-225 〒213-0012
電話（044）299-7825（代表）